

テヲ兵役年限ト定メ來リシカ千九百七年一月ニ至リ之ヲ改正シ當國ノ男子ニシテ僧侶及身體不健康者ヲ除クノ外悉皆二十歳ヨリ五十歳ニ至ル間陸軍兵役ノ義務ニ服セシムルコトトナリ之ヲ左ノ如ク區別セリ

- 二十歳ヨリ五箇年間 現 役
- 二十五歳ヨリ五箇年間 普通豫備役
- 三十歳ヨリ十箇年間 非常豫備役
- 四十歳ヨリ十箇年間 地方守備兵役

現役ハ入營後一箇年間に在營セシメ殘餘ノ年限ハ歸休兵トシテ地方ニ歸ラシメ毎年三十日間ノ教育召集ヲ行フ
普通及非常豫備役ハ平時在郷豫備兵トシ年々十二乃至二十日間ノ演習召集ヲ受ケ戰時動員ニ際シテハ野戰軍ノ充員トナリ或ハ特設部隊ノ要員ニ充當ス
地方守備兵役ハ演習召集ヲ受クルコトナク唯戰時事變ノ際各地方ノ廳令ニ從ヒ當該地方ノ豫備軍トナリ地方ノ守備ニ任スルモノナリ
當國ノ兵役ハ國民皆兵制ナリト雖モ納金ノ多少ニ依リ兵役ノ全部又ハ一部ヲ免

除スルコトヲ得ルノミナラス其ノ職業ノ種類ニ依リテモ尙ホ兵役ヲ免ルルコトヲ得例ヘハ政府ト某契約アル私立會社ハ概ネ免役ノ特典アル如キ是ナリ蓋シ軍事上ノ著眼ヨリ觀察スルトキハ國民皆兵ノ實ヲ擧ケスシテ大ナル弊害ヲ有スト雖モ當國ノ如キ國情ノ發達不十分ニシテ人口寡少且殖産工業ノ獎勵ヲ必要トスル現況ニアリテハ勢ヒ止ムヲ得サル所ナル可シ南米諸國中皆兵義務制度ヲ比較的嚴格ニ勵シツツアルハ智利及亞爾然丁ノ兩國ノミ
右ノ外志願兵アリ即チ滿十七歳若クハ十八歳ノ男子ハ志願ニ依リ二箇年三箇月現役ニ服スルコトヲ得

第四節 平時編制及平時兵力ノ大要

千九百五年ニ於ケル常備兵數左ノ如シ

- 歩兵五大隊(一大隊ハ四中隊) 約一、五〇〇人
- 國境守備兵約三大隊(獨立中隊又ハ若干ノ小部隊ニ分屯シテ大隊ニ編成セス) 約九〇〇
- 騎兵一聯隊(三中隊) 約三〇〇

山砲一聯隊(二中隊ニシテ一中隊ハ四門) 約二〇〇
屬部 約一〇〇

計 約三〇〇〇

而シテ千九百九年度マテニ於ケル軍備充實ヲ計畫ニ基キ擴張セララル可キ部隊左
ノ如シ

歩兵三大隊

騎兵一聯隊

野砲兵一聯隊

山砲兵二聯隊

第五節 兵器及軍馬

小銃ハ獨逸式「モーゼル」式ニシテ一切獨逸國ヨリ購入シ既設山砲二中隊ノ内一中
隊ハ「クルップ」他ノ一中隊ハ「カネー」式ナリト雖モ早晚悉ク佛國ノ「カネー」式ニ改正ス
ル計畫ナリ

軍馬ハ當國ニ産セス依テ大部ヲ智利、一部ヲ亞爾然丁國ヨリ購入ス戰時ニ於テモ
亦然リ

第六節 教育及學校

(イ) 陸軍士官學校

千九百五年士官學校條例ヲ改正シ十六歳ノ青年ニシテ入學試験ニ合格シタル者
ヲ採用シテ生徒トナシ四年ノ課程ヲ經タル後ハ之ヲ少尉ニ任命ス兵種ノ區別ハ
卒業當時ノ成績及諸種ノ技能ヲ參酌シテ之ヲ決定シ毎年二十五人ヲ採用ス

(ロ) 陸軍大學校

陸軍大學校ハ千九百六年ノ創設ニ係リ各兵科ノ中尉ニシテ一回ノ試験ニ合格シ
タル者ノ中ヨリ毎年十人ノ學生ヲ限リ入學ヲ許可ス

(ハ) 陸軍下士學校

千九百七年ノ改設ニ係リ其ノ目的ハ陸軍各兵科ノ伍長ヲ養成スルニアリ卒業期
ヲ一箇年ト定ム

此ノ外司令部將校及團隊指揮官養成ノ爲メ毎年一回參謀旅行演習ヲ行ヒ且又一
年一回國境守備兵ヲ除ク他ノ諸隊ヲ集メテ大演習ヲ施行ス

第七節 要塞及諸廠

隣邦ニ對スル國境要塞ノ設備ナシト雖モ印度蠻族ノ襲來ヲ防遏スル爲メ左ノ各
處ニ舊式小要塞アリ

カイサ (Caixa)

クレヴオー (Crevantx)

キハロ (Quijarro)

ヤクイバ (Yacuba)

ムリリヨ (Murillo)

砲兵廠ノ設備ナク唯、首府ラバヌニ兵器庫、オルル及ポトシニ同支庫アルノミ

第八節 戰時編制及戰時兵力ノ大要

一 平時ノ歩兵一大隊ハ動員ニ際シ四中隊編成ノ三大隊ニ擴張シ以テ一聯隊ニ
編成ス

二 騎兵聯隊ノ編制ハ平時編制ト異ナラス

三 平時二中隊編成ノ山砲及野砲ノ各聯隊ハ動員ニ際シテハ三中隊編成ニ擴張
ス

戰時國軍ノ全部ヲ以テ編成ス可キ野戰一師團ハ左ノ如クナル可シ

師團司令部

步兵三旅團(步兵三聯隊、山砲一聯隊、彈藥一縱列及衛生隊一隊ヨリ成ル)

騎兵二聯隊

野砲兵一聯隊

師團彈藥一縱列

師團衛生隊一隊

而シテ開戰ノ當初ニ當リテハ其ノ兵力僅少ナル可シト雖モ千九百七年改正ノ徵
兵令ニ依ルトキハ二十歳乃至五十歳ノ男子總數ハ少クモ八萬八千人ヲ算スルヲ

「キリビア」共和國 第二章 陸軍

以テ開戦後若干時日ノ後ニ至ラハ漸次其ノ兵力ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

「ホンヂウラス」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ホンヂウラス」國ハ中米中部ニアル共和國ニシテ其ノ憲法ハ千八百三十九年一月十一日制定セルモノナリ立法行政及司法ノ三權ヲ分立セシメ立法權ハ議會之ヲ掌リ行政權ハ大統領之ヲ掌握ス
議會ハ一院ニシテ議員四十二名ヨリ成リ各議員ハ四年ノ任期ヲ以テ一般人民ヨ

リ選舉ス

大統領ハ四年ノ任期ヲ以テ一般人民ヨリ選出シ外務省、内務、司法及商工務省、文部及農務省、軍務省、大藏省ノ五省ヲ統轄セリ
司法ニ關シテハ首府ニ高等法院ヲ設ケ又各地ニ地方裁判所ヲ設置セリ

第二節 面積及人口

面積 四六、二五〇方哩(十一萬四千六百七十方吉米)
人口 七四五、〇〇〇人(二平方哩人口十六人)

第三節 豫算

千九百八十九年度歳出 七、〇〇四、四三〇
同 軍事費 詳ナラス

第二章 陸軍

兵役ハ徵兵制度ニシテ二十一歳ヨリ三十五歳マテノ男子ハ常備兵役ニ、三十五歳ヨリ四十歳マテノ男子ハ豫備兵役ニ服ス
 千九百年度ニ於ケル調査ニ依レハ平時將校下士卒現在員左ノ如シ

計	區分		將官	參謀將校	將校	下士卒	計
	定員	外員					
計	八八	一九〇	一七四	一七四	一、二四七	一、五〇八	四三三
定員	一、六五二	一、九四一	一六	四〇五			
外員							

各部隊ノ編制詳ナラスト雖モ前記ノ兵員ヲ以テ歩兵隊及山砲兵一大隊ヲ編制シ歩兵ハ「レミントン」銃砲兵ハ「クルップ」式砲ヲ有セリ又其ノ服裝ハ主トシテ佛國式ニ範レリ
 戰時ニ際シテハ豫備軍ノ外義務兵及民兵ヲ召集シテ其ノ陸軍ヲ擴張スルノ計畫ニシテ約五萬人ヲ動員シ得ヘシ
 又最近千九百九年度同國軍務大臣ノ報告ニ依レハ同國ノ全陸軍ハ將校九百五十

五人下士二千九百人卒四萬五千五百七十六人ヲ保有スト

葡萄牙國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

葡萄牙ハ千九百十年十月革命ニヨリ共和政體ヲ宣言シタルモノニシテ行政權ハ大統領及内閣ニ屬シ立法權ハ代議院及元老院ニ屬ス
 内閣ハ司法大藏陸軍海軍内務外務殖民及農工商部ノ八省ヨリ成リ代議院ハ三年ノ任期ヲ有スル定員百五十五名ノ議員ヲ以テ組織セララル

第二節 面積及人口

面積ハ本土及アゾール、マデールノ二群島ヲ合シテ九萬一千九百四十三平方吉米ニシテ我カ北海道ノ面積ヨリ稍、小ナリ人口ハ約五百四十二萬三千人ニシテ一平方吉米ニ六十一人ノ割合ナリ

第三節 豫算

千九百九—十年年度ニ於ケル總豫算額ハ約一億六千二十四萬圓ニシテ内陸軍豫算ハ二千八百七十三萬六千圓ナリ但其ノ約百六十二萬四千圓ハ臨時費トス

第二章 陸軍

第一節 中央統轄機關

葡國ニ於ケル軍ノ最高元首ハ大統領ニシテ陸海軍ヲ統帥シ陸海軍大臣ヲシテ其

ノ權限ヲ代理セシム

陸軍大臣ハ他ノ内閣大臣ニ等シク其ノ事務ニ關シテ議會ニ對シ責任ヲ有シ軍政ハ勿論全軍ノ指揮ヲ實施ス故ニ陸軍省ハ葡國陸軍ノ最高軍政軍令機關ニシテ此ノ以外ニ軍事中樞機關ト看做ス可キモノハ高等國防會議ナリトス

陸軍省

陸軍省ハ大臣官房、總務局、司法並動員及集中ニ關スル局、稅關衛兵局、中央局ヨリ成ル尙ホ陸軍大臣ハ左ノ諸部ヲ直接隸下ニ有ス

一 參謀本部

一 要塞及軍用構築作業監督部

一 軍用材料ノ製造所及補充廠經理部

一 軍用糧食製造所並被服ノ製造工場及補充廠經理部

高等國防會議

國防及用兵ノ大綱ヲ策定スル機關ニシテ國軍ノ編制及動員ニ關スル事項、陸海兩方面ニ於ケル作戰計畫、葡萄牙國及其ノ植民地ノ防禦ニ關スル事項ノ討議ニ任ス

第二節 地方統轄機關

共和國ノ大陸ハ三大管區ニ區分セラル即チ北部中部及南部管區之ナリ各管區ハ二箇師團ノ管區ニ區分セラレ各師管ハ更ニ四箇ノ聯隊區(徵募區)ニ區分セラレ各管區ニ司令部ヲ有ス

右ノ外本土ニ接近セル二箇ノ群島マテール及アンソールハ各一箇ノ陸軍管區ヲナシ若干ノ聯隊區ニ區分セラル

大管區及師團管區ノ司令部ハ地方軍政及軍令事務ヲ掌ル但大管區司令部ノ事務ハ管區内ノ一師團管區司令部ニ於テ之ヲ取ルモノトス又各聯隊區司令部ハ徵募事務ヲ取ルモノニシテ各區ハ戰時豫備歩兵部隊編成ノ爲ノ基幹隊ヲ有ス

第三節 兵役法

千九百十一年三月二日發布ノ新徵兵令ニ依レハ葡國民ニシテ滿十七歳ヨリ四十五歳マテノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務ヲ有ス但平時ニ在テハ壯丁ノ軍隊編入ハ滿二十歳ニ達シタル時ニ於テスルモノニシテ滿十七歳ヨリ此ノ年ニ至ル間

ハ射撃及體操ノ演習ヲ行ヒテ兵役ノ準備ヲ爲スモノトス

服役ハ之ヲ分チテ現役豫備役及國民兵役ノ三種トシ其ノ期限ハ現役及豫備役ハ各十年國民兵役ハ滿十七歳ヨリ四十五歳ニ至ル間ニシテ現役及豫備役ノ服役間ヲ除キタル間トス

現役中ノ服務左ノ如シ

- 一 各兵科各部ニ從ヒ壯丁一般ノ服務ハ十五週乃至三十週トシ此ノ間軍隊ニ在テ新兵教育ヲ受ケ自後ハ歸休ヲ許可セラルルモノトス
- 二 兵卒ノ一定數ハ一箇年在營ノ常備員タルヲ要ス而シテ此ノ常備員ハ志願兵ヨリ之ヲ取ルヲ原則トスト雖モ志願者ノ人員不足ノ場合ニ於テハ一般壯丁中ヨリ抽籤ニ依リテ採用ス
- 三 右在隊期限ヲ終リタル後ハ總テ歸休シ現役間毎年二回二週間宛復習教育ヲ受ク

豫備役中ハ其ノ全服役間二回二週間宛召集セラルルノ外毎日曜日射撃演習ニ出場スルヲ要ス又國民兵役中ハ有階者ノミ全服役間一回八日間幹部演習ニ參加ス

ルノ外何等ノ義務ヲ有セス
兵役義務ヲ盡ササル者ハ總テ軍稅ヲ納ム可キモノトス

第四節 將校及下士

一 下士

下士ハ曹長、一等軍曹、二等軍曹、一等伍長、二等伍長ノ五階級ニ分レ伍長ハ聯隊學校ノ特別教育(普通學及軍事學)ヲ受ケタル兵卒中ヨリ其ノ所屬隊長之ヲ二等伍長ニ任命ス又二等伍長ヨリ一等伍長ヘノ進級ハ六十日以上二等伍長トシテ服役シタル者ノ中ヨリス

二等軍曹ハ一等伍長中ヨリ競争試験ヲ行ヒ其ノ優秀者ヲ以テ之ニ充テ更ニ聯隊學校ニ於テ特別教育ヲ授ク

一等軍曹ハ二等軍曹中ヨリ競争試験ヲ以テ其ノ優秀者ヲ選抜シ陸軍大臣之ヲ任命ス

各兵科曹長ハ一等軍曹ニシテ中央軍曹學校ヲ卒ヘタル最古參者ヨリ陸軍大臣之

ヲ任命ス

下士ノ給料ハ其ノ服役年數ニ從ヒ其ノ額ヲ增加スルモノニシテ今各階級下士ノ給料日額ヲ舉クレハ左ノ如シ

曹長及一等軍曹ハ百六十乃至三百ライズ「一」ライズ「ハ我カ〇二一五錢ニ當ル」二等軍曹ハ八十乃至二百ライズ「一」等伍長ハ六十乃至百二十「ライズ」二等伍長ハ四十乃至七十「ライズ」

二 將校

將校ノ階級ハ佛國ニ於ケルモノニ等シク少尉ヨリ中將ニ至ル

將校ノ補充法ニ二種アリ即チ士官學校卒業者ヨリスルモノ及下士中ヨリスルモノ之ナリ

下士ヨリハ缺員ノ三分ノ一ヲ補充ス而シテ其ノ選ニ與ル者ハ軍曹ニシテ中央軍曹學校ヲ卒業シタル者ニ限ル

將校ノ進級ニハ古參順ニ依ルト或種ノ試験ノ結果ニ依ルトノ二種アリ試験ニ依ル進級ハ大尉ヨリ少佐ニ及大佐ヨリ少將ニ進級スル際ニ於テ適用ス

將校ノ俸給月額ハ左ノ如シ

中將百五十「ミルライス」(「ミルライス」ハ我カ約二圓十五錢ニ當ル)少將百「ミルライス」大佐八十「ミルライス」中佐七十二「ミルライス」少佐六十五「ミルライス」大尉五十五「ミルライス」中尉四十五「ミルライス」少尉三十五「ミルライス」

右ノ外將校ハ勤務年數ノ増加ニ從ヒ一定ノ加俸ヲ受ク即チ其ノ月額左ノ如シ

勤務年數十二年ニ達シタル中尉ハ 五「ミルライス」

同 十年ニ達シタル大尉ハ 六「ミルライス」

同 十五年ニ達シタル大尉ハ 七「ミルライス」

第五節 常備軍

葡國軍ハ本國軍(平時ニ於テ「アソール」「アテール」ノ兩群島ニ於ケル軍隊ヲ含ム)特種部隊ニ大別ス

一 本國軍隊

(イ) 歩兵

歩兵ハ總計線列歩兵二十七聯隊及獵兵六大隊ニシテ線列歩兵中二十四聯隊ハ葡國本土ニ在リテ二箇宛合シテ旅團ニ編成セラレ、二聯隊ハ「アソール」島ニ、一聯隊ハ「マテール」島ニ在リ

本土ニ在ル線列歩兵各聯隊ハ聯隊本部及三箇大隊ヨリ成リ諸島ニ在ルモノハ聯隊本部及二箇大隊ヨリ成ル而シテ兩者共ニ平時各大隊ハ三中隊編制ナルモ戰時ハ四中隊編制トス

獵兵各大隊ハ平時六中隊編制ナルモ戰時ハ四中隊編制トス之レ獵兵ノ要員ハ全國ニ分散シアルヲ以テ戰時ニ於ケル充員ハ之ヲ在郷兵ヨリ取ルコトナク平時編制内ノ二箇中隊ヲ解散シ其ノ人員ヲ以テ他四中隊ヲ戰時定員トナスニヨルモノトス

歩兵ノ平戰兩時ノ定員左ノ如シ

種類	區分		將	校	下	士	卒	人	員	計	馬
	平時	戰時									
三大隊編制ノ聯隊	三八	六二								三、〇四〇	三、一〇二
											八

獵兵大隊	二大隊編制ノ聯隊		戰時	平時	戰時	平時
	戰時	平時				
	二七	二五	四三	二八	四六九	四九七
	一、〇三三	五二八	二、〇三七	二、〇八〇	一、〇五〇	五五三
						二七
						五五

二〇八

(口) 騎兵

騎兵ハ總計十箇聯隊アリテ第六第九兩聯隊ノ外ハ二箇宛合シテ旅團ニ編成セラ
ル又第一第二聯隊ハ特ニ鎗騎兵ト稱ス
騎兵各聯隊ハ本部及四箇中隊ヨリ成ル
平戰兩時ノ定員左表ノ如シ

種類	區分	將	校	下士	本	人	員	計	馬	匹
			三三	二七	四九二	五一九	八二九	六八二		
			七九六	四九二	五一九	八二九	六八二			

(ハ) 砲兵

砲兵ハ野砲兵、騎砲兵、山砲兵及要塞砲兵ノ四種ニ區別ス

野砲兵聯隊ハ總數六箇ニシテ各聯隊ハ平時聯隊本部及二大隊ヨリ成リ各大隊ハ
火砲四門ト彈藥車二輛トヲ有スル三中隊ヨリ成ル又各聯隊ノ第六中隊ハ榴彈砲
ヲ有ス
戰時野砲兵各中隊ハ火砲六門彈藥車九輛ヲ有ス
騎砲兵ハ總數一箇大隊ニシテ大隊ハ平時火砲四門ト彈藥車四輛トヲ有スル二中
隊ヨリ成ル
戰時騎砲兵ノ各中隊ハ火砲六門、彈藥車六輛ヲ有ス
山砲兵ハ總數一大隊ニシテ大隊ハ平時火砲四門ト彈藥車トヲ有スル二中隊ヨリ
成ル
戰時山砲兵ノ各中隊ハ火砲六門ト彈藥車六輛ヲ有ス
要塞砲兵ハ總數六箇大隊ト四箇ノ獨立中隊トヨリ成リ各大隊ハ平時三中隊編成
ニシテ戰時ハ四中隊編成トス
各種砲兵平戰兩時ノ定員左ノ如シ

種別	區分		將	校	下士	卒	人員	計	馬
	戰時	平時							
野砲兵中隊	戰時	平時		三		七八		八一	三九
	戰時	平時		五		一五九		一六四	一五九
騎砲兵中隊	戰時	平時		四		八五		八九	一〇七
	戰時	平時		五		一八七		一九二	二二九
山砲兵中隊	戰時	平時		三		七四		七七	二六
	戰時	平時		五		二二二		二二七	七三
要塞砲兵中隊	戰時	平時		三		七八		八一	
	戰時	平時		四		一六八		一七二	

(二) 工兵

工兵ハ一聯隊ト三箇ノ獨立中隊トヨリ成リ聯隊ハ本部並鐵兵六中隊橋船兵二中隊電信兵一中隊及鐵道兵一中隊ヨリ成リ三箇ノ獨立中隊ハ左ノ如シ

- 要塞鐵兵中隊
- 水雷中隊
- 要塞電信中隊

平戰兩時ノ定員左ノ如シ

種別	區分		將	校	下士	卒	人員	計	馬
	戰時	平時							
鐵道中隊	戰時	平時		四		一一六		一二〇	三五
	戰時	平時		五		二六三		二六八	三八
電信中隊	戰時	平時		七		四一〇		四一七	一八三
	戰時	平時		四		一三九		一四三	三五
橋船中隊	戰時	平時		五		二九一		二九六	二一九
	戰時	平時		四		一一六		一二〇	三九
鐵兵中隊	戰時	平時		五		二六〇		二六五	四二
	戰時	平時		三		八八		九一	一
要塞鐵兵中隊	戰時	平時		三		八八		九一	三
	戰時	平時		五		二三一		二三六	七
水雷中隊	戰時	平時		三		九八		一〇一	
	戰時	平時		五		二五二		二五七	
要塞電信中隊	戰時	平時		五		二〇三		二〇八	五
	戰時	平時		五		四三五		四四〇	六

(ホ) 非戦闘部隊

非戦闘部隊ハ輜重兵中隊、給養中隊及衛生中隊ノ三種ニシテ各一中隊宛アリ
輜重兵中隊ハ戰時給養中隊ニ必要ナル馭卒、駕馬及材料ヲ供給シ尙ホ衛生隊野戰
病院、郵便部及師團司令部ノ行李ヲ編成シ給養中隊ハ糧食縦列野戰製麵匏廠及各
種ノ兵站勤務部隊ヲ編成ス又衛生中隊ハ衛生隊及野戰病院ノ一定數ヲ編成スル
モノトス

非戦闘部隊ノ平時定員左表ノ如シ

種類	區分		人員計	馬匹
	將校	下士卒		
輜重兵中隊	四	一二六	一三〇	一四六
給養中隊	三	二七三	二七六	
衛生中隊	三	一五八	一六一	

以上諸兵種ノ部隊ノ外本國軍隊中ニ廢兵隊、懲治中隊アリ尙ホ豫備軍ノ基幹トシ
テ十箇ノ常備衛戍中隊(要塞所在地ニ在テ衛戍勤務ヲ取ル)アリ

二 特種部隊

特種部隊ト稱スルモノハ都市守備隊及税關衛兵隊ノ二種ニシテ前者ハ「リスボン」
及「ポルト」ノ兩市ニ在テ警察事務ニ服シ平時ハ内務大臣ニ隸屬スト雖モ戰時ハ陸
軍大臣ノ命ニ從フモノトシ後者ハ税關ニ在テ其ノ勤務ニ服スルモノニシテ平時
ハ大藏大臣ニ屬スト雖モ戰時ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ受クルモノトス

第六節 高等單位ノ編制及平戰兩時ノ總兵力

一 高等單位ノ編制

平時ニ於ケル軍ノ最高單位ハ師團ナルモ各師團ノ編制ハ齊一ナラスシテ師團長
ハ單ニ其ノ師管内ニ駐屯スル部隊ヲ指揮スルニ過キササルモノトス又師管ハ二箇
宛合シテ三大管區ヲナスコトハ既ニ述ヘタルカ如シト雖モ此ノ大管區ノ區別ハ
軍ノ編制上ニ其ノ基礎ヲ置キテ定メタルモノニ非ラスシテ軍政及教育上ノ便宜
ニ從ヒタルニ過キササルカ如シ
戰時ニ於ケル戰鬥序列ノ基礎ハ師團ニシテ一師團ハ師團司令部及左ノ諸部隊ヨ
リ成ル

步兵二旅團(四聯隊)
 騎兵一聯隊
 野戰砲兵二若クハ三大隊
 鐵兵一中隊
 野戰電信隊一隊彈藥一縱列糧食一縱列野戰病院五箇患者輸送隊三箇及病院縱列二箇

右ノ外野戰師團ニハ一若クハ二箇ノ機關銃中隊及獵兵一大隊ヲ配屬ス
 二 平戰兩時ノ總兵力

平戰兩時ニ於ケル隊數及兵力左表ノ如シ

現	兵種		隊數	人員計	馬	火	砲
	步	騎					
砲	兵	兵	八 四 大 隊	二二,〇〇三	一七一		
騎	兵	兵	四〇 中 隊	四,二九六	三,〇九二		
砲	兵	兵	野戰砲兵四〇中隊 要塞砲兵二〇中隊	四,七二七	一,八七〇		野戰砲一六〇

役	軍		隊數	人員計	馬	火	砲
	衛	給					
計	生	養	一 中 隊	二七六			
豫備軍步兵基幹隊	隊	隊	一 中 隊	一六一			
總計	計	計	二 七 隊	三一,四二六	五,四〇四		一六〇
備考	總計	總計	二 七 隊	三一,八〇四	五,四〇四		一六〇

備考 本表ハ徵兵令改正前ノ調査ニ依リ故ニ兵數ハ該令改正後ニ於テ變化シアルヲ保シ難シ

現	兵種		隊數	人員計	馬	火	砲
	步	騎					
砲	兵	兵	八 四 大 隊	六八,四三三	二二五		
騎	兵	兵	四〇 中 隊	五,〇〇八	四,五〇〇		野戰砲二四〇
砲	兵	兵	野戰砲兵四〇中隊 要塞砲兵二八中隊	九,六八二	五,八五一		
工	兵	兵	一 三 中 隊	一,七四九	一〇〇		
輜	重	兵		一三〇	一四六		

三 中央軍曹學校 本校ハ下士ニ曹長及一等軍曹タルニ必要ナル智識ヲ與フルヲ目的トスト雖モ尙ホ將校ノ試験ヲ受クル爲メ將校志願ノ下士ニ特別教育ヲ施ス

四 聯隊學校 本校ハ各聯隊ニ之ヲ設ケ讀書及寫字ヲ知ラサル兵卒ニ初等教育ヲ施シ尙ホ下士及兵卒ニ進級ノ爲ニ必要ナル能力ヲ與フルニ必要ナル教育ヲ行フ

五 實施學校 各兵科ノ實施學校アリテ各兵科ノ將校ニ其ノ専門的能力ヲ進歩セシムル爲メ教育ヲ施スヲ目的トス尙ホ實施學校ハ其ノ固有兵科ニ屬スル新式材料ノ試験ヲナシ且武器ノ改良ニ關スル意見ヲ提出スルノ任ヲ有ス

第八節 兵器及裝具

一 步兵

步兵ハ口徑六密半ノ「モーゼル」式銃ヲ携帯ス各兵ノ携帯彈藥數ハ百二十發ナリ
步兵ノ裝具ハ黑色帆布製背囊「アルミニウム」製炊事具、麵麩囊「アルミニウム」製水筒

彈藥盒及器具ヨリ成ル

二 騎兵

騎兵ハ千八百六十年式口徑六密半ノ「マンリッヘル」騎銃及銃劍ヲ携帯シ鎗騎兵ハ尙ホ鎗ヲ有ス

三 砲兵

野砲ハ口徑七十五密米砲身後坐式速射砲ニシテ千九百四年「シユナイデル、カネット」式トス

山砲ハ千八百八十二—八十七年式ニシテ口徑七十五密米トシ重砲ハ口徑十五密米ノ十四口徑「シユナイデル」式榴彈砲トス

四 工兵

鐵兵ハ騎銃及銃劍ヲ携帯シ鐵道及電信兵ハ銃及刀式ノ劍ヲ有シ乘馬者ハ拳銃ト刀トヲ有ス

白耳義國

三〇

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

世襲立憲王國ニシテ憲法ハ千八百三十一年二月七日制定セラレ千八百九十三年改正セラレタルモノナリ行政權ハ國王之ヲ主宰シ立法權ハ國王及上下兩院ニ之ヲ委ス

上院ハ八年ノ任期ヲ有スル百十人ノ議員ヲ以テ組織シ議員ノ一部ハ國民直接ニ之ヲ選舉シ他ノ一部ハ州會ニ於テ之ヲ選舉ス而シテ各州ヨリ出ス議員ノ數ハ各州ノ人口ニ從ヒ差アリ

下院ハ四年ノ任期ヲ有スル百六十六人ノ議員ヨリ成リ國民ノ直接選舉ニ依リ人口四萬毎ニ一名ノ割合ヲ以テ選出ス

白耳義ハ行政上之ヲ九州(二千六百七十二邑)ニ分チ州及邑ハ自治權ヲ享有ス

第二節 面積人口

白耳義ノ總面積ハ二萬九千四百五十六平方吉米ニシテ略我カ九州ノ面積ノ四分ノ三ニ等シク人口總計約七百四十五萬一千九百人(千九百九年ニ於ケル推定數)ニシテ一平方吉米内ニ二百五十三人ヲ算シ其ノ密度略我カ邦ノモノニ二倍ス

第三節 豫算

千九百九年ニ於ケル豫算總額ハ約二億三千九百五十九萬五千圓ニシテ内軍事費二千二百五十二萬二千圓ナリ右ノ外憲兵ニ關スル費用ハ之ヲ特別豫算トシテ其ノ額約三百七十六萬七千圓ニ達ス

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

白耳義ハ平時本國常備軍及コンゴ植民地軍ヲ備ヘ本國常備軍ハ平時ニ在テハ其ノ一部(要塞砲兵)ヲ要塞守備團トシテ指定シアルノ外一定セル高等單位ノ團結ヲ保持スルコトナシト雖モ戰時ニ在テハ常備軍ノ現役部隊及豫備隊ノ一部ヲ以テ野戰軍ヲ編成シ現役部隊ノ一部豫備部隊ノ大部ヲ以テ要塞守備兵團ヲ編成スルノ計畫ナリ此ノ外戰時ニ在テハ常備軍ニ加ハラサル者ヲ以テ護郷軍ヲ編成シ常備軍ノ援助後方警備及要塞ノ守備ニ任ス

「コンゴ」植民地軍ハ「コンゴ」植民地ノ警備ニ任スルモノトス

第二節 中央統轄機關

白耳義國陸軍大元帥ハ國王ニシテ陸軍大臣ハ國王ニ代テ其ノ權限ヲ實施ス陸軍省ハ白耳義最高ノ軍政及統帥機關ニシテ左ノ諸局ヨリ成ル

- 第一局 作戰及教育ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二局 人事及徵募ヲ掌ル

第三局 砲兵材料ノ事務ヲ掌ル

第四局 陸地測量部

第五局 經理事務ヲ掌ル

右ノ外中央機關トシテハ陸軍省外ニ獨立セル騎兵高等司令官砲兵工兵及要塞ノ諸兵監アリ

第三節 地方統轄機關

地方軍政及統帥ノ最高機關ハ師管司令官ニシテ全國ハ四箇ノ師管ニ區分セラレ徵兵事務ハ各州ノ軍事行政權ニ屬ス之カ爲メ各州ヲ若干ノ陸軍區ニ分チ其ノ各區ニ委員ヲ設ケテ徵兵ノ初審ヲ掌ラシメ又各州ニ一箇ノ民兵會議ヲ設ケ徵兵ノ終審ヲ掌ラシム

在郷兵ノ事務ニ關シテハ憲兵ノ司令所ニシテ各州ニハ一中隊ノ憲兵ヲ置ク

第四節 兵役法

現今ノ徵兵制度ハ千九百九年十二月四日發布ニ基ク不完全ナル國民皆兵制度ニシテ軍ハ毎年徵兵及志願兵ヲ以テ補充セララル

徵兵(民兵ト稱ス)ハ滿二十歳ニ達シタル青年ニシテ其ノ兄弟中ニ現ニ兵役ニ服シ若クハ既ニ服役ヲ終リタル者アラサルトキハ抽籤ニ依リテ採用セラル即チ一族中ヨリ一名ノ男子ヲ限リ服役セシムルヲ以テ原則トス但兄弟間ニ於テ互ニ代役ヲナスコトヲ許可セララル

志願兵ハ何人ナルヲ問ハス年齢十六歳以上三十五歳マテ之ヲ志願スルコトヲ得ヘク又既ニ一旦兵役ニ服シタル者ハ四十歳マテ志願スルコトヲ得而シテ志願兵ハ之ヲ次ノ如ク分類スルコトヲ得即チ獎勵金附志願兵、適齡前ニ入隊ヲ志願スル志願兵及軍人志願者(陸軍諸學校ノ生徒等)之ナリ

步兵 二十箇月

騎兵及騎砲兵 三十六箇月

民兵ノ服役期限ハ常備役八年、豫備役五年トス然レトモ常備役中現役トシテ軍隊ニ止マル期限ハ各兵種ニ依リ左ノ如ク變化ス

野砲兵及輜重兵 二十八箇月

要塞砲兵及工兵 二十二箇月

給養部隊 二十四箇月

志願兵ノ現役年限ハ十七歳以前ニ兵役ニ就キシ者ハ五箇年、十八歳以前ニ兵役ニ就キシ者ハ四箇年、十八歳以後ニ兵役ニ就キシ者ハ三箇年トス

第五節 將校下士

一 將校下士ノ階級

將校下士ノ階級左ノ如シ

將校 中將、少將、大佐、中佐、少佐、一等大尉、二等大尉、中尉、少尉

下士 特務曹長、一等曹長、曹長、一等軍曹、軍曹、伍長(伍長ハ兵卒中ノ有階者ニシテ下士ニ非ラス)

二 將校下士ノ補充及進級

現役將校ハ「イゼール」ノ士官學校卒業者及幼年學校卒業者ヨリ補充シ尙ホ將校要員ノ三分ノ一ハ下士ニシテ二年間服役シ且普通學及軍事學ノ試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ任命補充ス

現役將校ノ進級ハ二等大尉ニ至ルマテハ缺員ノ二分ノ一ハ古參順序ヲ以テシ缺員ノ他ノ二分ノ一ハ古參順序ニ依ルコトナク拔擢ヲ以テ進級セシム豫備役將校ハ現役ヨリ退職シタル將校ニシテ豫備役ニ在テ五箇年間勤務ス可キコトヲ誓約シタル者ヲ以テ之ヲ補充スト雖モ尙ホ我カ國ニ於ケル一年志願兵ノ制度ニ類シタル補充法ヲ有ス即チ豫備役將校タランコトヲ希望シ豫備將校候補生ノ名稱ヲ以テ入隊シタル者ニ特別ノ教育ヲ施シ六箇月ノ後下士ニ任命シ下士トシテ服役二年ノ後試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ヲ以テ豫備少尉ニ任命ス此ノ方法ニ依リ任官シタル豫備少尉ノ服役期限ハ八年トス右ノ外補助勤務將校ナルモノアリテ該將校ハ八年間服役ノ後歸休トナリタル下士ニシテ適任證書ヲ得タル者ノ中ヨリ補充ス

參謀將校ハ陸軍大學校ヲ卒業シ參謀適任證書ヲ得タル後一箇年間他兵科ノ見習勤務ヲナシ更ニ某參謀部ニ於テ一箇年間及陸軍省ノ第一局ニ於テ一箇年間見習ヲナシタル者ノ内ヨリ補充ス

下士ノ補充及進級左ノ如シ

下士ハ軍人子弟學校ヲ卒業シタル者ノ内ヨリ補充シ其ノ初任ハ軍曹若クハ伍長トス又下士ハ一般徵兵及志願兵出身ノ伍長ニシテ聯隊ニ於テ特別ノ教育ヲ受ケタル者ヨリ補充シ又幼年學校生徒ニシテ其ノ試験ニ及第セサリシ者ヨリ任命ス伍長ヨリ軍曹ニ進級スルニハ伍長トシテ六箇月間服役スルヲ要シ軍曹ヨリ曹長ニ進ムニハ其ノ階級ニ於テ六箇月間服役スルヲ要ス而シテ特務曹長ニ進級スルハ軍曹任官後少クモ一箇年ヲ經過シタル後ナルヲ要ス

三 將校下士ノ給與

將校ノ俸給ハ佐官以上ニ在テハ其ノ額一定シアルモ尉官ニ在テハ各兵種ニ從ヒ其ノ額ヲ異ニス俸給年額左ノ如シ

中將

一萬八千五百法

少將

一萬二千七百法

大佐 一萬二千六十五法 中佐 八千百六十法
少佐 六千三百法

尉官甲種(參謀將校、騎砲憲兵及輜重兵)

一等大尉 五千百法 二等大尉 四千四百法
中尉 三千二百五十法 少尉 二千九百五十法

尉官乙種(步兵)

一等大尉 四千二百法 二等大尉 三千五百七十法
中尉 二千五百六十法 少尉 二千二百二十法

尉官丙種(要塞砲兵)

一等大尉 四千六百法 二等大尉 三千九百法
中尉 二千八百七十五法 少尉 二千四百七十五法

下士ノ給料ハ明ナラス

第六節 常備軍ノ平時編制

一 歩兵

歩兵ハ左ノ四種ヨリ成ル

線列歩兵聯隊 十四

獵兵聯隊 三

擲彈兵聯隊 一

精兵聯隊 一

右ノ内線列歩兵、獵兵、擲彈兵ノ各聯隊ハ其ノ編制同ニシテ各一聯隊ハ現役大隊四箇、要塞大隊二箇及補充隊一箇ヨリ成リ精兵聯隊ハ現役四大隊、自轉車一大隊、要塞三大隊及補充一隊ヨリ成リ各現役大隊ハ四中隊ヨリ成ル然レトモ各聯隊現役諸大隊ノ内一箇、要塞大隊及補充隊ハ平時ニ在テハ幹部ノミヲ有スルニ過キサレモノトス

現役大隊ノ平時定員ハ將校十八、下士卒三百九十三トシ、要塞大隊ハ將校八、下士卒十、補充隊ハ將校五、下士卒十七トス

二 騎兵

騎兵ハ左ノ三種ヨリ成ル

輕騎兵聯隊 二

獵騎兵聯隊 二

槍騎兵聯隊 四

聯隊ノ編制ハ各種騎兵共ニ同一ニシテ一聯隊ハ現役五中隊ト補充中隊一箇ヨリ成ル

騎兵中隊ノ平時定員ハ將校五下士卒百三十馬百三十ヨリ成ル

三 野戰砲兵

野砲兵、騎砲兵ノ二種アリテ尙ホ榴彈砲兵ハ新設中ニ在リ野砲兵聯隊ハ二種ノ編制ヲ有シ其ノ奇數番號ノ聯隊ハ現役六中隊(三中隊宛ノ二大隊ニ編制セラル)豫備二中隊、補充一中隊ヨリ成リ偶數番號ノ聯隊ハ現役六中隊(二大隊ニ編制セラル)豫備二中隊、彈藥一中隊ヨリ成ル而シテ現役中隊ノ外ハ平時幹部ノミヲ有ス
騎砲兵ハ大隊編制ニシテ大隊ハ騎砲二中隊ヨリ成ル
榴彈砲兵ハ「クルップ、コッケリン」砲ヲ採用スルニ決シ千九百十年ニ於テ砲四門、彈藥車

四輛ヲ以テ試験的ニ一中隊ヲ編成シタリ野砲兵中隊ノ平時定員ハ將校四下士卒八十四馬匹五十二、火砲六、彈藥車六、輜重車一ヨリ成リ騎砲兵中隊ハ將校四下士卒百九馬匹九十七、火砲六ヨリ成ル又豫備中隊ハ將校五若クハ六下士卒十四馬匹十四トス

四 要塞砲兵

要塞砲兵ハ「アングール」要塞砲兵團、「リエージュ」要塞砲兵團、「ナミール」要塞砲兵團ノ三群ニ區分セラレ「アングール」要塞砲兵團ハ八大隊(現役三十中隊、豫備二十中隊)ヨリ成リ「リエージュ」要塞砲兵團ハ四大隊(現役十二中隊、豫備四中隊)ヨリ成リ「ナミール」要塞砲兵團ハ三大隊(現役九中隊、豫備三中隊)ヨリ成ル
要塞砲兵現役中隊ノ平時定員ハ將校三下士卒七十五ヨリ成リ豫備中隊ハ將校一、下士卒四ノ基幹ヨリ成ル

五 工兵

工兵ハ四箇大隊ヨリ成ル一聯隊ト二箇ノ獨立大隊及五種ノ獨立中隊ヨリ成リ聯隊内ノ一箇大隊ハ野戰大隊ト稱シ現役四中隊ヨリ成リ三箇ハ要塞大隊ト稱シ其

ノ一大隊ハ現役四中隊ヨリ他ノ二大隊ハ現役二中隊豫備二中隊ヨリ成ル又二箇ノ獨立大隊ハ總テ要塞大隊ニシテ共ニ豫備四中隊ヨリ成ル
 五箇ノ獨立中隊ハ電信中隊、水雷及火工中隊、鐵道中隊、橋船中隊、職工及氣球中隊ノ五種ノ分科ヨリ成ル
 工兵各分科ノ平時定員左ノ如シ

種類	區分	將校	下士卒	人員計	馬匹
野戰工兵大隊	一中隊	四	九二	九六	ク
要塞工兵大隊	一中隊	四	七七	八一	ク
豫備	中隊	一	二	三	ク
電信	中隊	五	一一五	一二〇	五
水雷及火工	中隊	四	八三	八七	ク
鐵道	中隊	四	八三	八七	ク
橋船	中隊	五	一一五	一二〇	五
職工及氣球	中隊	五	一一五	一二〇	ク

六 輜重兵

輜重兵ハ七中隊及補充一中隊ヨリ成ル一聯隊アリ
 輜重兵聯隊ノ平時定員ハ將校二十三、下士五十一、兵卒百六十七、馬匹二百三十九ニシテ各中隊ハ概ネ同一ノ編制ヲ有ス

七 經理部

陸軍經理ニ關スル總テノ職務ハ經理部ノ掌ル所ニシテ左ノ三種ノ機關ヨリ成ル
 即チ主計官、軍隊附會計將校及給養大隊之ナリ
 主計官ハ陸軍資金、支拂、被服、病院及糧食ヲ各勤務ニ關スル指揮及檢査ニ任シ、軍隊會計將校ハ各兵種ノ部隊ニ在テ一般ノ計算、支拂、下士卒ノ被服ニ關スル事務ヲ掌ル
 給養大隊ハ糧食、馬糧ノ供給、軍醫部、獸醫部及法教師ノ人員(將校ヲ除ク)並軍需品ノ供給ニ任シ、本部及四中隊ヨリ成リ、各中隊ハ更ニ六小隊ニ分タル即チ製麵、砲小隊、屠獸小隊、馬糧小隊、病院小隊、獸醫小隊、法教師小隊之ナリ、此ノ外大隊本部ニ軍事司、法勤務小隊及書記小隊ヲ屬ス

八 軍醫部及獸醫部

平時軍醫部及獸醫部ノ人員ハ病院及聯隊ノ勤務ニ服ス

九 憲 兵

平時憲兵ハ三箇大隊ニ編制セル九箇中隊ト一箇ノ教導中隊トヨリ成リ其ノ人員ハ將校六十七下士卒三千七十九人ナリ

第七節 平時兵力

白耳義軍ノ平時隊數及人員左表ノ如シ

考 備	人員計	隊 數		區 分		工 兵	輜 重 兵	總 理 部	軍 醫 部	獸 醫 部	其 他	合 計
		現 役	後 備	步 兵	騎 兵							
(一)野戰砲兵現役中隊ニハ騎砲兵四中隊ヲ含有ス (二)工兵隊數中ニハ本表外ニ尙ホ五箇ノ特別中隊アリ (三)經理部中本表外ニ給養四中隊アリ (四)以上一、二、三ノ人員ハ本表中ニ含有シアリ (五)本表外憲兵將校二八下士卒二二〇馬匹一〇八四ヲ有ス	二七、七四	五八大隊	一六中隊	五二中隊	五一中隊	野戰四中隊	七中隊	ク	ク	ク	ク	ク
	五、六六	四〇中隊	一六中隊	五二中隊	五一中隊	野戰四中隊	七中隊	ク	ク	ク	ク	ク
	八、五三	八中隊	四中隊	三中隊	一中隊	一中隊	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	七、三	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	三、九	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	七、五	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	三〇	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	四、五	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	二、三六	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	四七、五二	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク

第八節 要塞

白耳義ハ國勢上強大ナル野戰軍ヲ備ヘテ其ノ中立ヲ維持センコトハ到底不可能ナル可キカ故ニ國內重要ナル地點ニ堅固ナル要塞ヲ築設シ以テ其ノ國防ヲ全フセントスルノ計畫ニシテ「マース」河谷ニ於ケル「リエーシュ」及「ナミュール」ノ二要地ニ要塞ヲ築設シテ國防ノ第一線トシ首府「アンヅール」ヲ以テ最後ノ複廓トシ此處ニ最堅固ナル築城ヲ施セリ

第九節 教育及學校

一 陸軍以外ニ於ケル軍事教育

白耳義ノ諸地方ニ於テハ舊軍人ノ幫助ヲ以テ小學校教員指導ノ下ニ陸軍ノ準備教育協會ノ創立ニ勉メツツアリ而シテ此等協會ニ於テハ兵役義務ヲ完全ニ果サシ爲ノ準備ヲ希望スル十六歳乃至二十歳ノ男子ヲ教育シ終末ニ於テ試験ヲ行ヒ卒業者ニハ證狀ヲ交付ス

二 諸學校

將校、下士ノ補充及將校、下士ヲ教育スル爲メ左ノ數校アリ

一 聯隊學校

聯隊ニハ下士及將校ヲ教育スル爲メ數種ノ教育所及研究所アリ即チ(一)志願兵中有爲ナル者ヲ下士ト爲ス爲メ教育所ニ入レテ教育ス而シテ其ノ内優等ナル者ハ教育ヲ繼續シ下士ニ任シテ一箇年半乃至二箇年間在隊セシム尙ホ此ノ教育所ニハ士官學校及將校試驗ニ應センカ爲メ豫備科ノ設ケアリ(二)下士及伍長ノ爲メ夜學校ヲ設ケ下士及伍長ノ全部ヲ出席セシム其ノ最上級ニハ將校試驗ニ應センカ爲メ特別科アリ(三)下士ノ爲メ實用語學校研究所ヲ設ク

二 軍人子弟學校

軍人子弟學校ハ軍人若クハ文官ノ兒子ヲ生徒トシ軍事ニ關スル豫備教育ヲ授クル所ニシテ其ノ教育期ハ七年トシ卒業ノ上ハ軍曹若クハ伍長ニ任ヌ又生徒ハ士官學校ノ入學試驗ヲ受クルヲ得ヘシ

三 幼年學校

本校ハ將校ノ兒子又ハ陸軍出身希望者タル男兒ニ補助教育ヲ施ス所ニシテ其

ノ學期ハ七箇年トシ其ノ生徒數ハ伍長ノ階級ニ在ル者五十人、兵卒ノ階級ニ在ル者五十人トス

四 士官學校

本校ハ各兵種ノ將校生徒ヲ養成スル所ニシテ生徒ハ十七歲乃至二十一歲ノ青年中ヨリ競争試驗ニ依リ採用ス其ノ學期ハ歩、騎兵ノ爲ニハ二年、砲工兵ノ爲ニハ四年トス但砲工兵ハ卒業ノ際中尉ニ任ヌ

五 陸軍大學校

陸軍大學校ニ入學ス可キ者ハ將校トシテ少クモ五年間服役シ且年齡三十二歲以下ニシテ競争試驗ニ合格シタル者ヨリ採用ス教育期ハ三年ニシテ卒業ノ際參謀適任證書ヲ得タル者ハ更ニ六箇月間乘馬學校ニ入校ス
以上ノ外尙ホ左ノ諸學校アリ

體操劍術學校

歩兵野外工作實施學校

歩兵ノ實施及大成ノ學校 歩兵ノ教育ヲ齊一ニシ且新任少尉ノ教育ヲ完成ス

騎兵野外工作實施學校
乘馬學校
砲兵射擊學校

第十節 武器

一 步兵

歩兵ハ千八百八十九年式「モーゼル」銃ヲ使用ス歩兵ノ携帶彈藥ハ百二十發トス
歩兵中隊ノ器具ハ「リネマン」式重鋤百箇、彎銃一箇、關節鋸六、鐵線鉄一箇、鏟一箇ニ
シテ尙ホ必要ニ應シ師團工兵廠ヨリ補充ヲ受ク

二 騎兵

騎兵卒ハ千八百八十九年式口徑七密六五ノ「モーゼル」銃ヲ携帶シ下士ハ拳銃ヲ
携帶シ、輕騎兵ハ直劍ヲ槍騎兵及獵騎兵ハ彎劍ヲ携フ尙ホ槍騎兵ハ槍ヲ有ス

三 野戰砲兵

野戰砲兵ハ近時千九百五年式「クルップ」砲ヲ採用セリ該砲ハ口徑七珊五砲身後坐

式ニシテ普通照尺及「パノラマ」式照尺ヲ備ヘ厚五密米ノ防楯ヲ有ス彈藥ハ榴彈
ニシテ前車ニ四十發、後車ニ六十一發ヲ納ム

四 要塞砲兵

要塞砲兵ノ主要火砲ハ十五珊米、十二珊米加農、十五珊及二十一珊米榴彈砲、十五
珊米及八珊米八ノ臼砲ニシテ此ノ外砲門、砲架ヲ有スル七珊五及五珊七加農、防
楯ヲ有スル十二珊米加農及穹窿砲臺ニ備付ケタル十二珊米榴彈砲アリ此等ノ
新式砲ハ總テ砲身後坐式ナリ

下士卒ノ携帶銃ハ「モーゼル」式七密六五ノ短銃ニシテ照尺ハ二千米ヲ刻シ彈藥
ハ歩兵銃ト同一ナリ

五 工兵

工兵ノ携帶兵器ハ「モーゼル」式銃ニシテ銃劍ハ九十三年式刀形劍トシ將校ハ「ブ
ラウニン」式千九百一年自働拳銃ヲ携フ
橋船中隊ノ架橋材料ハ長サ七密半、幅一米七〇、深サ〇米八〇ノ鐵舟ニシテ重量
六百四十吉瓦、積載量八十吉瓦トス

六 憲兵

徒歩憲兵ハ「モーゼル」騎兵銃及自働拳銃ヲ有シ乘馬憲兵ハ右ノ外刀ヲ帶フ

二四〇

第十一節 戰時編制ノ大要

一 戰時各兵種ノ編制

一 歩兵

戰時歩兵ノ現役各大隊要塞大隊ハ常備役ニ在ル在郷兵ヲ以テ充員セラレ戰時編制ヲ完了ス而シテ要塞部隊ノ戰時編制ハ明ナラサルモ現役大隊ノ戰時編制ハ左ノ如シ

將校二十 下士卒一千六十 馬匹二十四 車輛四

二 騎兵

戰時ニ際シテハ平時ノ現役聯隊ハ其ノ中隊數ヲ變スルコトナク唯、人馬數ノミヲ充實ス現役一中隊ノ戰時定員左ノ如シ

將校五 下士卒百六十五 馬匹百七十 車輛二

三 野戰砲兵

戰時ニ於ケル野砲兵聯隊ハ現役砲兵中隊ノミヲ以テ編成ス即チ一聯隊ハ本部及二大隊ニシテ六中隊ヲ有ス而シテ豫備中隊ハ要塞ノ守備ニ充ツ野砲兵中隊及騎砲兵中隊ノ戰時定員左ノ如シ

一 野砲兵

將校五 下士卒百六十九 馬匹百五十八 火砲六 其ノ他ノ車輛十三

二 騎砲兵中隊

將校五 下士卒百八十一 馬匹二百十七 砲車六 其ノ他ノ車輛十三

四 要塞砲兵

戰時要塞砲兵ハ現役及豫備中隊共ニ充員セラルト雖モ其ノ編制明ナラス

五 工兵

戰時野戰工兵大隊ノ諸中隊ハ野戰師團ニ分屬シ其ノ他ノ大隊ノ諸中隊ハ諸要塞ノ成兵ニ充當セラル又各特別中隊ハ野戰師團及軍司令部ニ配屬セシメラル各單位ノ編制ハ明ナラサルモ野戰工兵中隊ノ戰時定員左ノ如シ

將校五 下士卒二百五十 輜重兵十六 馬匹三十一 車輛五

六 輜重兵

輜重兵ハ戰時彈藥縱列衛生隊糧食縱列馬廠等ヲ編成シ野戰師團及騎兵師團等ニ配屬セラル

二 戰時高等單位ノ編制

戰時白耳義軍ハ野戰軍要塞守備軍及補充隊ニ區分セラレ野戰軍ハ野戰四師團ト騎兵二師團トヨリ成リ要塞守備軍ハ「リエーシュ」ナミュール及アンペールノ三兵團ニ分ツ

野戰一箇師團ハ步兵二旅團(十二大隊)精兵一大隊豫備步兵一旅團(四大隊)騎兵一中隊砲兵一旅團(十二中隊)及其ノ他ノ補助部隊縱列等ヨリ成リ騎兵師團ハ騎兵二旅團(二十中隊)騎砲兵二中隊及諸縱列ヨリ成ル

第十二節 戰時兵力ノ概數

戰時白耳義軍ノ總兵力ハ野戰軍ノ總計將校二千七百十一名下士卒九萬八千六百

九十六人馬匹二萬六千六十八頭ニシテ要塞守備兵團ハ約八萬人ナリトス

波 斯

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

波斯ハ千九百六年以來立憲君主國トナレリ現王ハ千八百九十八年一月二十日ニ生レ尙ホ幼冲政ヲ執ルヲ得サルヲ以テ「ナジールエルムルク」親王攝政トナル内閣ハ議會ニ對シ純然タル責任内閣タルニアラスシテ内政財政及秘密ヲ要スル條約批准ニ對シ責任ヲ負フニ過キス其ノ他ハ總テ議會ノ協贊ヲ受クルヲ要ス

議會ハ初メ一院制ナリシカ千九百七年新タニ元老院ヲ設ケテ二院制トナセリ

第二節 面積人口

面積 約六十二萬八千方哩

人口 約一千萬人

即チ其ノ面積ハ我カ國ノ約二倍半ニシテ其ノ人口ハ我カ國ノ約六分一ニ過キス

第三節 豫算

歳入ハ經常歳入、臨時歳入ヨリ成リ經常歳入ニ屬ス可キモノハ地租及營業稅、官有地收入、關稅、營業權歩合、臨時歳入ハ徵發、獻納金、官吏ノ納金ヨリ成ル然レトモ波斯ニハ歳出入ノ豫算ヲ調製スルコトナク徵稅ノ大部ハ國王及官吏之ヲ私シ國庫常ニ窮乏ヲ告ケ官吏獨リ蓄財ニ汲々タリ
千九百七年ニ於ケル推定歳入ハ約一千六百三十六萬圓ヲ算ス可ク歳出ノ詳細ハ之ヲ知ルヲ得ス唯、哥薩克族團ノ維持費トシテ毎年八十四萬九千二百二十圓ヲ支出

シアルハ明カナリ

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

波斯ノ陸軍ハ正規軍、不正規軍及臨時國民軍ヨリ成ル
正規軍ハ第十九世紀ノ初メ編成シタルモノニシテ步騎、砲工ノ四兵ヨリ成リ平時ハ戰時定員ノ二分ノ一ヲ常備トシテ在營セシム不正規兵ハ歩兵及騎兵ヨリ成リ專ラ地方ノ警備ニ任シ國民軍ハ戰時ニ際シ遊牧民族ヲ以テ編成シ正規軍ヲ援助スルノ用ニ供ス

第二節 中央統轄機關

國王ハ波斯軍ノ大元帥ナリト雖モ單ニ名義ヲ存スルニ過キス陸軍大臣ハ議會ニ

對シ陸軍ニ關スル責ニ任ス

陸軍省

陸軍省ハ左ノ各部ニ分チ其ノ業務ヲ分擔ス

- 總務部
- 參謀部
- 軍務部
- 經理部
- 陸軍會議
- 法官部
- 監督部
- 兵器局
- 砲兵監部
- 軍醫部
- 外國教官部

第三節 地方統轄機關

波斯ニハ地方軍隊ニ對スル常置軍衙ヲ有スルコトナク各部ニハ陸軍省軍務部ヨリ軍務官ヲ派遣シテ諸種ノ業務ヲ處理セシムルモノニシテ若シ軍事上或ル紛議ヲ生ジタル場合ニハ地方長官ノ下ニ委員ヲ召集シテ之ヲ議決ス

第四節 兵役及補充法

一 正規軍

下士卒ハ土著人ヨリ徵募スルノ制度ニシテ徵兵管區ハ種族ニヨリ之ヲ區別シ各管區ヨリ一大隊又ハ數大隊ヲ徵募スルモ富有ナル者ハ贈賄其ノ他ノ手段ヲ以テ兵役ヲ避忌シ唯貧困ナル無賴ノ徒ノミ應募ス
徵兵適齡ノ規定ナク服役年限ノ如キモ有名無實ニ終リ現今ハ終身兵役ニシテ軍隊中ニハ老幼相混シ身體衰弱シ軍務ニ堪ヘサルニ至リ始メテ退役シ其ノ町村ヨリ代人ヲ出サシメ之ヲ補充ス
將校下士卒ノ任命補充法極メテ不規律ニシテ情實ト賄賂トノ他別ニ採用規定ナシ

二 不正規軍

總テノ遊牧人種ハ徵兵令ニヨリ兵役ヲ免除セララルモ尙ホ政府ノ命令ニヨリ一定ノ騎兵及歩兵ヲ提供セサル可カラス各族長ハ兵卒ノ指揮官ニシテ部下兵卒ノ兵器及馬匹ヲ支給ス

三 國民軍

戰時ニ際シ遊牧民族ヲ以テ組織セララル騎兵ニシテ彼等ハ平素獨立ノ生活ヲ營ミ課稅其ノ他ノ義務ニ於テモ確實ニ制令ヲ遵奉セサルノミナラス戰爭ノ危險直接自己ニ逼迫スルノ情況ニ至ラサレハ戰場ニ出ツルコトヲ欲セサルヲ以テ其ノ徵集ハ頗ル不確實ナルヲ免カレス

第五節 將校下士並同相當官

波斯軍ノ幹部ハ悉ク情實ト賄賂トニ依リテ任命セララルコト既ニ前節ニ之ヲ述ヘタリ茲ヲ以テ幹部ノ資格ヲ損シ人格ヲ野卑ナラシムルハ自然ノ勢ナリ進級ハ實力ノ關スル所ニアラサルヲ以テ自ラ進テ研究ヲ爲ス者ナク軍紀弛解シ義勇奉

公ノ念慮ニ至リテハ全然地ヲ拂ヒ將校ハ兵卒ノ俸給經費ヲ偷ミ賄賂ヲ貪リ一意財貨ヲ得ルニ汲々タリ

斯ノ如キ將校ノ統率セル波斯軍ハ假令兵卒ノ素質比較的良好ナル者アリト雖モ何等有力ナル國軍ヲ編成シ能サルハ明カナリ

階級

將校ノ階級ハ我カ國軍ニ於ケルト等シク區分セララル

服裝ニ關シ何等ノ制令ナキヲ以テ各部隊長ハ各其ノ美ヲ競ヒ埃國式佛國式英國式露國式等ヲ用フルモノ少ナカラス

給與

將校ノ俸給ハ一定スルコトナク各自ノ勢力ニヨリ其ノ額ヲ異ニスルモ其ノ大要ヲ示セハ左ノ如シ

階級	年	砲	兵	其他ノ軍隊
	俸			
見習士官	「コサック」旅團 二五五、六〇 <small>圓</small>	一四二、〇〇 <small>圓</small>	一〇六、五〇 <small>圓</small>	

將	大	中	少	大	中	少
官	佐	佐	佐	尉	尉	尉
出身ノ如何ニ依リ一定セス						
	六三九、〇〇	五三一、二〇	四二六、〇〇	三八三、四〇	三四〇、八〇	二九八、二〇
	六三九、〇〇	五三二、五〇	三一九、五〇	二八四、〇〇	二一三、〇〇	一七七、五〇
						一四二、〇〇

下士卒ノ年俸ハ「テヘラン」ニ在ル者ハ二十四圓八十五錢其ノ他ノ地方ニ在ル者ハ十二圓四十二錢ヲ受クルノミ
 波斯「コサック」旅團ニ於テハ兵卒ハ十五錢、上等兵ハ十八錢、伍長ハ二十五錢、軍曹ハ二十七錢、曹長ハ三十二錢ノ月給ヲ支給セラレ
 前記俸給ノ外職務俸トシテ「コサック」旅團ニ在リテハ中、少尉ハ十四圓二十錢乃至二十一圓三十錢ヲ、中隊長ハ二十八圓四十錢—三十五圓五十錢ヲ、部隊長ハ五十三圓二十五錢ヲ受クルモ其ノ他ノ部隊ニ在リテハ其ノ額一定スルコトナシ
 波斯軍ニ在リテハ兵營内ニテ一定ノ糧食ヲ給スルコトナク政府ハ兵卒一名ニ對

シ一日約五錢ヲ支給ス此ノ額ハ數十年前ノ物價ヲ標準トシタルモノナルモ今ヤ物價騰貴シテ到底之ヲ以テ妻子ヲ養フニ足ラサルカ故ニ兵卒ノ大部分ハ他ニ職業ヲ求メ衣食ノ費ヲ得ルニ汲々タリ

第六節 常備軍ノ平時編制

一 步兵

師團及軍團ノ編制アリト雖モ唯紙上ノ空文ニ過キス平時ニ於テハ訓練經理等總テ大隊毎ニ之ヲ統轄ス
 大隊ノ編制種種エシテ概シテ七百五十人ヨリ九百五十人ノ間ニアリ將官若クハ大佐之ヲ指揮ス各大隊ハ十中隊ヨリ成リ中隊ハ下士以下約百名ナリ

二 騎兵

波斯「コサック」旅團ハ露國將校ノ指揮スル騎兵旅團ニシテ波斯軍中最有力ナルモノナリ該將校ハ形式上波斯陸軍大臣ニ隸屬スルモ其ノ實際ハ波斯國王ト露國間ノ外交的媒介者タルモノトス

旅團ハ左ノ如ク編制セラレ

騎兵四聯隊 一聯隊ハ二中隊、一中隊ハ百七十騎ニシテ全兵數千三百五十騎
歩兵一大隊 大隊ハ四中隊、中隊ハ百人ヨリ成ル
騎砲兵二中隊 各中隊ハ砲四門、兵卒八十人、彈藥車六輛ヨリ成ル
旅團軍樂隊 隊長一、兵卒五十八人
其ノ他親衛騎兵アリ、コサック旅團ニ倣ヒ編成シ訓練ハ不十分ナルモ兵卒ノ素質ハ優良ナリ

三 砲 兵

材料兵員及馬匹ノ三部ハ互ニ相關係スルコトナク各個各別ニ統轄セラレ戰術上ノ編制ヲナシ演習ヲ施行スルコト極メテ稀ナリ且其ノ編制ニ際シテハ戰術上ノ原則ニ基クコトナク現在ノ馬數ニ應シ砲ト人員トヲ配當スルヲ常トス
砲兵材料一般ニ不完全ニシテ全國ノ砲數約一千門ニ達スト雖モ實用ニ適スルモノハ約二百門ニ過キササル可シ

四 工 兵

全軍ヲ通シ僅ニ一中隊アルノミ其ノ編制不完全ナリ

第七節 平時兵力及其ノ配置

陸軍ノ組織極メテ不規則ナルヲ以テ其ノ兵力ヲ知ルコト難シ其ノ推定平時兵力ハ五萬六千四百人ヲ上ルコトナカル可シ
千九百十年ノ内閣ハ其ノ政綱ニ於テ「テヘラン」ニ七千人ノ一軍團ヲ地方ニハ新式軍二萬五千乃至三萬人ヲ配置センコトヲ述ヘタリ

第八節 教育及學校

波斯軍隊ハ正規軍ト雖モ閱兵分列ノ訓練ヲ行フノ外戰闘教練ノ如キハ殆ト之ヲ實施スルコトナク騎兵、砲兵等ハ平日ハ徒歩ニテ教練ヲ行ヒ觀兵式數日前ニ至リ漸ク乘馬シ砲ヲ牽出シテ教練ヲ行フ夏期野營地ニ軍隊ヲ集合シ演習ヲ實施スルモ其ノ大部ハ閱兵分列ノ訓練ヲ行フニ過キスシテ之ヲ正規軍ト稱スルノ價値ナシ況ンヤ不正規軍等ニ於テヲヤ

將校養成ノ爲メ一士官學校アリト雖モ學校卒業者ハ概ネ軍隊ニ入ラス他ニ職業ヲ求ムル者多シ

第九節 戰時兵力

波斯政府ノ調査スル所ニ依レハ戰時二十萬ノ兵ヲ得ヘシト云フモ其ノ計算ニ何等根據ヲ有セス其ノ實際ハ遙ニ之ヨリ少ナル可シ
前印度總督トシテ最モ波斯ノ國情ニ通スト稱セララルル「カーゾン」卿ノ説ニ依レハ戰時總兵力ハ約九萬人ナルカ如シ

秘 露 共 和 國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

秘露國ハ南米大陸太平洋岸ノ中央部ニアル共和國ニシテ現行憲法ハ千八百五十六年十月之ヲ制定シ自後更ニ同六十年十一月之ヲ改訂シ以テ今日ニ至リタルモノナリ

中央政權ハ立法行政及司法ノ三權ニ分立シ立法權ハ之ヲ議會ニ委任シ議會ハ上下兩院ヨリ成レリ上院ハ五十一人下院ハ百十六人ノ議員ヲ有シ共ニ人民ノ直接選舉スル所ニシテ六年ノ任期ヲ有シ二年毎ニ其ノ三分ノ一ヲ改選ス
大統領ハ行政上ノ最高權ヲ有シ其ノ下ニ六省ヲ置キ行政ヲ分掌セシム六省ノ區分及名稱左ノ如シ

- 一 內務省
- 二 外務省
- 三 司法、宗教及文部省
- 四 大藏省
- 五 農務及公業省

六 陸海軍省

大統領及副大統領ノ任期ハ各四年ニシテ退職後滿四年ヲ經過スルニアラサレハ再選ヲ許サス
司法部ハ最高法院、高等裁判所、地方裁判所及豫審裁判所ヨリ成リ全國ヲ九裁判區ニ分テリ
地方行政ノ爲メ國內ヲ十八縣及二海濱區ニ分チ大統領ノ任命スル知事ヲシテ之ヲ統治セシム

第二節 面積、人口

總面積六十七萬九千六百方哩(百七十六萬九千八百四方吉米)人口約四百五十萬人ヲ有シ一方哩ノ人口密度六人六ニ相當ス國民ハ印度人(五十六パーセント)混血族(二五パーセント)白人種(十四パーセント)黑人(三パーセント)及亞細亞人(二パーセント)等ヨリ成リ白人種ハ西班牙人ヲ主トナセトモ尙ホ伊太利人、獨乙人、英人及佛人等ヲ混セリ

憲法上羅馬舊教ヲ以テ國教トシ他教ノ信仰ヲ禁止セリ而シテ國民教育ハ概ネ國內ニ普及シ高等教育モ亦大ニ發達ノ域ニ進ミツツアリ

第三節 一般歳出及軍事費

千九百九年ニ於ケル歳出豫算 三一、六二二、二七四圓
陸海軍費 五、五〇六、一七二圓
同

第二章 陸軍

第一節 中央統轄機關

大統領ハ憲法上平戰兩時ニ於ケル陸海軍ノ最高統治權ノ委任ヲ受ケ外寇内亂ニ際シ動員召集及宣戰平和布告等一切ノ責任ヲ有ス
内閣ノ一員タル陸海軍大臣ハ陸海軍ノ總務ヲ掌握シ大統領及議會ニ對シ責任ヲ

負ヒ陸海軍ニ關スル法律命令規則ヲ發スト雖モ經理衛生及軍法會議ニ關スルモ
ノノ外陸軍ニ關スル一切ノ事務ハ之ヲ參謀本部長ニ委任ス
參謀本部ハ陸軍ノ最要中樞機關ニシテ陸海軍省ニ直屬シ左ノ三局五部ヲ設置シ
事務ヲ整理ス

第一局 徵兵及衛戍業務並軍隊及學校ニ關スルコトヲ掌ル

第二局 編制材料及輸送、集中業務ヲ掌ル

第三局 戰史、諜報及陸軍文庫ニ係ルコトヲ掌ル

步兵監部 步兵隊教育及射擊學校ニ關スルコトヲ掌ル

騎兵監部 騎兵隊教育及軍馬ニ關スルコトヲ掌ル

砲兵監部 砲兵隊教育及戰用材料ニ關スルコトヲ掌ル

工兵監部 要塞築城及陸軍建築ニ關スルコトヲ掌ル

測量部 國內地形測量及軍用地圖ノ調製ヲ掌ル

參謀本部ノ外衛生局、監督局及軍法會議アリ

第二節 徵兵法

男子十九歳ヨリ五十歳マテハ皆兵役ニ服スルノ義務アリ而シテ兵役ヲ左ノ四種
ニ區別セリ

- 一 現役
- 二 第一豫備兵役
- 三 第二豫備兵役

四 國民兵役

現役ハ十九歳ヨリ二十三歳マテ四箇年(歩兵ハ三箇年)トス

第一豫備兵役ハ現役ヲ終リタル者即チ二十三歳ヨリ三十歳マテトス現役及第一

豫備兵役ヲ合シテ常備兵役トス

第二豫備兵役ハ三十歳ヨリ三十五歳マテ國民兵役ハ三十五歳ヨリ五十歳マテナ

リ此ノ二兵役ニ屬スル者ハ有事ノ日ニ當リ召集編成ス可キ豫備軍ニシテ必

要ニ應シ野戰軍ニ編入スルコトアルモ國民兵役ハ所謂國內ノ地方守備軍ナ

リ

第三節 平時編制

歩兵一大隊ハ四中隊、一中隊ハ四小隊ヨリ成ル而シテ歩兵七大隊中四大隊ハ各軍樂隊一隊ヲ有ス平時一大隊ハ三百人編成トス
騎兵一中隊ハ四小隊ヨリ成リ其ノ乘馬ハ主トシテ亞爾然丁、一部ハ智利國ヨリ購入ス平時一中隊ハ百二十五人編成トス
山砲兵聯隊ハ二大隊、一大隊ハ三中隊、一中隊ハ「カネー」式山砲四門ヨリ成ル平時一大隊ハ五百九十人編成トス
工兵及輜重兵ノ編成ナシ

第四節 平時兵力

千九百四年以來議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル平時常設ノ陸軍下士卒ノ總員ハ四千人ナリト雖モ實際ニ在リテハ多少ノ増加ヲナシ目下約五千人ヲ算ス其ノ部隊數左ノ如シ

- 歩兵七大隊
- 騎兵七中隊

野砲兵一大隊(二中隊)

山砲兵一聯隊(六中隊)

徒歩砲兵一大隊

工兵半大隊

右ノ外憲兵隊及警察隊アリ共ニ司法省ニ隸屬シ前者ハ約二千ニシテ徒歩又ハ乘馬シ後者ハ約一千ヲ算シ徒歩ニシテ各都府及地方ノ安寧保護ニ任ス

第五節 教育學校

當國ニハ左ノ軍事諸學校アリ

- 一 陸軍大學校
- 二 劍術學校
- 三 陸軍兵學校
- 四 射擊學校

陸軍大學校ハ參謀本部ノ直轄ニ屬シ各兵科ノ將校ニシテ中尉ニ進級後二箇年ヲ

經過シタル者ヨリ選抜シテ入學ヲ許シ在學期ヲ二箇年トシ卒業後ハ參謀勤務ニ服セシム

劍術學校ハ一般將校ノ劍術ヲ練習スル所タリ

陸軍兵學校ハ士官學校及下士學校ニ分チ前者ノ修學期ハ四箇年ニシテ步騎砲兵科初級將校ヲ養成シ後者ノ修學期ハ二箇年ニシテ步騎砲兵科下士ヲ養成スルヲ目的トス

射擊學校ハ步騎砲兵科將校ノ爲メ小銃拳銃及火砲ノ射擊法ヲ學理及實地ニ分チ教育スルニアリ在學期ハ六箇月ナリ

第六節 要塞

當國ニハ未タ海岸要塞及陸地要塞ノ設備ナク唯「アマゾン」上流地方ニアル「イキトス」及「ロレト」ノ二市ニ舊式要塞ラシキモノアリ國境監視及地方鎮撫ノ目的ヲ以テ常ニ約六百人ノ步騎兵ヲ分遣シ數箇月毎ニ交代セシム
首府「リマ」及「カリオヤ」港ニハ外國軍ノ侵入ニ對シ防禦スル爲メ新式海岸要塞及陸

地要塞構築ノ計畫アルモ未タ工事ニ著手スルニ至ラス

第七節 戰時兵力

戰時ニ在リテハ平時兵力ヲ基礎トシ之ニ豫備兵ヲ召集シテ若干ノ野戰師團ヲ編成セントスルモノノ如シ

其ノ戰時兵力詳ナラスト雖モ戰時直ニ約八萬人ヲ動員シ得ヘシト云フ

「ヴェネズエラ」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ヴェネズエラ」國ハ南米大陸ノ北部ニ在ル地方分權制ノ共和國ニシテ各州政府ノ權限ノ大ナルコト他邦ニ其ノ比ヲ見ス而シテ獨立以後憲法ヲ無視シタル政變屢ニシテ今日ニ至ルマテ憲法ノ改訂ヲ行フコト十回ニ及現行憲法ハ千九百九年八月改訂ノモノナリ

聯合政府ノ中央政權ヲ立法行政及司法ノ三獨立機關ニ分ツ立法權ハ之ヲ國會ニ委任シ國會ハ上下兩院ニ分レ兩院議員共ニ四年ノ任期ヲ有ス

行政權ノ最高權ハ之ヲ共和國大統領ニ委任ス而シテ大統領ノ下ニ行政施行ノ爲

メ七省ヨリ成ル所ノ内閣ヲ有シ尙ホ他ニ資政院一箇ヲ備フ

内閣七省ノ名稱左ノ如シ

內務省 外務省

大藏省

陸海軍省

殖産省

公業省 文部省

資政院ハ憲法ノ制定スル所ニ從ヒ行政ニ關シ大統領ノ專斷ヲ制限スル所ニシテ各州一人宛ノ代表者即チ十人ノ委員ヨリ成リ各委員ハ四年ノ任期ヲ有シ國會ニ

於テ之ヲ選出ス

大統領ハ國會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ在職期ヲ四年ト定メ引續キ再選ヲ許サス大統領事故ノ爲メ政務ヲ執ルコト能ハサル場合ニ在リテハ資政院之ニ代ハルモノトス

聯合政府ノ中央司法機關トシテハ最高聯合法院一箇大審院一箇控訴院若干及其ノ他種種ノ裁判所ヲ有ス又各州ニハ各高等法院豫審裁判所地方裁判所及町村裁判所等ヲ有ス

地方行政ノ爲ニハ全國ヲ二十州ニ地方一聯合管區ニ分ツ各州ハ自治獨立ノ權能ヲ有シ各州憲法ニ依リ選舉セララル所ノ州立議會ヲ有ス而シテ州ノ行政執行機關トシテハ州知事副知事及州資政院ヲ備ヘ是等ノ官吏ハ悉ク州民ノ直接又ハ間接選舉ニ據ルモノナリ

第二節 面積人口

總面積三十九萬三千九百七十六方哩(九十四萬二千三百方吉米)人口二百六十六萬

四千二百四十一人ヲ有シ面積ハ南米大陸中第四ニ位スト雖モ人口極メテ疎散ニシテ南米大陸中最疎ノ人口密度(一方哩平均一人六九)ヲ保有セリ
 國民ハ印度人黑人羅甸系白人及混血種ノ四種ニシテ其ノ比例左ノ如シ
 白人種 三〇「パーセント」 印度人種 二八「パーセント」
 黑人種 一四「パーセント」 混血人種 二八「パーセント」
 國教ハ羅馬舊教ニシテ從來ハ他教信仰ヲ禁セリト雖モ近來之ヲ解禁シ新教及猶太教ヲモ見ルニ至レリ
 當國人ハ懶怠ニシテ遊蕩ニ耽リ博奕ヲ好ミ勤勉ノ性缺乏セルヲ以テ一般ノ教育制度モ極メテ幼稚ニシテ人民學事ヲ好マズ

第三節 歳出及軍事費

千九百九年度ニ於ケル歳出豫算 二〇、〇六〇、〇〇〇圓
 陸海軍費 三、八三九、七〇七圓
 同

第二章 陸軍

第一節 中央統轄機關

大統領ハ陸海軍ノ平戰兩時ニ於ケル最高指揮權ヲ有シ其ノ下ニ内閣ノ一員タル陸海軍大臣ヲ置キ以テ直接陸海軍ノ平戰事務ヲ司掌セシム而シテ參謀本部又ハ其ノ他所要ノ中央機關ヲ備ヘス單ニ全軍教育及巡閱ヲ掌ル爲メ監軍部ナルモノアルノミニシテ其ノ外ハ各州ニ一名ノ軍務官各軍隊駐屯地及要塞ニ各一名ノ總指揮官ヲ設ケ陸海軍兩大臣ニ直屬セシム

第二節 兵役及國軍ノ區分

男子二十一歳ヨリ五十歳ニ至ルマテ兵役ニ服ス可キ義務アリ然レトモ免役ノ條項頗ル多ク或ハ家族ノ情態或ハ金錢ヲ仕拂ヒ或ハ職業ノ種類等ニ依リ免役セラレ殆ント現役ニ服ス可キ要員ナシ
 當國ノ陸軍ハ之ヲ常備軍及豫備軍ニ分チ豫備軍ハ所謂民兵ニシテ各州ニ於テ平

時ヨリ國防ニ必要ナル兵員ヲ集メ豫メ其ノ編制兵力等ヲ決定シアリト雖モ是レ
單ニ形式ニ止マリ武器被服ノ準備ナク又豫メ軍事教育ヲ施行スルコトナク其ノ
價值想像ニ餘レリトス

第三節 編制

當國陸軍ハ步騎砲ノ三兵種ニ區別セリ其ノ編成左ノ如シ
步兵ハ大隊ヲ以テ最大單位トシ本部及四中隊並軍樂隊一隊ヨリ成リ一中隊ハ四
小隊ヨリ成リ其ノ人員百人トス
騎兵ハ中隊ヲ以テ最大單位トシ人員百人ヲ以テ編成シ四小隊ニ區分ス
砲兵ハ中隊ヲ以テ最大單位トシ之ヲ野砲山砲要塞攻城及海岸砲兵ノ五種ニ分チ
野砲兵一中隊ハ四門編成トス
戰時ハ以上ノ各部隊ヲ旅團又ハ師團ニ編合シ一旅團ハ各兵種毎ニ少クモ二單位
部隊ヲ合シテ編成シ一師團ハ步兵二旅團騎兵一旅團及砲兵一旅團ヲ以テ編成ス

第四節 平時兵力

常備軍ノ兵數ハ隔年毎ニ開會スル中央議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ決定シ目下五千六
百三十二人ヲ以テ定數トスト雖モ實際ハ陸軍經費ノ不足又ハ兵員志願者ノ缺乏
等ニ依リ僅ニ四十人内外ヲ保有スルニ過キス其ノ部隊數左ノ如シ
步兵二十大隊
砲兵八中隊
騎兵ハ之ヲ常設セス戰時又ハ事變ニ際シ人馬ヲ徵集シテ新ニ之ヲ編成ス

第五節 戰時兵力

戰時約十萬人ヲ動員シ得ヘシト雖モ前述ノ如ク平時武器被服ノ準備ナク訓練ナ
キ烏合團隊タル可キヲ以テ其ノ價值ヲ認ムルニ値セス

土耳其

二七〇

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

憲法ハ千八百七十六年ノ制定ニ係リ其ノ後全ク廢止セラレタル姿ナリシモ千九百八年七月ノ革命ニヨリ再ビ實施セラルルニ至レリ
行政權ハ皇帝之ヲ有シ立法權ハ議會ノ掌ル所トス議會ハ元老院代議院ノ兩院ヨリ成リ元老院議員ハ勅選ニシテ任期ヲ終身トシ代議院議員ハ人口五萬毎ニ一人ヲ選舉セル者ニシテ議員數ハ二百五十人アリ
行政區劃ノ爲メ全國ヲ三十五箇ノ州及縣ニ區分ス其ノ内七箇ハ歐洲ニ二十八箇ハ亞細亞ニ在リ而シテ之ヲ更ニ郡ニ分チ郡ハ更ニ町村ニ區分セララル

第二節 面積、人口

面積ハ二百九十八萬七千一百平方吉米人口約二千五百萬ヲ算ス但シ此ノ内ニハ「トリポリ」ヲ含ミ埃及「タソス」島等ノ貢國ヲ含有セス

第三節 豫算

豫算年度ハ三月十三日ニ始マリ翌年三月十二日ニ終ル
千九百一十一年—十二年度總歲出ハ三千六百二十三萬五千一百三十四土磅（一土磅ハ我カ約九圓ニ當ル）ニシテ其ノ内陸軍費ハ九百四十九萬一千五百七十四土磅ナリトス

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

土耳其 第一章 國勢ノ概要 第二章 陸軍

二七一

土耳其陸軍ハ現役軍、後備軍、國民軍ニ分ツ

一 現役軍（第一戰列、ニツァム）

現役軍ハ土耳其常備軍ノ骨幹ニシテ現役三年級豫備六年級ヨリ成リ平時ヨリ必要ノ司令部及其ノ他ノ機關ヲ備ヘ其ノ定員ノ如キモ名義上略、歐洲諸強國軍ノモノニ等シキ數ヲ有ス

二 後備軍（第二戰列、レヂフ）

後備軍ハ第一種第二種ニ分ル

第一種ニ屬スルモノハ九年間常備軍ニ在リテ訓練ヲ經タル者ヨリ成ル而シテ平時第一種後備軍ハ少數ナル幹部（將校下士卒）ヲ有スル基幹隊ヲ有シ戰時之ヲ充員シテ出征部隊ヲ編成ス

第二種ニ屬スルモノハ平時三乃至九箇月間ノ教育ヲ受ケタル者ヨリ成リ平時ハ基幹隊ヲモ有スルコトナク戰時所要ニ應シテ編成セララルモノトス

三 國民軍（第三戰列、ムスタフィック）

國民軍ハ戰時所要ニ應シ二年級ノ國民兵ヲ以テ編成スルモノニシテ平時幹部ヲ

備フルコトナシ

國民軍ノ外平時左記ノ民兵隊ヲ存ス

- 一 在「リバン」四中隊編成ノ基督敎徒大隊 二箇
- 一 在「トリポリス」各種兵力ノ大隊 三十箇
- 一 「アルバニヤ」志願部隊 三萬乃至四萬人

第二節 中央統轄機關

軍ノ大元帥ハ「スルタン」（皇帝）ニシテ其ノ下ニ陸軍大臣ヲ長トスル最高軍事參議院アリテ軍事ニ關スル皇帝ノ最高諮詢機關トス而シテ其ノ議員ハ各監軍特ニ指定セラレタル軍團長及若干ノ陸軍高等文官ヲ以テ之ニ任ス
陸軍省ハ上述軍事參議院ト對等ニ立チ軍事行政及統帥事項ヲ掌リ大臣官房、記錄局、參謀部及各兵種並行政區劃ニ應シテ設ケラレタル十三部ニ分ツ

第三節 地方統轄機關

地方ニ於ケル統轄機關ノ最高ナルモノヲ軍團管區司令部トス此ノ司令部ハ同時ニ徵兵補充事務ヲ管掌スルモノトス但亞刺比亞ニ於ケル軍團及獨立師團並トリボリスニ在ル獨立師團其ノ他要塞砲兵ノ一部ハ自ラ其ノ補充業務ヲ實施スルモノトス

第四節 兵役法

兵役ハ一般義務兵制ニシテ從來ハ回回教徒ノミ之ニ服セシモ千九百九年以來非回回教徒ニモ及ホスニ至レリ

服役義務ハ二十一歳ヨリ四十歳ニ至ル二十年間ニシテ其ノ區分左ノ如シ

現役 三年

豫備役 六年

後備役(第一種) 九年

國民兵役 二年

其ノ他種種ノ兵役免除ニ關スル規定アリ而シテ此ノ規定ニヨリ後備軍第二種ニ

編入セラレタル者ノ兵役ハ十八年ニシテ其ノ中六乃至九箇月間入隊シ又二箇年ヲ國民兵役ニ服スルモノトス又宗教戰爭ニ在リテハ七十歳以下ノ有ラユル回回教徒ニ屬スル男子ヲ召集シ得ルモノトス

非回回教徒ニ關シテハ原則トシテ左ノ規定ヲ設ク

- 一 如何ナル部隊ニテモ非回回教徒ハ現員ノ四分一ヲ超過ス可カラサルコト
 - 二 非回回教徒ハ必ス其ノ徵兵區以外ニ在ル軍隊ニ於テ現役ニ服ス可キコト
- 現役ニ服役中ナル回回教及非回回教ノ服役義務者ハ三箇月ノ服役義務ヲ終リタル後ニ於テ五十土耳其磅(土耳其磅ハ我カ約九圓ニ相當ス)ヲ納附シテ自後ノ現役義務ヲ免ルルノ權利ヲ有ス但除隊後ハ後備第二種ニ服役スルノ義務アルモノトス

「トリボリス」及「クルデン」ノ回回教徒並「リバノン」ノ基督教徒ハ其ノ住居地ノ部隊ニ於テ服役スルモノトス

第五節 平時ニ於ケル軍ノ區分

土耳其帝國ハ從來七軍管區及二獨立師團管區ニ區分シ各管區内ニ於ケル軍隊ノ數甚タ不定ニシテ且其ノ編制モ適當ナラサルモノアリシヲ以テ昨年一月獨國將官「フォンデル、ゴルト」將軍ノ計畫ニ基キ全然其ノ編制及配置ヲ改ムルニ至レリ而シテ新編制ハ全常備軍ヲ四箇ノ軍監區ニ分チ十四箇ノ軍團及五箇ノ獨立師團トス其ノ兵力區分左表ノ如シ

土耳其軍隊平時兵力一覽表

步 兵	陸軍省直轄				區 分	部	隊	數
	騎 兵 旅 團	師 團	軍 團	軍 監				
親一衛中兵隊								
108大	4	12	4	I コン スタ ブル ノ 1				
36機中								
135大	4	15	4	II グ サ ロ ニ				
45機中								
36大	3	7	3	III エ ル フ ア ン ギ				
21機中								
36大	2	4	2	IV ツ ド ケ ダ				
12機中								
27大		3		1 第 十 四 軍 團				
9機中								
18大		十二 第 四 十 二						
6機中								
300大	13	43	14	4				
129機中								
								計

土耳其第二章 陸軍

鐵 道 隊	電 信 隊	架 橋 縱 列	工 兵	重 砲 兵	山 砲 兵	騎 砲 兵	野 戰 砲 兵	騎 兵	乘 馬 步 兵	獵 兵
1聯 (2大)								親一衛中兵隊		
1聯 (2大)	4中	4中	4大	3大	8大	2大	12聯	13聯		24大
				(12中)	(24中)	(6中)	(72大)			4機中
	5½中	4中	4½大	3大	8大	1大	15聯	12聯	2大	27大
				(12中)	(24中)	(3中)	(90大)			4機中
	3中	3中	3大	1大	6大	2大	7聯	6聯		10大
				(4中)	(18中)	(6中)	(24大)			1機中
	2中	2中	2大		4大		4聯	7聯	2大	4大
					(12中)		(24大)			
	1中		½大	2中 (運駱駝)	5中		1大 (3中)	½聯	1大	3大
							2聯 (12中)	1聯	1½大	2大
2聯 (4大)	15½中	13中	14½大	7大 (28中) 2中 (運駱駝)	83中	5大 (15中)	243中	303聯	6½大	70大
										9機中

國境衛兵中隊	輜重兵	衛生隊
4中	4大	4中
26中	43大	4中
21中	3大	3中
	2大	2中
	3大	1中
51中	163大	14中

以上ノ外四十八箇ノ第一種後備師團幹部隊(内三十一箇ハ既成ニ屬シ殘餘ハ新設トス)ヲ有ス

第六節 戰時ニ於ケル軍ノ區分

前節所掲ノ新編成並區分ハ本年ヨリ實施セララルモノニシテ目下僅ニ其ノ緒ニ就キタルノミ故ニ現時ニ於テ動員セントセハ尙ホ舊編制ニヨリテ戰時部隊ヲ編成セサル可カラス故ニ左ニ從來ノ區分(七軍管區、二獨立師管區)ニ依ル戰時區分ヲ略說セントス

總說

土耳其軍ノ動員ハ從來ノ戰役ニ徵スルニ平時ヨリ一定ノ方法アルコトナク部隊

ハ常ニ狀況ノ要スル程度ニ應シテ使用編成セララルヲ常トス然レトモ概ネ左ノ方法ニ準據スルモノト認ムルヲ得

各軍管區ニ於テ編成スル部隊

現役師團二乃至四ヲ以テ編成セル第一戰列軍團一箇

二師團編成ノ第一種後備軍團二箇(砲兵ハ第一戰列ヨリ之ヲ附屬ス)此ノ他歐羅

巴土耳其ニテハ第二種後備師團若干及騎兵師團一箇

由是觀之歐羅巴土耳其ノ管區(三箇)ハ各三軍團一騎兵師團及要スレハ獨立步兵師

團若干ノ一軍ヲ編成シ得ルモノトス

戰時ニ於ケル團隊

現役步兵一師團ハ四大隊編成ノ二聯隊狙擊大隊一ヲ以テ編組セル步兵旅團二騎兵一乃至四中隊、砲兵一聯隊(三乃至四中隊編成ノ野砲兵大隊一乃至二要スレハ三乃至四中隊編成ノ山砲兵一大隊)工兵一中隊、師團彈藥廠一、師團衛生廠一、師團給養廠一、總計步兵十七大隊騎兵一乃至四中隊砲兵三乃至八中隊名義上ノ戰闘現員歩卒一萬三千百騎卒百五十乃至六百、火砲十八乃至四十八ヨリ成ルモ實際ニ於テハ

歩卒一萬二千乃至一萬三千、騎卒百乃至四百、火炮十八乃至二十四ニ過キス。第一種後備師團ハ歩兵四大隊編成ノ聯隊二ヨリ成ル旅團二、四中隊編成ノ騎兵聯隊一、砲兵一大隊乃至一聯隊(第一戰列ノ野砲兵若クハ山砲兵中隊三乃至八ヲ取ル)要スレハ工兵一中隊現役師團ニ於ケルト同一ナル輜重ヨリ成リ總計歩兵十六大隊騎兵四中隊砲兵三乃至八中隊此ノ戰團現員歩卒一萬二千八百、騎卒六百(恐ラクハ多クモ四百ヲ超ヘス)火炮十八乃至四十八ナリ

第二種後備歩兵師團ハ二聯隊編成ノ旅團二、騎兵及砲兵各二乃至三中隊(第一戰列ヨリ之ヲ取ル)即チ歩兵十六大隊、騎兵及砲兵各二乃至三中隊、此ノ戰團現員一萬二千乃至一萬三千、火炮十二乃至十八トス

騎兵師團(第一ヨリ第六ニ至ル)ハ五中隊編成ノ聯隊二ヨリ成ル旅團四、三中隊編成ノ騎砲兵大隊一、輜重若干ヨリ成リ總計騎兵三十中隊、砲兵三中隊此ノ名義上ノ戰團現員騎卒四千五百、實際現員約騎卒三千外ニ火炮十八ナリ

特別編成部隊

特別獵兵大隊(要スレハ第二及第三軍團ノ師團ニ附屬ス)ニ即チ歩兵大隊二、現員

千六百人

「ハミチヂエ」聯隊六十四(要スレハ外ニ機關銃及山砲ヲ附ス)總計騎兵二百七十六中隊、騎卒三萬五千

「アルパネス」志願兵六十乃至八十大隊三萬乃至四萬人

工兵中隊又ハ支隊若干軍橋輜重約十五

二中隊編成ノ獨立騎兵大隊一(在「エメン」)騎卒二百

乘馬歩兵中隊(「エメン」及「ヘヂヤズ」)四百五十人

「トリボリス」民兵ノ歩兵師團一乃至二、騎兵師團一即チ歩兵大隊三十、騎兵中隊六

十、歩卒二千四百乃至四千八百、騎兵三千乃至六千(之ヲ歐羅巴ニ使用ス可カラ

サルモノトス)

歩卒二乃至六大隊及騎卒四乃至八中隊編成ノ憲兵聯隊若干即チ歩卒二千四百

乃至四千八百、騎卒三百乃至四百(按スルニ千八百七十七年役ニ於ケルト同シ

ク第一戰列ノ部隊ト共ニ使用スルナル可シ)

歐洲戰役ニ使用シ得ル兵力大略左ノ如シ

步兵	六百二十大隊
騎兵	百六十三中隊
砲兵	百八十六中隊
機關銃	百三十七挺
人員	四十五萬人
火砲	一千門

第七節 要塞

要塞系統ヲ分テ左ノ四群ト爲スコトヲ得

- (A)「ボスボルス」及「ダーダネルス」(B)對東羅米利亞及君府附近(C)「アルパニヤ」ニ在ルモノ(D)「マセドニア」ニ在ルモノ
 - (A)「ボスボルス」
- 築城群ニアリ北ノモノハ黑海ノ咽喉ニ在リテ「シラッチファイルブルス」ノ兩砲臺ヲ有ス舊工事(千七百九十四年)ハ現代式ニ改メラレタリ中央群ハ「ルメリアナトリ」

及「アナトリ、カヴァーク」ノ諸砲臺ヨリ成ル南群ハ「マチャールブルス」及「キレッチ、ケニ」ノ兩砲臺ヨリ成リ「ボスボルス」ノ最狹部ニ位置ス「アユクデレ浦」ノ幅員七百六十米更ニ南方ニ當テ「ルメリ、ヒッサール」及「アナトリ、ヒッサール」ノ兩砲臺有リテ海峡ヲ閉鎖ス新築城ノ線(陸側ニ對シテハ防禦力ヲ有セス)ハ四五吉米ニ亘ル

「ダーダネルス」
長サ六十五吉米幅六吉米(最狹部一千八百米)舊式築城ハ「ダーダネルス」閉鎖砲臺ヨリ成ル三群ニ分ル「エーリアン海」ノ入口ニ在ルモノ其ノ北方「マイトス」附近ニ在ルモノ而シテ第三群ハ北部「ガリポリス」ト爲ス「ダーダネルス」海峡ノ入口ニハ「アク、トビア」「セデル、ポール」及「ビクムカレ」ノ諸新式築城ヲ設ク「ガリポリ」半島ノ北最狹部ヲ横キリテ設ケタル舊式築城線ナル「プライル」線ハ「サロス」灣ヨリノ攻撃ニ對スル防禦ヲ掌ル

(B) 對東羅米利亞及君府附近ノ要塞

千八百八十二年ノ築城計畫ハ「アドリアノーブル」「キルク、キリセ」「エスキ、ババ」「リユ」「レ、ブルガス」及「ユーチンケプリュー」ノ諸地ヲ築城シテ以テ東羅米利亞國境附近

ニ於テ一行動地ヲ作出シ更ニ「チャタルヂヤ」線ノ改築ニ依リテ君府ヲ防禦セン
ト企ツ就中「アドリアノール」ハ三十五吉米ノ周圍ヲ有シ無數ノ土壘ヲ有スル
一設堡陣「キルク」キリセハ三箇ノ永久築城「チャタルヂヤ」線ハ「ボスホルス」ノ西方四
十吉米ノ所ニ在リテ長サ二十五吉米舊土壘二十七新土壘ニヨリ成ル

(C) 「アルバニヤ」ニ在ルモノ

築城ハ大半半ハ頽廢セル舊園廊館城防禦兵營海岸砲臺等ヨリ成リ最重要ナル
モノヲ「スクタリ」兵備ヲ施セル館城「ブレヴエサ」ヤニヤ「舊貯藏要塞」及「メカヴオ」河
孟閉鎖要塞ト爲ス

(D) 「マゼドニア」及「コソヴゾ」洲ニ在ルモノ

最重要ノ築城ヲ「サロニカ」築城ト爲ス二十四瓏「クルップ」海岸砲臺二箇「カラブルム」
及「ミクラポイント」ノ兩所ニ在リ千八百九十七年之ヲ改築セリ有リ陸側ハ頽廢
セル館城及側射砲塔ヲ有スル圍牆ヲ以テ之ヲ防禦ス
「ユースキユー」要塞―數多ノ舊土壘ヨリ成ル
「ケプリュー」要塞―舊堡壘(道路閉鎖堡)ナリ

「イペーク」市ノ北西方ヲ防禦ス防禦ニ堪ユル覆道防舍岩石坑路ヨリ成ル
「コソソゾ」トニ於ケル築城ハ主トシテ「スコプルイ」「ノヅ」ハ「ザール」「スイニカ」
「ノヅ」ハ「ロス」「ブレブルイ」線上ニ之ヲ築ク最終ノ三箇ハ設堡陣(周圍十五吉米
ニシテ土壘ハ一部頽廢ニ歸セリ)此ノ他全土ニ亘リ特ニ國境ニ於テ無數ノ石坑
防舍等有リ

獨逸

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

立憲帝國ニシテ二十六箇ノ聯邦ヨリ成リ其ノ憲法ハ千八百七十二年四月十六日ノ制定ニ係ル

獨逸帝國ノ行政權ハ皇帝ノ稱號ヲ有スル聯邦ノ首長タル普魯西王之ヲ主宰シ責任アル帝國宰相ノ輔弼ニヨリ法律ヲ制定シ、布告シ、執行シ且官吏ノ任免ヲ爲ス

聯邦參議院 聯邦參議院ハ帝國宰相ヲ議長トシ次ノ各聯邦代表者ヲ以テ組織ス即チ普國十七名、巴威里國六名、索遜國四名、ウエルテンブルグ國四名、バーデン國三名、ヘッセン國三名、メクランブルグ、シュウエリン國二名、ブルンスウック國二名、其ノ他ノ各國一名宛之ナリ而シテ皇帝ハ本參議院ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ宣戰ヲ布告スルヲ得サルモノトス

帝國議會 帝國議會ハ普通選舉ニ依リ選舉セラレタル任期五箇年ノ代議士ヲ以テ組織スルモノニシテ各代議士ハ人口十萬毎ニ一名ノ割合ヲ以テ選出セララルモノトス

法律及豫算ハ聯邦參議院及帝國議會ノ協賛ヲ經サル可カラサルモノトス

第二節 面積及人口

一 面積

帝國ノ面積ハ保護領土ヲ除キ實ニ五十四萬二千七十二平方吉米ニシテ、我カ帝國ノ中北海道、臺灣ヲ除キタルモノニ略等シク保護領土ノ面積二百六十萬四千二百平方吉米ヲ加フル時ハ合計三百十四萬六千九十二平方吉米ニシテ即チ我カ帝國全面積ノ約四倍半ニ相當ス

二 人口

帝國ノ住民ハ保護領土ニ於ケル人民ヲ除キ千九百八年末ノ調査ニ依レハ六千三百一萬七千人ヲ算シ一平方吉米ニ百十六人ノ割ナリ
尙ホ之ニ保護領土ニ於ケル住民一千二百三十九萬八千六百十二人(即チ一平方吉米ニ於ケル密度ハ四七人ノ割)ヲ加算スル時ハ其ノ總計ハ七千五百四十一萬五千六百十二人タリ
年年海外ニ移住シ去ル人民ノ過去數年間ニ於ケル平均數ハ三萬一千人トス
尙ホ次ニ人口増加ノ割合ヲ示セハ左ノ如シ

千八百八十年 一、二四、アロセント」
 千八百九十年 一、〇七、アロセント」
 千八百九十五年 一、二二、アロセント」
 千九百年（人口五千六百三十六萬七千七百七十八人）以降千九百七年マテ
 七、五八、アロセント」
 千九百七年ノ調査ニ依レハ新兵ニ萬人ノ中無學文盲者ハ僅ニ二人ヲ算セルノミ
 ナリキ（之ヲ千八百八十年ニ見ルニ總入營者ノ中文盲ノ徒ハ實ニ二千六百六人ア
 リシナルモ自後年年約百人宛減少セリ）

第三節 總豫算及陸軍費

會計年度ハ四月一日ヲ以テ始マル
 陸軍ニ關スル豫算ハ五箇年ヲ一期トシ每期毎ニ決定スルモノニシテ此ノ期間ニ
 於テハ其ノ實施ヲ爲スニ過キサルモノトス
 千九百十年ヨリ同十一年ニ至ル會計年度ニ於ケル總歳出ハ十三億八千九百三十

八萬圓ニシテ内陸軍費ハ左ノ如シ
 經常費 三七五、五六〇、〇〇〇圓
 臨時費 二〇三、四〇〇、〇〇〇圓

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

獨逸帝國陸軍ハ常備軍、後備軍及國民軍ヨリ成ル
 常備軍ハ平時壯丁ヲ徵集シテ一定期間教育ノ後郷關ニ歸リテ各其ノ家業ニ從ハ
 シメ一朝有事ノ日之ヲ召集シテ現役兵ト相合シテ戰時編制部隊ヲ作り主トシテ
 野戰部隊トシテ第一線ニ使用セラルルモノトス
 後備軍ハ主トシテ戰時ニ方リ後備兵役ニ在ル者ヲ以テ編成シ要塞及守備部隊ニ
 使用セラレ且要スレハ野戰部隊ノ援助ニ用キラルルモノトス

國民軍ハ國民兵役ニアル者ヲ以テ組織シ戰時常備軍及後備軍ノ不足ヲ補フヲ以テ其ノ任トス

第二節 中央統轄機關

一 各聯邦諸國ノ陸軍職權

獨逸陸軍ハ左ノ如ク四國ニ分屬管轄セラレ中央軍政ニヨリテ統一セラルルモノトス

普魯西管轄

普魯西國ハ「シユワルツブルグ」「ゾンデルスハウゼン」「シヤウムブルグ」「リッペ」「リッペ・デック」「ホルデンブルグ」「サクセン・ワイマー」ノ二大公國「ブルンスウィック」「アンハルト」「サクセン・アルテンブルグ」「サクセン・マイニンゲン」「サクセン・コーブルグ」「ゴータ」ノ諸公國「ロイス」兄統及弟統ノ二侯國ハ特別ノ軍隊ヲ組織シ特別ノ記號ヲ有ス

ヲ直接管轄ス

「バーテン」大公國ハ徵兵ノ爲メ特別ノ管區ヲナシ其ノ軍隊ハ其ノ領土外ニ衝成地ヲ置クコトナシ

「ヘッセン」「メクレンブルグ」「シユウエリン」「メクレンブルグ」「ストレリツツ」ノ軍隊ハ大公國軍ト稱シ記章ヲ有スル特別ノ軍隊ヲ編成ス而シテ其ノ將校ハ皇帝ヨリ受ケル特權ノ外尙ホ大公國ヨリモ特權ヲ附與セララル

索遜國ノ管轄

索遜王國ノ軍隊ハ王ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ索遜以外ノ領土ニ使用スルコトヲ得サルモノトス索遜ノ將校ハ其ノ國ノ軍隊ニノミ勤務スルモノニシテ皇帝ノ允許ヲ受ケ王之ヲ任命ス但軍團司令官ハ王ノ推薦ニヨリ皇帝之ヲ任命ス索遜軍隊ハ制服ニ僅少ノ差異ヲ設ケテ他國軍隊ト區別ス

「ウユルテンブルグ」ノ管轄

「ウユルテンブルグ」王國ハ索遜軍隊ト同一ノ特權ヲ有スル特別ノ軍隊ヲ編成シ國王ハ軍團司令官ニ關スル外豫メ皇帝ノ承諾ヲ得ルコトナクシテ將校ヲ任命ス又此ノ國ノ若干將校ハ普魯西王國ノ軍隊中ニ勤務シ普魯西王國ノ若干將校ハ

此ノ國ノ軍隊ニ於テ勤務スルコトアリ

巴威里ノ管轄

巴威里王國ハ殆ト完全ナル自治ノ軍隊ヲ有シ此ノ軍隊ヲ巴威里王國軍ト稱シ戰時國王ヨリ動員ノ命令ヲ發シタル後ニアラサレハ皇帝之ヲ使用スルコトヲ得ス

巴威里王國ハ帝國軍隊ノ一般組織ニ準據シタル制度ヲ設ケ參謀將校及一般將校ヲ自國ニ於テ養成ス

二 軍ノ最高統帥部

聯邦全陸軍ノ首長タル獨逸皇帝ハ動員ヲ令シ戰爭ヲ準備シ軍ノ編制及教育ヲ確保シ戰時ニ於テハ之ヲ指揮スルモノトス

皇帝ノ軍事內局 皇帝ニ屬スル軍事內局アリテ其ノ第一課ハ純粹ノ軍務ヲ掌リ第二課ハ人事任命轉任賞典等ヲ掌ル

三 陸軍省

普國陸軍省ハ左ノ四局ヨリ成ル

中央局 其ノ庶務課(官房)ハ議院トノ關係重要ナル問題陸軍ニ屬スル諸種ノ協會文庫等ヲ掌リ其ノ經理課ハ特別資金ニ關スル事務ヲ掌ル

軍務局 其ノ軍事課ハ編制豫備軍演習植民地軍隊ノ事項ヲ掌リ步兵課騎兵課野戰砲兵課徒歩砲兵課工兵課交通兵課ハ各其ノ兵科ニ關スル事項ヲ掌ル

經理局 主計課糧餉課被服課兵營課演習場課及建築課ニ分ツ

恩給司法局 恩給課扶助課法務課ニ分ツ

別ニ軍馬匹補充部及衛生勤務課アリ

巴威里、索遜、ウニルテンブルグノ諸王國モ亦普國ト相似タル陸軍省ノ組織ヲ有ス

四 參謀本部

普國參謀本部 參謀本部ノ組織左ノ如シ

中央課 參謀總長ノ官房ニシテ書記及經理委員ヲ屬ス其ノ他參謀本部ハ之ヲ十課ニ分チ事務ヲ分擔セシム各課ハ四人ノ部長ニ分屬セラル

尙ホ陸軍測量部アリテ參謀總長ニ隸ス

索遜、ウニルテンブルグ及巴威里ハ各參謀本部ヲ有シ普魯西參謀本部ニ將校ヲ派遣

ス

五 兵監部

騎兵總監部 騎兵總監ハ騎兵大將ノ階級ヲ有シ中將ノ階級ヲ有スル四名ノ兵監ヲ其ノ隷下ニ有シ編制及教育ヲ掌ル但巴威里ニ於テハ巴威里騎兵監部ナ
ルモノアリ

徒歩砲兵總監部 總監ハ砲兵大將ノ階級ヲ有シ其ノ隷下ニ二名ノ兵監ヲ有シ人事教育及要塞ノ武裝ヲ掌ル

徒歩砲兵總監部ニ徒歩砲兵射擊學校及教導大隊ヲ屬ス

巴威里ニ於テハ徒歩砲兵監部ヲ有ス

技術及工兵並要塞總監部 總監ハ軍團司令官ノ階級ヲ有ス而シテ四箇ノ技術監部ハ要塞群ヲ分チテ監督シ三箇ノ工兵監部ハ工兵大隊ヲ分チテ監督ス

督ス

巴威里ハ又技術及要塞監部ヲ有ス

材料及兵器總監部 總監ハ砲兵大將ノ階級ヲ有シ中央課及陸軍試驗所之

ニ直隸シ尙ホ左記ノ諸監部ヲ其ノ直隸下ニ有ス

一 歩兵工廠監部(小銃及彈藥ノ製造)

二 砲兵工廠監部(建築、火工場、彈藥製造、鑄造所、火藥製造所)

三 兵器廠監部

四 輜重器材監督官衙

巴威里及索遜ニ於テモ亦右ノ諸監ニ相似タルモノヲ有ス

教育總監部 總監ハ教育ノ課程ヲ整理シ所轄ノ諸學校ヲ監督スルヲ以テ任

トス

總監ハ軍團司令官ノ階級ヲ有シ次ノ職員ハ其ノ隷下ニ屬ス即チ陸軍高等教育委員、同試驗委員、陸軍士官學校監、陸軍幼年學校監之ナリ

歩兵學校監部 歩兵射擊學校、陸軍體操學校及陸軍下士學校等之ニ隸ス

野戰砲兵監部 兵監ハ陸軍中將ノ階級ヲ有シ野戰砲兵射擊學校及同教導聯

隊ヲ其ノ隷下ニ有ス

交通兵總監部 總監ハ交通兵諸隊ノ勤務、教育ヲ指揮監督ス

獵兵及狙擊兵監部 兵監ハ獵兵及狙擊兵ニ關スル一般ノ教育及森林監視員ノ補充ニ關スル事項ヲ管掌ス

監軍部 監軍ハ近衛以外ノ諸軍團ヲ分チテ監督シ皇族最高階級ノ將官若クハ勅選ノ特別資格者之ニ任ス

監軍部ノ數ハ總テ五箇ニシテ各五乃至三軍團ヲ監督ス

第三節 地方統轄機關

全國ヲ二十二箇ノ軍團管區ニ分チ各軍團管區ヲ通常四箇ノ旅團管區ニ分ツ又各旅團管區ハ後備管區ニ區分セラレ全國ハ三百三箇ノ後備管區ニ分レ各管區ノ司令部ニ依リテ徵募事務ヲ執行セラル

近衛ヲ除キ一軍團ノ管轄ハ一軍團管區ニ相應ス

後備管區ハ更ニ之ヲ若干ノ徵募區ニ分チ徵募區ヲ更ニ若干ノ監督區ニ分ツ

近衛軍團並「アルサス」「ローレーヌ」及波蘭ニ駐屯スル軍隊ハ全國ヨリ徵募スト雖モ其ノ他ハ各其ノ相應管區ヨリ徵募ス

平時獨逸軍ハ二十三軍團ヨリ成リ其ノ十七ハ普魯西ニ屬シ一ハ「ウエルテンベルグ」ニ、二ハ索遜ニ、三ハ巴威里ニ屬ス而シテ普ノ十七軍團ハ近衛及第一乃至第十一並第十四乃至第十八ノ番號ヲ有シ「ウエルテンベルグ」ノ軍團ハ第八ノ番號ヲ索遜ノ軍團ハ第十二及第十九ノ番號ヲ有シ巴威里ノ軍團ハ巴威里第一ヨリ巴威里第三ニ至ル特別ノ番號ヲ有ス

第四節 兵役法

兵役

徵兵令 徵兵令ハ千八百七十一年四月十六日、千八百八十八年二月十一日、千八百九十三年四月三日及千九百五年四月十五日ニ制定及改正セラレタルモノニシテ兵役ノ義務ハ滿十七歳ニ始マリ滿四十五歳ニ終ルモソトス而シテ現役兵ノ徵集ハ滿二十歳若クハ其ノ後ノ二箇年間ニ於テス

全服役ヲ二種ニ大別ス其ノ一ハ軍隊役務ニシテ滿二十歳ヨリ滿三十九歳ニ達スル年ノ三月三十一日マテノ服役トシ他ハ國民兵役ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十五

歳マテノ間ニ於テ軍隊役務ノ服役ヲ除キタル間ノ服役トス

兵役ノ期限及條件

現役 現役ハ抽籤ニ於ケル若キ番號ノ者ヨリ初メ豫定ノ兵員ニ達スルマテ徵集セラレテ之ニ服ス而シテ其ノ服役年限ハ騎兵及騎砲兵ハ三年其ノ他ノ兵種ハ二年トシ輻重兵ハ一年トス

補足兵員 教育年度間ニ於ケル現役兵ノ缺員ヲ補充シ軍隊ヲシテ常ニ豫算上ノ定員ヲ保タシメンカ爲メ兵種ニヨリ其ノ定員ノ八乃至九プロセントノ人員ヲ一般新兵ト同時ニ定員外ニ徵集ス之ヲ補足兵員ト稱ス

豫備役 豫備役ハ兵種ニヨリ四年六箇月又ハ五年六箇月之ニ服ス而シテ豫備兵ハ服役間二回召集ヲ受ケ其ノ一回ノ最大限日數ハ八週間ナリト雖モ實際ハ之ヨリ短期ニシテ一般ニ二週間トス然レトモ大演習ニ參加スル場合及江兵ハ四週間ニシテ交通兵ニ屬スル若干ノ者ハ更ニ之ヨリ長シ又召集セララルル人員數ハ豫算ノ爲メ制限ヲ受ク

第一次後備役 第一次後備役ハ騎兵及騎砲兵ハ三年ニシテ其ノ他ハ五年ト

シ服役間二週間宛二回召集ヲ受クルヲ規則トス然レトモ實際ハ一回ニシテ且召集人員ハ豫算ノ爲メ制限ヲ受ク併シ現今政府ハ召集人員ヲ成ル可ク増加センコトニ努力シツツアリ

第一次後備役 第二次後備役ハ第一次後備役終了後滿二十九歳ニ達スル年ノ三月三十一日マテ之ニ服ス

補充兵 補充兵ノ服役期限ハ十二年六箇月ニシテ此ノ役種ニ編入セララルル者ハ兵役ニ適スルモ抽籤番號ノ高キ爲メ軍隊ニ編入セラレサル者家族ノ扶養者完全ニハ兵役ニ適セサルモ必要ニ際シ服役セシムルコトヲ得ル者並一時兵役ニ適セサル者トス而シテ此ノ種ノ兵ハ特別ノ期間召集セラレテ教育ヲ受クルモノトス但實際ニ於テハ補充兵ハ極メテ少數ノ人員ノミ召集セラレ患者ノ看護ニ使用セララルルニ過キス

第一次國民兵 兵役ニ適スルモ資格ニ缺クル所アリテ現役若クハ補充兵役ニ編入セサリシ者ヲ直接此ノ役種ニ編入ス但補充兵モ亦其ノ十二年六ヶ月ノ服役ヲ終ルトキハ此ノ役種ニ編入セラレ共ニ三十九歳マテ之ニ屬ス

第二次國民兵役 第二次國民兵役ハ第二次後備役及第一次國民兵役ヲ終ラ
タル者之ニ屬ス
總テ國民兵ハ平時服務上何等ノ義務ヲ有スルコトナシト雖モ戰時ニハ召集セラ
ルルコトアルモノトス

志願兵 志願兵ニハ二年志願兵、三年志願兵及四年志願兵ノ三種アリ
一年志願兵 一年志願兵ハ學力證明書ヲ有スル者ニシテ特別ノ試験ヲ受ケ
テ之ニ及第シ維持費ヲ自辨スルトキハ之ニ編入セラレ得ルモノニシテ滿十七歲
以上二十三歲マテ志願スルコトヲ得而シテ一年志願兵ノ軍隊編入ハ概ネ毎年十
月ニ於テシ軍隊ニ於テハ之ニ特別ノ教育ヲ施シ豫備役將校又ハ同下士タルノ準
備ヲ爲サシム
一年志願兵ハ教育ノ爲メ指定セラレタル軍隊ニ於テ其ノ所屬ヲ選擇スルコトヲ
得但若シ其ノ軍隊カ衛戍地ヲ變更シタル場合ニ於テハ該衛戍地ニ交代シ來リタ
ル他ノ部隊ニ所屬ヲ移スコトヲ得（キハ其ノ教育ヲ受ケタル部隊ノ豫備役將校又ハ下士ト爲リタルト
下士タルモノトス例之步兵第一聯隊ニ於テ教育セラレタル一）
年志願兵ハ步兵第一聯隊附ノ豫備將校又ハ下士ト爲ルナリ

一年志願兵ハ一般ニ數週間在隊ノ後ハ兵營外ニ住スルコトヲ得
小學校教員ハ一年間兵役ニ服スルモノトス

徵兵ノ資源

千九百八年ノ壯丁 徵兵審査會ノ會議ニテ處分ヲ決定セラレタル壯丁ノ
數ハ五十三萬九千五百七人ニシテ之ヲ左ノ如ク分類ス
除斥者 八百三十六人
兵役免除者 三萬四千百三十三人
補充兵及第一次國民兵 二十二萬一千五百三十三人
入營兵 海軍ハ一萬一千七百十五人ニシテ陸軍ハ二十一萬百三十七人外ニ六
萬一千百五十三人ノ志願入營者アリ

第五節 將校、下士並同相當官

一 階 級

下士 下士ハ伍長、軍曹、副曹長、曹長ノ四階級ニ分ル

將校 將校ハ少尉中尉大尉少佐中佐大佐少將中將大將元帥ノ諸階級ヨリ成ル

二 下士ノ補充及進級恩賞等

補充 下士ノ補充ニ二途アリ一ハ兵卒ヨリスルモノニシテ他ハ下士學校生徒

ヨリスルモノトス即チ左ノ如シ

(1) 兵役一年以上ヲ終了シタル者ノ中ヨリ中隊長ノ選抜ニヨリ聯隊長之ヲ伍長ニ任命ス尙ホ左記ノ者ハ定員外ニ伍長ニ任命セララルコトヲ得

士官候補生及一年志願兵ニシテ九箇月ノ服役ヲ終リ成績可ナル者再役者

ニシテ下士ニ缺員ナキ爲メ下士ノ職務ニハ適當ナルモ任命シ得サル者

(2) 下士學校生徒 下士ノ缺員ノ四分ノ一ハ下士學校生徒ヨリ補充スルモノ

ニシテ生徒ハ十七歳以上二十歳以下ニシテ未タ召集セラレサル者ヲ入學セ

シム修業年限ハ二年又ハ三年ニシテ任意ニ退校スルトキハ在學中ノ費用

年賦ニテ返還セサル可カラズ

再服役 再服役ノ志願ハ下士ヲ所罰スル權アル上官之ヲ許可スルコトヲ得而

シテ其ノ志願シ得ヘキ期限ニハ制限ナシト雖モ再服役下士ハ三箇月以前ニ制式

ノ再服役解除ノ願書ヲ提出スルトキハ之ヲ許可セラレ得ヘク又陸軍官憲ハ六箇月以前ニ豫告シテ下士ノ再服役ヲ解除シ尙ホ下士カ不軍紀ノ所爲ヲ爲シタル場合能力カ職務ニ不適當ト爲リタル場合刑罰ヲ犯セル場合ニ於テハ亦之ヲ解除スルコトヲ得

進級 伍長及軍曹ハ停年順序ニヨリテ其ノ上級ニ進級ス然レトモ伍長ハ服役

五年ノ後ハ軍曹ニ軍曹ハ服役九年ノ後ハ副曹長ニ孰レモ進級ス但不適任ト認メ

ラレタル者ハ進級ノ順序ニ達スルモ一時若クハ永久ニ其ノ進級ヲ停止セララル又

各單位部隊(中隊)ハ其ノ副曹長中ノ一名ハ之ヲ停年ニヨリテ補充スルコトヲ得

曹長ハ拔擢進級ヲ以テ任命ス

下士ノ恩給

恩給 服役十八年(勤務ノ爲メ職務ニ不適當ト爲リタル者ハ八年)以上ノ者ハ恩給ヲ給セララル而シテ恩給額ノ最小限(服役最小限ノ額)ハ其ノ最大限ノ半ニシテ服役一年ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ三宛ヲ増加ス

恩給額ノ最大限ハ夫ノ如シ即チ曹長九百圓(一圓)我カ約四十八錢(軍曹七百二十

麻伍長六百麻尙ホ手足ヲ失ヒタル者ハ増加恩給ヲ受ク、
 寡婦及孤兒ノ扶助料 千九百七年五月十七日ノ法律ヲ以テ服役中又ハ退
 役後ニ死亡シタル軍人ノ寡婦及孤兒ノ權利ヲ規定セリ其ノ扶助料ノ割合ハ役種
 階級死亡ノ原因ニ從ヒ等差アリ寡婦生存スル時ハ寡婦扶助料ノ外孤兒ハ一人毎
 ニ母ノ扶助料五分ノ一ニ相當スル孤兒扶助料ヲ受ケ母モ生存セサル時ハ母ノ扶
 助料ノ三分ノ一ニ相當スル額ヲ給セラル
 文官 下士ノ再役者ハ服役十二年ノ後ハ文官ニ任セラレ又ハ千五百麻ノ一時
 賜金ヲ受クル權利ヲ與ヘラル
 各衛戍地ニハ文官ノ職務ニ適ス可キ能力ヲ養成スル爲メ文官及將校ノ教師ヲ以
 テ下士教育學校ヲ組織ス
 雜件 軍曹及其ノ以上ノ階級ニ在ル下士ハ歸營時間ニ關シ一ノ制限ヲ受クル
 コトナシ又伍長ハ常ニ夜十時マテ外出ヲ許可セラル尙ホ其ノ既ニ結婚シタル者
 ハ全夜外泊ヲ許可セラル但此等ノ特待ハ勤務上又ハ軍紀上必要ノ場合ニ在テハ
 長官之ヲ停止スルコトヲ得

千九百七年ニ於ケル下士ノ現員 下士ノ階級ニ於ケル軍人ノ總數ハ
 八萬五千八百四十一人ニシテ次ノ如ク分類セラル

- 屬官、樂手及喇叭手 一四、六八七
- 將校ノ職務ヲ行フ者 一、三二二
- 實際下士ノ職務ヲ行フ者 六九、九一八

三 將校ノ補充、進級及恩給等

補充 補充條例ハ千九百五年三月十八日ノ訓令ヲ以テ規定セラレ其ノ補充法
 ハ多樣ナルモ主トシテ士官候補生、幼年學校生徒ヨリ補充ヲナス
 士官候補生 士官候補生ハ將校トナスノ目的ヲ以テ採用シタル青年ニシテ既
 ニ兵役服務中ノ者又ハ豫備役ニアル者ト雖モ等シク之ヲ採用スルコトヲ得
 候補生ハ特別ノ待遇ヲ受ケテ六箇月間部隊ニ服務シ次テ士官學校ニ派遣セ
 ラル

士官學校ノ課程ハ將校試験ノ準備ヲ爲サシムルニアルモノニシテ其ノ修學
 期限ハ三十五週間トシ學校ノ數ハ十一箇アリ(内一箇ハ巴威里ニアリ)

將校試験ハ圖上戰術射擊學築城學兵器學地理學軍制學等ニ就テ行ハル
將校任官ノ辭令ハ其ノ入ラント欲スル將校園ノ將校會議ニ於テ可決セラレ
タルトキニ限り勅許ヲ以テ交付セララル

幼年學校

幼年學校ノ制度左ノ如シ

- (一) 各地方ニ十歳ヨリ十二歳マテノ少年ヲ入學セシムル豫備校(地方幼年學校)八箇アリテ其ノ學費ハ父母ノ地位ニ依リテ一定セス即チ或種ノ少年ハ官費トス教育課目ハ第三年級マテハ普魯西中學校ノ近世的教課ニ準ス

- (二) エングロースリヒテルフェルドノ中央學校(中央幼年學校)ハ豫備校ノ教課ヲ繼續シテ授クル所ニシテ同校ハ生徒數増加ノ爲メ狹隘トナリタルニヨリ千九百十年四月一日以來其ノ第二年級以下ノ課程ハ若干ノ地方幼年學校ニ於テ教授スルコトナレリ
- 中央幼年學校生徒ハ第二學年ノ終ニ於テ士官候補生ノ試験ヲ受ケ其ノ一

部ハ士官候補生トシテ部隊ニ編入セラレ幼年學校出身以外ノ者ト同一ノ
經路ヲ經テ將校トナリ他ノ一部ノ者ハ學校ニ止マリ選拔級ニ移リテ課業
ヲ繼續ス

選拔級ノ幼年學校生徒ハ在校年度ノ終末ニ於テ將校試験ヲ受ケ少尉トシ
テ軍隊ニ入ルコトヲ許サル

列外將校 火藥製造所將校造兵廠將校要塞築城將校ハ專ラ下士中ヨリ採用補
充ス

曹長ハ敵前ニ於テ非凡ノ行爲ヲナシタルトキニ限り例外トシテ賞譽ノ名義
ヲ以テ將校ニ任セララル

進級 進級ニ關シテハ何等法令ノ規定ナシ又年齡ニモ制限ナシ單ニ皇帝カ慣
例ニヨリテ進級ヲ行フ而シテ實際ニ於テハ進級ニ適スル將校中ヨリ古參ノ順序
ヲ以テ之ヲ行ヒ順序ニ洩レタル者ハ退職ヲ諭旨セララル

少佐マテノ進級ハ各科毎ニ之ヲ行ヒ中佐以上ノ階級ニ進ムハ全軍ヲ通シタル
中ニ於テ行フモノトス但參謀將校ニ限り少佐マテノ進級ハ拔擢ニ依ルモノト

俸給 俸給ハ官ニ在ルカ爲ニ與フルモノニアラスシテ職ニ對シテ與フルモノナラ故ニ例ヘハ官ハ大尉タルモ職ニシテ中尉ノ職ニ在ル場合ニ在テハ中尉ノ俸給ヲ受クルモノトス

退職恩給 現役勤務ニ不適當トナリタル將校ニハ其ノ現役十年以上ノ者ニ對シ退職恩給ヲ給セラル而シテ其ノ額ハ服役十年ニ於テ俸給ノ六十分ノ二十トシ服役一年ヲ増ス毎ニ六十分ノ一宛ヲ増加ス(上長官ハ百二十分ノ一ヲ増加ス)最大限六十分ノ四十五ニ至ル

一戰役ヲ經タル者ハ停年一年ヲ加算シ又手足ヲ失ヒタル者ニハ一肢毎ニ九百麻ノ手當兩眼ヲ盲シタル者ニハ千八百麻ノ手當ヲ給ス又戰役ニ原因スル廢疾者ノ爲ニハ尉官ニ在テハ千二百麻、上長官ニ在テハ七百二十麻ヲ給ス

將校寡婦ノ扶助料 寡婦扶助料ハ故人ノ受ク可キ恩給ノ百分ノ四十トシ尙ホ孤兒ニ對シテモ扶助料ヲ給ス

將校ノ定員 戰鬪兵科將校ノ豫算上ノ定員ハ二萬五千百一十一名ナリ

補充將校(豫後備及休職ヲ總稱ス)

補充 補充將校ノ補充ニ二途アリ即チ一ハ現役ヲ退キタル將校ヨリシ他ハ一年志願兵ヨリス即チ左ノ如シ

現役十八年ヲ經過セサル以前ニ勤務ヲ去リタル現役將校ハ豫備役ニ編入セラレ但十八年後ニ軍隊ヲ去リタル者モ本人ノ願ニヨリ豫備役ニ編入セラルルコトヲ得ルモ此ノ種ノ補充將校ハ比較的少シ

一年志願兵ニシテ左ノ條件ヲ充足スル者ハ補充將校トナル

服役四箇月ノ後隊長ノ指定ニヨリ特別ノ小隊ニ任用セラレ服役終了後適任證書ヲ附與セラレ次テ除隊ノ翌年下士ノ資格ニテ八週間ノ教育ヲ受ケ更ニ將校ノ職務ヲ行フ副曹長ノ資格ニ於テ翌年同一期間新教育ヲ授ケラレ該期ノ終ニ於テ試験ヲ受ケ合格シタル者ニシテ尙ホ將校團ノ同意アリタル者

補充將校ノ定員 千九百九年ニ於ケル豫備將校數ハ二萬四百九十二名ニシテ内一萬八百四十七名ハ歩兵ナリ又後備役將校ハ一萬五千五百五十八名ニシテ内六千九百八十四名ハ歩兵ニ屬ス

進級 何レノ補充將校ト雖モ同停年同階級ニ於ケル全現役將校カ進級シタル後ニ非テサレハ進級スルコトナシ尙ホ後備役將校ハ四週間乃至八週間ノ演習召集勤務ヲナスニ非ラサレハ進級スルコトナシ

補助員

副曹長ノ特別階級ヲ以テ後備軍ニ採用セラレタル下士ハ補助員ト稱シ將校ノ職務ヲ行ヒ將校ノ俸給ヲ受ク然レトモ將校ノ待遇ヲ受クルコトナシ

休職將校

休職將校ハ徵兵區、倉庫、野營地等ニ於ケル勤務ニ服セシメラルル退職將校ニシテ尙ホ現役者ノ取扱ヲ受クルモノトス

第六節 軍隊

各兵種ノ軍隊ニハ兵種毎ニ一連ノ番號ヲ有スルノ外其ノ徵募ヲ行フ地方ノ名稱ヲ附シ尙ホ數箇ノ軍隊同一地方ニ於テ徵募セラルル場合ニハ更ニ他ノ番號ヲ附ス又或軍隊ハ其ノ長官ノ名(名譽稱號)名望家ノ名又ハ王侯ノ名ヲ取りタル特別ノ

名稱ヲ有ス

一 步兵

二箇聯隊編成ノ旅團百六箇アリ但例外トシテ若干旅團ハ三箇聯隊編成ニシテ又第六十四旅團ハ步兵一箇聯隊及獵兵二箇大隊ヨリ成レリ
各步兵旅團ハ少將之ヲ指揮ス

步兵聯隊ノ總數ハ二百十六箇トシ内百八十三箇聯隊ハ三大隊編成ニシテ三十三箇聯隊ハ二大隊編成ナリ而シテ各聯隊ハ第一ヨリ第百八十一ニ至ル一連番號ヲ有ス但近衛ノ步兵聯隊及巴威里ノ步兵聯隊ハ各別種ノ一組ヲナシテ一連番號ヲ有ス

聯隊ニハ選抜兵、狙撃兵等ノ名稱ヲ附スルモ其ノ教育及武裝ニ於テ差異アルコトナシ

歩兵大隊ノ總數ハ六百十六箇ニシテ外ニ獵兵十七大隊及狙撃兵一大隊アリ
線列歩兵、獵兵、狙撃兵ハ總テ其ノ大隊ノ編制同一ナリ即チ各大隊ハ四中隊ヨリ成
リ總計六百三十三大隊二千五百三十二中隊ヨリ成ル

教導大隊 教導大隊一箇アリテ其ノ目的ハ步兵教育ノ統一ヲ計ルニ在リテ其ノ幹部及兵卒ハ步兵ノ各聯隊ヨリ分遣ス

自轉車兵 自轉車兵ハ隊ヲナスコトナク各聯隊ノ本部ニ一名各大隊ニ二名各中隊ニ一名宛配屬セララル

機關銃隊 機關銃隊ハ總計十六隊アリテ特別ノ制服ヲ著シ一般ニ演習ニ於テ騎兵ト共ニ使用セララル

以上ノ外歩兵ノ或聯隊ニ於テハ機關銃中隊ヲ有ス即チ此ノ機關銃中隊ハ其ノ聯隊ノ第十三中隊トナルモノトス而シテ近キ將來ニ於テハ全步兵聯隊ハ總テ此ノ中隊ヲ有スルニ至ル可シ此ノ中隊ハ歩兵ノ制服ヲ著ス

千九百九年ノ終ニハ六門編成ノ右機關銃中隊ノ百七箇即チ各旅團ニ一中隊宛ヲ有シタリ

定員 定員ニハ強定員ト弱定員トノ二種アリ三大隊編成ノ近衛ノ各聯隊及アルサス、ローレーヌ州ノ諸聯隊ハ強定員ニシテ他ハ弱定員トス

強定員ニ於ケル線列歩兵一大隊ノ人員ハ將校二十二名、經理部文官二名、下士七十

四名、兵卒五百六十二名ニシテ弱定員ニ於ケルモノハ將校十八名、經理部文官二名、下士六十六名、兵卒五百四名ナリ

又獵兵大隊ハ強定員ノモノハ將校二十二名、軍醫二名、經理部文官二名、下士七十名、兵卒五百八十九名ニシテ弱定員ノモノハ將校二十二名、軍醫二名、經理部文官二名、下士六十二名、兵卒五百五十二名トス

機關銃隊ノ定員ハ將校四名、下士卒八十七名、馬匹五十四頭、機關銃六門、彈藥車三輛トス又同中隊ノ定員ハ將校四名、下士卒八十三名、馬匹二十六頭、機關銃六門、彈藥車三輛トス

戰時編制 戰時各步兵聯隊ハ三大隊編成トナル

軍團毎ニ一補充隊編成セラレ豫備兵及後備兵ヲ編入ス

豫備及後備 各後備管區ニ於テハ現役聯隊ニ充用セサル豫備兵及若干年次ノ後備兵ヲ以テ豫備隊ヲ編成ス

右ノ外尙ホ古年次ノ後備兵ヲ以テ後備隊ヲ編成スルコトヲ得ヘシ

國民兵 國民兵隊ノ編制ハ不明ニシテ其ノ動員ハ特別命令ニヨリテノミ實施

セラル

一一 騎兵

騎兵旅團ノ總數ハ五十一箇ニシテ各旅團ハ二箇聯隊ヨリ成ル(例外トシテ三聯隊ヨリ成ル旅團アリ)

各旅團ハ其ノ所屬師團ト同一ノ番號ヲ有ス

騎兵聯隊ノ總數ハ百三個ニシテ各聯隊ハ五中隊編制(巴威里ノ五箇ノ騎兵聯隊ハ四個中隊編制)ナリ

騎兵中隊ノ總數ハ五百十箇ニシテ今各騎兵聯隊ノ種別ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 普魯西近衛騎兵聯隊 一 箇
 - 普魯西胸甲騎兵聯隊 九 箇
 - 普魯西騎兵聯隊 一 箇
 - 索遜短銃騎兵聯隊 一 箇
 - 巴威里騎兵聯隊 二 箇
- 以上ハ重騎兵聯隊ニシテ總計十四箇聯隊トス

鎗騎兵聯隊 二十六箇

(内普魯西十九箇、索遜三箇、ウエルテンベルヒ二箇、巴威里二箇)

龍騎兵聯隊 二十八箇

(内普魯西二十六箇、ウエルテンベルヒ二箇)

輕騎兵聯隊 二十一箇

(内普魯西十八箇、索遜三)

普魯西ノ獵騎兵聯隊 六 箇

巴威里輕騎兵聯隊 八 箇

定員 騎兵モ亦強定員、弱定員ノ二種ニ分レ「アルサス」「ローレーヌ」ニ駐屯スル普魯西及巴威里ノ聯隊ノミ強定員ニ屬ス

強定員ニ於ケル一聯隊ハ將校二十五名、下士卒七百二十五名、馬匹六百七十八頭トス

シ弱定員ノ聯隊ハ將校二十五名、下士卒六百九十五名、馬匹六百七十八頭ナリトス

戰時編制 戰時聯隊ハ四箇乃至六箇ノ中隊ニ動員セラレ一中隊ノ定員ハ刀數百五十トス

豫備及後備

豫後備兵ヲ以テ第二戰列ニ充用セラル可キ數中隊ヲ編成ス可シ

三 野戰砲兵

野戰砲兵ハ總數四十六旅團ニシテ各旅團ハ二箇聯隊ヨリ成ル聯隊ノ總數ハ九十四箇ニシテ各聯隊ハ一般ニ三中隊ノ二大隊ヨリ成ル(聯隊九十箇ノ中一ノ教導聯隊アリ)

輕榴彈砲 近衛ヲ除キ各軍團中ニ於ケル砲兵聯隊中ノ一箇ハ其ノ一箇大隊ヲ輕榴彈砲ヲ以テ編組ス

騎砲兵 野戰砲兵諸聯隊中十一箇聯隊ハ其ノ二箇大隊ノ外ニ二中隊編成ノ騎砲一大隊ヲ有シ六箇聯隊ハ其ノ一大隊(三中隊編成)ヲ騎砲兵トス又二箇聯隊ハ其ノ一箇大隊内ニ騎砲一中隊ヲ有ス

教導聯隊 教導聯隊ハ三大隊編制ニシテ其ノ一大隊ハ榴彈砲ヲ有ス

巴威里ノ聯隊 巴威里ノ砲兵聯隊ハ總テ五中隊編制トス
野戰砲兵ノ中隊ノ總數ハ五百七十四箇ニシテ内四百六十九箇ハ乘車砲兵四十二

箇ハ騎砲兵六十三箇ハ輕榴彈砲兵トス

定員 乘車砲兵ノ強定員ニ於ケル中隊ハ將校四下士二十一卒百七人馬匹七十八トシ普通定員ニ於ケル一中隊ハ將校四下士十九卒九十六馬匹六十六又弱定員ニ於ケル一中隊ハ將校四下士十九卒八十三馬匹五十一トス

騎砲兵一中隊ハ強定員ニ於テ將校五下士二十卒百一馬匹百二十四トシ弱定員ニ於テハ將校四下士十七卒七十五馬匹八十トス

強定員ニ於ケル乘車砲兵中隊ノ數ハ二十一箇(内九箇ハ教導聯隊ニ屬ス)騎砲兵中隊ノ數ハ二十二箇トシ普通定員ニ於ケル乘車砲兵中隊ハ三百九箇トシ弱定員ニ於ケル乘車砲兵中隊ハ二百一箇騎砲兵中隊ハ二十箇ナリトス

戰時編制 戰時各砲兵中隊ハ動員セラレテ火砲六門ノ編成トナリ尙ホ之ニ輕彈藥縱列及彈藥縱列ヲ附屬ス(後文大單位ノ部參照)

豫備及後備 豫後備兵ヲ以テ第二戰列ニ於ケル砲兵中隊及彈藥縱列ヲ編成ス

徒步砲兵

徒歩砲兵聯隊ハ總數十八箇ニシテ内四箇聯隊ハ三大隊編制他ノ十四箇聯隊ハ二大隊編制トス尙ホ諸聯隊中ノ十三箇ハ各緊駕隊一箇ヲ有ス
右ノ外ニ徒歩砲兵教導大隊一箇及試験中隊一箇アリテ教導大隊ハ四中隊編制トシ尙ホ緊駕隊一隊ヲ附ス

大隊ノ總計ハ四十箇ニシテ百六十五中隊ヨリ成ル
定員 一中隊ハ將校四名乃至五名下士二十七名卒百二十一名トシ緊駕隊ハ將校一名下士十名卒七十二名馬匹七十七頭(内六十頭ハ鞍馬)トス

戰時編制 動員セラレタル徒歩砲兵ハ左ノ如ク配屬セラル

一 軍團毎ニ火砲四門ノ中隊四箇ヲ有スル十五珊米榴彈砲大隊一並輕彈藥縱列一箇及彈藥縱列八箇

二 或ル軍ニハ二十一珊米臼砲四門ヲ有スル中隊二箇ヨリ成ル臼砲大隊一箇並輕彈藥縱列一箇及彈藥縱列四箇

右ノ外諸種口徑ノ火砲ヨリ成ル攻城廠ノ若干ヲ編成セラル

四 工兵

工兵ハ總テ二十九大隊アリテ各大隊ハ四中隊ヨリ成ル但巴威里ニハ二中隊編成ノモノアリ總計百十五中隊トス

定員 一大隊ハ將校二十四軍醫二經理部文官二下士九十三卒五百十八ヨリ成ル

戰時編制 戰時工兵ハ架橋輻重ト共ニ各師團及軍團ニ一中隊宛配屬セラレ尙ホ他ニ要塞工兵大隊及攻城大隊等ヲ編成ス

五 交通兵

交通兵ハ左ノ三種ニ分ツ

一 鐵道隊

二 電信隊

三 氣球隊

第一 鐵道隊 鐵道隊ハ左ノ諸隊アリ

甲 普魯西ノ鐵道旅團 此ノ旅團ハ三聯隊(一聯隊ハ二大隊編制ニシテ大隊ハ四中隊ヨリ成ル)及作業一隊(建築保線及伯林、ジューテル、ボグ間ノ工事ヲナス)

ヨリ成ル

乙 巴威里ノ鐵道大隊 此ノ大隊ハ三中隊ヨリ成ル

定員 大隊ハ將校二十二名、經理部文官二名、下士八十一名、卒四百八十八名ヨリ成リ、作業隊ハ將校十五名、軍醫一名、經理部文官三名、下士百二十五名、卒四百三十八名ヨリ成ル

第二 電信隊 ハ左ノ諸隊ヨリ成ル

甲 普魯西ノ電信四大隊 各大隊ハ四中隊(内一中隊ハ無線電信)ヨリ成リ、尙ホ繫駕隊一隊ヲ附屬セラル

第一大隊ハ索遜ノ中隊及、ウエルテンベルヒノ支隊ヲ含ム、又騎兵電信學校ハ同大隊ニ屬セラル

乙 巴威里ノ電信半大隊 此ノ大隊ハ二中隊及無線電信一小隊ヨリ成リ、尙ホ繫駕一隊ヲ屬セラル

騎兵電信學校ハ亦此ノ大隊ニ附屬セラル

第三 氣球隊 ハ左ノ諸隊ヨリ成ル

甲 普魯西ノ氣球一大隊 此ノ大隊ハ三中隊及繫駕一隊ヨリ成リ、其ノ第三中隊ニハ誘導氣球ノ研究及使用ヲ委托セラル

新ニ豫算外ニ「メツツ」ニ編成セラレタル第四中隊ハ又誘導氣球ノ研究及使用ニ任ス

乙 巴威里ノ氣球枝隊一箇

定員 氣球大隊ハ將校十四、下士卒三百二人ヨリ成リ、巴威里ノ枝隊ハ將校五、下士卒五十五名ヨリ成ル

以上ノ外左記ノモノハ交通兵ニ屬ス

- 一 普魯西ノ交通兵試験部隊、試験中隊及自働車並自働車枝隊ノ常置幹部隊(大尉一、中尉四、下士二十及各兵科ノ部隊ヨリ分遣セル兵卒百五十人)
- 二 巴威里自働車枝隊 此ノ隊ハ巴威里鐵道大隊内ニアリ
- 三 要塞ニ於ケル通信職員 此ノ職員ハ試験部隊ニ屬シ無線電信、氣球、自働車、信號、鐵道等ノ特別事務ニ服ス
- 四 志願自働車團

五 志願自働自轉車團

交通兵ハ將來尙ホ大ニ擴張セララルル模様アリ

六 輜重兵

輜重兵ハ總數二十三大隊ニシテ各大隊ハ三中隊ヨリ成ル

定員 大隊ハ將校十三下士七十卒二百三十ヨリ成ル

戰時編制 各輜重兵大隊ハ戰時二分セラレ現役大隊長指揮ノ下ニ新ニ輜重二

大隊トナリ次ノ諸單位ノ編成ニ任ス即チ

第一大隊ノ第一乃至第三糧食縱列第一乃至第三車廠縱列第一馬廠並第一乃至

第六野戰病院

第二大隊ハ第四乃至第六糧食縱列第四乃至第六車廠縱列第二馬廠第七乃至第

十三野戰病院

輜重兵ハ右ノ外尙ホ次ノ諸部ノ動員ヲ擔任ス即チ各軍團ニ豫備衛生中隊各軍團

及各師團ノ架橋輜重ノ緊需隊並野戰製麵廠縱列之ナリ

野戰製麵廠ハ將校二主計一下士卒百八十四馬九十九車二十五竈十二ヨリ成

七 憲兵

憲兵ノ隊數左ノ如シ

普魯西憲兵 十二隊

「アルサス」ローレーヌニ 一隊

「ウエルトンベルヒ」ノ憲兵 一隊

巴威里ノ憲兵 一隊

各國ノ憲兵特別隊 數 箇

八 植民地軍隊

海軍歩兵三大隊アリテ各四中隊ヨリ成リ海軍大臣ニ屬ス但此ノ大隊ハ純粹ノ植

民地軍隊ニ非ラサルモ海上勤務ニ使用セララルモノナリ

極東派遣隊 青島北京天津等ニ配置セラレアリ目下清國事變ノ爲メ兵力配

置等精確ナル記述ヲ爲スヲ得ス

「カメルーン」派遣隊 歩兵十中隊一幹部隊及砲兵ノ一隊アリテ人員總計

千五百人内歐洲人百五十人ヲ有ス
 東阿非利加派遣隊 歩兵十四中隊、機關銃一隊、砲兵三大隊、信號隊一隊及警察隊アリテ其ノ人員總計二千五百人内歐洲人二百五十人ヲ有ス
 西南阿弗利加派遣隊 歩兵十中隊、機關銃三隊、砲兵三中隊、信號隊、電信隊各一部隊及警察隊並各種ノ勤務部隊アリテ人員總計約二千五百人ヲ有ス
 以上諸兵種及植民地軍隊ノ外德治隊七隊アリテ内一ハ近衛ニ、三ハ普魯西ニ屬シ「ゲーニグスベルヒ」「マグデブルグ」「マイエンス」ニ在リ、「ドレスデン」ニ在ル一隊ハ索遜ニ屬シ、「ウルム」「ニアル」一隊ハ「ウエルテンベルヒ」ニ屬シ、「インゴルスタット」ニ在ル一隊ハ巴威里ニ屬ス

第七節 參謀團

一 參謀職員

參謀勤務ハ左記ノ者ヨリ成ル
 純粹ノ參謀將校

日常ノ事務及庶務ヲ執ル副官

傳令使ノ資格ヲ以テ軍隊ヨリ派遣セラレタル將校

〔軍後方ニ在テ歴史、地理ノ如キ特別事務ニ當ル「ツォーゲダイルテ」ト稱スル將校
 平時高等司令部ニ於ケル參謀及副官數左ノ如シ

軍團 參謀長一名(大佐又ハ中佐)、參謀將校二名(少佐一名、大尉一名)、副官三名
 師團 參謀將校一名、副官一名
 旅團 副官一名

二 參謀將校ノ補充

伯林及「ミュンヘン」ノ陸軍大學校 學生採用ノ條件、目的、編制及課程ハ兩學校ニ於テ相似タリ但修學期限ハ伯林ノモノハ三年ニシテ「ミュンヘン」ノモノハ二箇年トス

學生ノ採用條件 將校トシテノ服役三年以上ナル各兵科將校ハ入校資格ヲ

有シ階級及年齢ニ制限ナシト雖モ實際ハ中尉ニ限レリ

筆記試験ハ戰術、兵器學、築城學、地形學、歴史、地理、佛語及數學等ノ諸科目ニ就キ軍

團參謀長ヲ委員長トスル委員ニ依リ各軍團司令部ニ於テ之ヲ行ヒ合格者ヲ陸軍大學校ニ派遣スルモノトス毎年ノ入校許可者ハ百六十名ナリ

課程ノ期限及組織

各將校必修科目トシテハ若干ノ科目アルノミニシテ

他ハ隨意科目ナリ即チ第一學年ニ於テハ歴史(一六四七年—一八一五年)戰史戰術築城軍制兵器衛生勤務ヲ必修課トシ歴史(一六四八年以前)萬國地理數學物理學佛語英語露西亞語又ハ日本語ヲ隨意課目トシ第二學年ニ於テハ戰術歷史(一八一五年—一八七一年)築城測圖海戰術交通學ヲ必修課トシ隨意課ハ第一年ト同一ナレト尙ホ化學測地學衛生學アリ第三學年ニ於テハ要塞戰術歷史(一八七一年役)戰術ヲ必修課トシ語學數學國法國際法測地學ヲ隨意課トス

試驗

每學年末ニハ筆記試驗ヲ行ヒ第三年ニハ戰史ニ關シ更ニ重要ナル事項ヲ試驗ス卒業試驗ノ問題ハ教官採點シ各課目擔任教官ノ承認ヲ經テ陸軍大學

校長ニ提出シ之ヲ以テ卒業ヲ定ムルノ基礎トナス而シテ校長ハ更ニ之ニ特別ノ採點ヲ施シ以テ參謀勤務ニ對スル將校ノ適否ヲ定ム

第三學年ノ終ニハ將校ハ各部隊ニ歸還シ參謀本部ニ於テ見習ヲナス可キ者ハ

六箇月後ニ軍隊ヲ去リ參謀本部ニ入ルモノトス而シテ近頃ニ於テハ此ノ見習勤務ニ指定セラルル將校ノ數ハ五十五名乃至六十名トス

毎年見習勤務ノ後此等ヲ純粹ノ參謀官トナル者副官トナル者學校ノ教官トナル者單ニ聯隊附トナス可キモノニ區分決定ス而シテ純粹ノ參謀官トナル者ハ總計二十乃至二十五名ナリトス

充用見習勤務ニ於テ參謀適任ト認メラレタル將校ハ中尉ナルトキハ拔擢ニヨリ大尉ニ進級シ參謀ノ制服ヲ著シ參謀官ニ充用セラルル而シテ參謀タラサル者ハ原隊ニ歸還スト雖モ多クハ副官ニ任セラル

參謀總長ハ參謀將校ノ人事ヲ左右シ一時又ハ永久ニ軍隊ニ歸還セシムルコトヲ得

第八節 諸勤務

一 經理勤務

職員 職員ノ補充ハ一般市人ヨリ試驗ヲナシテ採用スルヲ原則トスルモ例外

ニハ現役將校ヨリ補充シ又ハ經理部屬官ヨリ採用スルコトアリ
經理部屬官 經理部屬官ハ陸軍ノ主計下士ヨリ補充シ例外トシテ一般人ヨ
リ試験ヲ以テ採用ス

勤務ノ組織 軍團毎ニ陸軍監督部長一名アリテ監督四名又ハ五名之ヲ補給
シ其ノ他建築勤務ノ職員一名又ハ二名補給員一名又ハ二名見習官一名アリ尙
ホ俸給、糧秣、被服、陣營、病院ノ五課ニ分屬セラルル屬官(給養將校)若干名アリ
各師團ニハ監督一名、屬官四名、書記若干アリ

部隊ノ經理 部隊長ハ部隊ノ資金使用ニ關シテ責任ヲ有ス
聯隊ニハ金櫃ヲ有セスト雖モ各大隊ニハ金櫃一ヲ有ス但騎兵聯隊ハ經理勤務
ニ關シテハ大隊ニ相當ス而シテ此等ノ經理單位ハ將校及同相當官下士卒ノ給
與ヲ確保シ且軍用需品ノ充足ニ必要ナル資金ヲ供給セラルルモノトス又多ク
ノ大隊ヲ有スル聯隊ノ本部ノ經理ハ其ノ某一大隊ニ於テ擔當ス
聯隊長ノ處理ス可キ資金(積立金、音樂費、射擊費、教育費、將校ノ文庫資金、共濟資金)
ハ一般ニ聯隊本部ノ經理ヲ委託セラレタル大隊ノ金櫃ニ預托ス

俸給 俸給ハ通貨ヲ以テ支給ス

糧秣 糧秣ハ現品支給トス即チ麵麩、ビスケット、罐詰、菽秣ノ如シ而シテ其ノ他ノ

物品ハ軍隊ニ於テ調辨ス

被服及裝具 軍團毎ニ工場及倉庫ヲ有シ靴ヲ製造ス而シ靴以外ノ製造ハ設

備ノ有無ニ從フモノトス而シテ此等ノ勤務ニ從事スル將校ハ特別ノ部團ニ屬
スルモノトス

陣營及宿舍手當ノ勤務 此ノ勤務ハ陸軍營造物(要塞ヲ除ク)、材料、寢具、暖爐、

點燈、陸軍所轄地、野營地、入浴等ノ事務ヲ掌ルニ在リ

勤務員ハ種種ノ特別階級ヲ有ス即チ「デレクトウール」「インスペクトウール」「ズブ
インスペクトウール」等アリ

陸軍建築勤務 陸軍建築勤務ハ要塞以外ノ總テノ建築事業ヲ掌リテ建築工

事ノ計畫及見積ヲナシ又ハ之ヲ検査スルニアリ而シテ工事ノ實施ハ勤務員監
督ノ下ニ於テ建築長ヲシテ爲サシム

軍團毎ニ多クノ建築物管區アリテ各管區ハ陸軍建築監ヲ以テ其ノ長トス

築城將校 陸軍建築勤務ノ將校ハ「シャルロットンブルグ」ノ築城學校ヲ卒業シタル下士ヲ以テ補充ス而シテ該將校ノ階級ハ大尉以上ニ及ハサルモノトス
 築城曹長ハ千九百七年ニ設立セラレタル「ストラスブルグ」ノ築城曹長學校卒業者タル下士ヲ以テ補充ス

二 衛生勤務

衛生部職員 衛生部職員ハ陸軍將校ニ相應セル階級ヲ有ス即チ軍醫總監(師團長若クハ旅團長相當)二等軍醫正(大佐相當)二等軍醫正(中佐相當)三等軍醫正(少佐相當)二等軍醫(大尉相當)二等軍醫(中尉相當)三等軍醫(少尉相當)之ナリ
 軍醫ノ補充 軍醫ノ補充ニ二途アリ即チ左ノ如シ
 一 伯林ニ於ケル「ウキルヘルム」皇帝學校生徒ヨリスルモノ
 二 醫師ノ免狀ヲ有スル一般醫學生ヨリスルモノ
 右二種ニ屬スル見習醫官ハ軍隊ニ配屬セラレル以前ニ於テ伯林又ハ他ノ市府ニ於ケル病院ニ於テ一箇年間實地演習ヲ爲ス可キモノトス而シテ軍醫任官ノ場合ニハ師團附全軍醫ノ承認ヲ經ヘキモノトス

豫備役軍醫ノ補充モ亦現役ノ補充ニ同シキモ見習醫官トシテノ見習勤務ハ六週間トス

下級衛生部員

下級衛生部員ハ兵卒ニシテ三種ニ分ツ可シ即チ第一ハ看護卒ニシテ一般壯丁ヨリ直接ニ又ハ部隊ノ兵卒中ヨリ補充シ二箇年服役ノ後六週間本科ノ教育ヲ受ク可キモノトシ第二ハ衛生卒ニシテ部隊ニ屬シ看護勤務又ハ病院ノ勤務ニ充用セラル而シテ此ノ兵卒ハ師團病院ニ於テ六箇月間ノ課程ヲ修得ス可キモノトス第三ハ非軍人タル職員ニシテ舊軍人ヨリ採用セラル

衛生部ノ經理職員

經理職員ハ文官ニシテ退職將校及下士中ヨリ補充シ試験見習保證建物ノ管理計算及記録ヲ掌ル

衛生勤務ノ組織

陸軍省ニ中央局アリテ局長ハ軍醫總監トス
 各軍團ニ軍醫部アリテ軍團長ニ屬シ其ノ專門勤務ニ關スル顧問タル軍醫部長之ヲ管理ス

各師團ニハ一名ノ軍醫部長アリテ若干ノ軍醫ノ補佐ヲ受ケ師團長ニ屬シテ勤務ヲ管理シ特ニ職員ノ専門的教育ヲ監視ス

各部隊ニハ勤務長タル軍醫一名各大隊ニハ軍醫一名並診斷及看護卒ノ教育ヲ
委託セラレタル軍醫數名アリ

戰時ニ於ケル勤務ノ組織 戰時各聯隊ハ其ノ衛生勤務ノ爲メ必要ナル軍

醫ノ増員ヲ行ヒ且各中隊ニ看護卒一名擔架卒四名ヲ附ス

衛生中隊 衛生中隊ハ軍隊ノ衛生勤務ヲ助ケ負傷者ノ運搬及綑帶ヲ掌ルモノ

ニシテ其ノ定員ハ輜重兵大尉一名戰鬪兵科ノ將校二名軍醫八名藥劑官一名仕

拂官一名下士二十八名(内八名ハ看護下士)擔架卒百八十四名輜重ニ屬スル下士

及兵卒三十三名トス

野戰病院(寢臺數二百)ハ軍醫六名藥劑官二名及其ノ他ノ下士卒ヨリ成ル

藥劑官 藥劑官ハ將校ノ階級ヲ有セサル陸軍文官ナリ而シテ其ノ補充ハ普通

藥劑師ニシテ六箇月間見習勤務ヲナシタル者ヲ以テス

三 獸醫勤務

陸軍獸醫團ハ千九百十年以來從來ノ文官ニ代ヘラレタルモノニシテ其ノ階級ハ

大佐相當官少佐相當官特種ノ少佐相當官大尉相當官中尉相當官及少尉相當官ニ

分レ各特種ノ名稱ヲ有ス

獸醫ノ補充 陸軍獸醫學校生徒ヨリスルモノニシテ生徒ハ一年二年及三年

ノ特別志願服役ヨリ成ルモノトシ志願者ハ軍隊ニ於テ六箇月間勤務ニ服シタ

ル後伯林ノ蹄鐵學校ニ入りテ六箇月間修業シ試験ニ及第セハ陸軍獸醫學校ニ

入校ス而シテ同校ヲ卒業スルトキハ部隊ニ配賦セラレテ二等獸醫トナリ六箇

月間伯林ノ實施學校ニ分遣セラレテ實地勤務ヲ修得スルモノトス

獸醫官ニ任命セララルルニハ其ノ配賦ヲ希望スル部隊ノ將校團ノ將校會議ニ於

テ可決セララルルヲ要スルモノトス

四 陸軍裁判所勤務

陸軍裁判所ノ常置職員左ノ如シ

陸軍裁判所判事數名

報告者トシテ分遣セララルル隊附將校數名

判士トシテ指定セララルル將校數名

書記及執達吏

五 陸軍牧師

將校相當官タル高等文官ヲ以テ之ニ充ツ即チ新舊兩教ノ牧師各一名アリテ全陸軍牧師ヲ統督セシメ各軍團各師團及主要ナル各衛戍地ニ新舊兩教ノ牧師數名ヲ置キテ此ノ勤務ヲ實施セシム尙ホ右牧師ヲ補助セシムル爲メ陸軍聖堂監視者若干名ヲ置ク

第九節 要塞

獨逸ノ要塞ハ左ノ四群ニ大別セララル

- 一 西方「モーゼル」「ライン」「ドナウ」河孟
- 二 東方湖水地帯「ワイクセル」「ワアルテ」及「オーデル」河孟
- 三 北方東海「カイゼル」「ウイルヘルム」運河及北海沿岸
- 四 内部

以上ノ内「ウイルヘルムス」「ハーフェン」及「キール」ノ二大軍港要塞及「ヘルゴランド」島「ボルクム」島並「ゲステミニンデ」要塞ハ何レモ帝國海軍省ニ其ノ他ノ要塞ハ普國陸軍省

ノ管下ニ屬ス

陸地要塞中佛國國境ニ在ル「メッツ」「ストラスブルグ」並露國國境ニ在ル「トルン」「ボーゼン」「アレ斯拉ウ」等ノ要塞ハ規模宏大ニシテ近世式築城ヲ施シアリ

第十節 學校及教育

伯林及「ミュンヘン」ノ陸軍大學校 參謀勤務ノ部ヲ參照ス可シ

陸軍技術大學校 陸軍技術大學校ハ各兵種將校陸軍技術科學教育ノ中心ニシテ兵器工兵通信ノ三科ニ分チ學生タル將校ハ毎年研究ヲ修了シタル後更ニ高等ノ教育ヲ受クルコトヲ指定セララルヲ得其ノ修業期間ハ一年二年又ハ三年トス

外國語ノ研究 之カ爲メ特ニ費用ヲ支出シ其ノ一部ハ外國ニ於ケル將校ノ旅行ニ充テラレタリ

「シュューテルボック」ノ野戰砲兵射擊學校 此ノ學校ハ新ニ任命セラレタル將校及豫備將校ノ爲ニ教育ヲ爲ス

「ジューテルボック」ノ徒歩砲兵射擊學校 前ニ同シ
 伯林ノ陸軍體操學校 此ノ學校ハ歩兵砲兵及工兵ノ將校ヲ教育ス
 「ハンノーブル」ノ乘馬學校 此ノ學校ハ騎兵及砲兵將校ヲ教育ス
 「バデルボルン」及「ソルタウ」ノ馬術豫備學校 此等學校ハ新任將校ノ教育ヲ完成スルモノニシテ「ソルタウ」ノ學校ハ千九百十年創設セラレタルモノナリ
 「ミュンヘン」ノ馬術學校 此ノ學校ハ巴威里ノ騎兵將校ヲ教育ス
 「ドレスデン」ノ馬術學校 此ノ學校ハ索遜ノ騎兵將校ヲ教育ス
 「デベリッツ」ノ飛行學校 此ノ學校ハ飛行機ノ操縦ヲ學ハシムル爲メ各部隊ヨリ派遣セラレタル將校ヲ教育ス
 野營地 各軍團「メッツ」ノ第十六軍團ヲ除クハ總テ教育ノ爲ノ野營地ヲ有ス
 兵營ニ於ケル農業經濟課程 兵營ニ於テ耕作ノ教育ヲナシ以テ市府ニ向テスル農民ノ移住ヲ減少センカ爲メ此ノ教育ハ今ヤ獨逸軍隊内ニ一般ニ普及シツツアリ
 千九百十一年ニ於ケル豫後備兵ノ召集

千九百十一年ニ於テハ左ノ如ク豫後備軍人ノ召集ヲ行ヘリ
 普 國 下士四千四百八十一人 兵卒三十五萬三千八百八十五人
 索 遜 下士三千七百八十人 兵卒三萬四千六百六十六人
 「ウニルテンベルヒ」 下士二千八百五人 兵卒二萬一千四百五十人
 巴威里 下士卒約四萬六千人
 召集期日ハ豫備兵ノ爲ニハ二十八日後備兵ノ爲メニハ十四日トス
 又將校ハ十五日乃至五十六日間召集セラルル而シテ其ノ人員ハ上長官五十四人、大尉五百四十三人、中尉千二百二十人、少尉六千八百八十八人ナリトス

陸軍以外ニ於ケル軍事教育協會

在郷軍人協會

此ノ協會ハ政府ノ獎勵ニヨリテ設立セラレタルモノニシテ其ノ目的ハ會員相互ノ共濟、各種ノ慈善的事業並獨逸帝國、皇帝、王公及其ノ本國ニ對スル忠誠ノ感情ヲ維持獎勵スルコトヲ圖ルニアリテ其ノ主ナルモノハ二大聯合ニ組織セラルル即チ左ノ如シ

「キートン」ホイズル會 此ノ會ノ目的ハ千八百九十六年ニ於ケル「ウィルヘルム」第一世紀念碑ノ建設後ニ拘ハリ千九百九年ニハ二萬九千八十四箇ノ會及會員二百五十萬人ヲ有セリ

獨逸在郷軍人會 此ノ會ノ目的ハ生命保險會社ヲ設立シ會員ノ窮乏者及寡婦孤兒ヲ救助シ尙ホ赤十字ノ衛生部隊ヲ組織スルニアリテ千九百九年ニハ一萬九千六百二十五ノ會及會員百六十八萬六千九百九十人ノ連合ヨリ成レリ

兵卒ノ基督教協會

此ノ會ハ衛戍地及野營地ニ於テ兵卒ノ集會遊戯教育及德育ニ資ス可キ場所ヲ設クルニ在リ

赤十字協會

此ノ協會ハ病院及患者輸送縱列ノ編成ノ爲ニ職員ヲ養成シ材料ヲ準備スルモノニシテ擔架手看護人ノ志願者ニ學術及實地ノ教育ヲ爲ス而シテ甚タ盛大ニシテ七十萬人ノ贊成者及莫大ノ資本金ヲ有セリ

獨逸自働自轉車團

本團ハ自働自轉車手ヲ募集シ且教育シ動員ノ際ハ志願者ハ各自ノ自働自轉車ヲ持參シテ從軍ス

飛行協會

此ノ協會ノ目的ハ空中飛行ニ對スル利益増進ヲ圖リ且空中飛行ニ關スル諸問題ノ解決ニ從事スル所トス

「バルゼバル」協會

此ノ協會ハ政府ノ保護ヲ受ケテ箇人ノ設立スルモノニシテ其ノ目的ハ誘導氣球ヲ製作シ且發賣スルニアリテ全ク自己ノ商業的發展ニ力ヲ盡シ陸軍ニ對シ何等ノ責任ヲ負フコトナシ

「ツエツペリン」協會

此ノ協會ハ政府ノ保護金ト公衆ノ餼金トニヨリテ維持セララルモノニシテ同シク誘導氣球ノ製造及其ノ發展ニ盡力ス

第十一節 兵器、彈藥、糧食

步兵 歩兵ハ千八百九十八年式銃ヲ使用ス此ノ銃ハ口徑七密九ニシテS彈丸

ノ藥筒ヲ用ユ詳細ハ卷末附表ヲ參照ス可シ

千九百八年式自働拳銃ハ其ノ口徑九密米ナリ

軍刀ハ新式歩兵將校刀ト稱シ將校曹長及副曹長之ヲ佩用ス見習士官大隊鼓手長

モ亦千九百八年式自働拳銃ヲ携帯ス

機關銃ニハ二式アリ一ハ機關銃隊ニ於テ他ハ同中隊ニ於テ之ヲ用フ共ニマキシ

▲式ニシテ同二ノ彈藥ヲ用フ兩者ノ異ナル所ハ中隊用ノモノハ重量少クシテ堅

牢ナルニ在リ

機關銃ハ銃架上ニ置カルト雖モ取離スコトヲ得

機關銃ノ每單位(隊又ハ中隊)ハ機關銃六挺及彈藥車三輛ヲ有ス機關銃車ニハ約一

萬發ノ藥筒ヲ備ヘ各彈藥車ニハ約一萬五千發ヲ備フ隊ノ銃手ハ乘車ニテ行進シ

中隊ノ銃手ハ徒歩ナリ

機關銃ハ一分間ニ約三百發ヲ發射ス

機關銃隊ノ乘馬セサル者ハ獵兵ノ銃劍及騎銃ヲ携帯シ乘馬スル者ハ砲兵ノ軍刀
及自働拳銃ヲ佩用ス

機關銃中隊ノ銃手ハ歩兵ノ武裝ヲナス

騎兵 騎兵ハ總テ一様ノ武裝ヲナシ長三米二〇ノ鋼製槍及軍刀ヲ携帯ス下士

ハ槍軍刀拳銃ヲ佩用シ喇叭手ハ槍ヲ有セス

將校ハ軍刀及自働拳銃ヲ携帯ス

新式騎銃ハS號彈丸ヲ用ヒ照尺ハ二千米マテノ度ヲ刻ミ一米一〇ニシテ重量三

吉瓦五〇〇ナリ藥筒ヲ收ムル部分ハ木ヲ以テ被フ銃劍ハ目下調製分配中ナリ

野戰砲兵 砲手及馭者ハ千八百八十三年式連發銃ヲ用ヒ其ノ口徑十密六ナリ

現今砲手ハ騎銃ヲ使用スレトモ將來ハ寧ロ拳銃ヲ以テ代ヘラルルニ至ラン下

士及馭者ハ彎形軍刀ヲ使用シ砲手ハ直刀ヲ佩用ス銃劍ノ長ハ五十六密米五ト

ス

野砲ノ諸元ニ關シテハ卷末附表ヲ參照ス可シ

徒歩砲兵 徒歩砲兵ハ口徑及式ヲ異ニセル各種ノ火砲ヲ使用スルモ茲ニハ軍

團ノ重砲兵及攻城砲兵ノ使用スルモノミヲ舉ケン

十五珊米野戰榴彈砲 砲身ハ砲架上ニアリテ防楯ヲ有セス鋼製ノ爆裂彈

ヲ用ヒ其ノ重量ハ三十九吉瓦五〇〇ニシテ爆裂藥七吉瓦三〇〇ヲ藏ス此ノ爆裂

彈ハ物體ニ衝突スルトキハ破裂スル信管ヲ具ヘ外被ハ藍色ニ染メラル

二十一珊米白砲 砲床上ニ於テ發射スルコトヲ得ルノミニシテ鋼製ノ長キ

爆裂彈ヲ發射シ其ノ砲彈ノ重量ハ百二十吉瓦ニシテ物體ニ衝突シテ破裂ス

十珊米加農 長速射砲ニシテ十珊米六ノ口徑ヲ有シ砲架上ノミニ於テ後坐ス

砲彈ハ十一瓦ノ彈子六百八十箇ヲ藏シタル十八吉瓦ノ榴霰彈及爆裂藥ヲ藏シタ

ル同重量ノ爆裂彈ナリ

十五珊米加農 四十一吉瓦榴霰彈及同重量ノ爆裂彈ヲ發射ス

工兵及交通兵 工兵及交通兵ハ千八百九十八年式銃ヲ用ヒ銃劍ハ千八百九

十八—千九百五年式ニシテ刀背ハ鋸齒形ヲナス

將校ハ步兵將校ノ武裝ニ同シ

輜重兵 槍ヲ除キ他ハ騎兵ト同一ノ武裝ヲナス

器具

步兵 步兵中隊ノ携帶器具ハ匙子百箇、鶴嘴鋤十箇、斧五箇ニシテ大隊毎ニ匙子

二十箇、鶴嘴十箇、斧十四箇、鎚八箇ヲ備ヘ三箇大隊ノ一箇聯隊ニハ器具總數千五百

三十六箇アリ

騎兵 騎兵ハ一箇聯隊ニ付キ馱載器具トシテ小斧四十八箇、匙子三十二箇ヲ又

車載器具トシテ匙子八箇、鶴嘴四箇、斧八箇、爆裂彈藥筒三十二箇、雷管四十箇、細繩四

十本ヲ備フ

各騎兵師團ニハ以上ノ外二箇ノ砲兵車輛上ニ騎兵師團工兵小隊ノ器具ヲ積載ス

工兵 工兵ハ中隊毎ニ携帶器具トシテ匙子百十箇、大鶴嘴五十五箇、小鶴嘴八十

五箇、斧五十九箇ヲ有シ尙ホ火坑手ノ器具及爆裂藥ヲ運搬スル車輛各一輛アリ

彈藥

步兵 步兵卒ハ各S號彈藥筒百五十發ヲ携帶シ中隊ノ車輛ハ各兵ノ爲メ八十

發ヲ運搬シ彈藥縱列ハ百五十五發ヲ運搬ス其ノ合計三百九十發トス

騎兵 騎兵ノ各兵卒ハ四十五發其ノ彈藥縱列ハ十發ヲ有シ合計五十五發トス

機關銃隊 銃車及彈藥車ニハ一機關銃ニ付キ一萬四千四百五十發ノ彈藥筒ヲ有ス
 砲兵 七十七密ノ火砲ハ一中隊ニ付百三十發、輕縱列ハ百二發、彈藥縱列ハ百三十九發、合計三百七十一發ノ彈藥ヲ有ス
 百五密米榴彈砲ハ一中隊ニ八十六發、輕縱列ニ六十七發、彈藥縱列ニ七十一發、合計二百二十四發ノ彈藥ヲ有ス
 十五瓏米榴彈砲ハ一中隊ニ七十二發、輕縱列ニ五十四發、彈藥縱列ニ三百六發、合計四百三十二發ヲ有ス

第十二節 被服及裝具

軍裝 歩兵及騎兵ハ灰綠色ノ制服ヲ着用シ兜ハ同色ノ被ヲ有ス
 歩兵ノ裝具及携帶品 被服及兵器以外ノ携帶品ハ一吉瓦五七ノ重量ヲ有スル背囊、○吉瓦三五ノ麵粉囊、○吉瓦三三ノ帶革及劍、○吉瓦五四ノ彈藥盒、○吉瓦四六ノ炊具、○吉瓦三〇ノ水筒、一吉瓦五ノ靴、三吉瓦三ノ糧食トス即チ荷物、兵器及彈藥ノ總重量ハ十九吉瓦四ニシテ此ノ外天幕ヲ加フレハ二十一吉瓦ニ達ス

各聯邦軍隊ハ其ノ制服ノ細目(兜ノ飾及徽章等)ニ於テ差異ヲ有ス
 馬裝 騎兵ノ軍裝ハ暗褐色皮製ノ鞍、前橋ニ二箇ノ鞍囊、鞍骨帶ノ右側ニ第三ノ鞍囊、保劍、蹄鐵囊、外套、燕麥囊ヨリ成ル

第十三節 戰時國軍大單位ノ編組

軍

動員ニヨリテ編成セラレタル軍ハ左ノ如ク編組セララル

軍司令部一

數箇ノ軍團、一箇又ハ數箇ノ騎兵師團、獨立若クハ軍團ニ編成セラレタル豫備師團若干

普通電信及無線電信ノ一隊

軍重砲兵隊一箇

自働車隊一箇

軍團

軍團ノ數ハ二十三箇ニシテ戰時一軍團ハ左ノ如ク編組セラル

- 一 軍團司令部一
- 二 歩兵二箇師團
- 三 師團編入外ノ部隊即チ工兵中隊一、軍團架橋輜重一、電信隊一
- 四 彈藥諸縱列即チ歩兵彈藥縱列四、砲兵彈藥縱列八ニシテ同一ノ二梯隊ニ區分ス
- 五 輜重即チ糧食縱列六、車廠縱列(糧食縱列ナリ)六若クハ七、馬廠二ニシテ略同
一ナル二箇ノ群ニ區分セラル
- 六 野戰病院十二箇
- 七 野戰製麵砲縱列二箇
右ノ外時トシテ左ノモノヲ屬ス
- 八 野戰重砲兵一隊(重榴彈砲四門編成ノ四中隊輕縱列一、彈藥縱列八)
尙ホ臨時左記ノモノヲ配屬スルコトアリ
- 九 氣球一隊

十 工兵一大隊

歩兵師團

歩兵師團ハ總數四十八箇ニシテ戰時一師團ハ左ノ如ク編組セラル

師團司令部一

歩兵二旅團

騎兵三若クハ四中隊

野戰砲兵一旅團(十二中隊、彈藥輕縱列四箇)

工兵一中隊及架橋輜重一

衛生一中隊

右ノ外各軍團ノ第一師團ハ獵兵一大隊及第二野戰病院ヲ有ス又軍團内ノ何レカノ師團ニ於ケル砲兵旅團内ノ一聯隊ハ輕榴彈砲大隊ヲ有スルモノトス

騎兵師團

平時ニ於テハ騎兵一師團アルノミ此ノ師團ハ近衛騎兵ヲ含ミ二箇聯隊編制ノ二旅團ヨリ成レリ

戰時騎兵師團ハ左ノ如ク編組セララル

騎兵師團司令部一

騎兵三旅團(各四中隊編成ノ聯隊二箇ヨリ成ル)

機關銃隊一箇

騎砲兵一大隊(二中隊編成)及輕彈藥縱列一箇

工兵ノ一隊(馬車又ハ自轉車ニ乗ル)

信號兵ノ一隊

後備混成旅團

後備混成旅團ハ左ノ如ク編組セララル

歩兵六若クハ八大隊

騎兵一中隊

砲兵三中隊及輕彈藥縱列一

第十四節 平戰兩時ノ兵數

戰時擧ケ得ヘキ總兵力ハ約三百萬ト算セララル
豫算上ノ定員 豫算上ノ定員ハ千九百十一年ヨリ千九百十六年ニ亘ル五箇
年期内ニ於テ五十一萬五千三百二十一人ヲ有ス可シ但此ノ人員中ニハ下士及一
年志願兵ヲ含マス
千九百十五年ニ於ケル平時人員ノ總計ハ陸軍約六十二萬五千人ニ達ス可シ

「ドミニカン」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ドミニカン」共和國 第一章 國勢ノ概要

「ドミニカン國ハ西印度諸島中ニアル共和國ニシテ其ノ憲法ハ千八百四十四年十一月十八日ノ制定ニ係リ自後數回ノ改訂ヲ經タル後今日ニ至レリ其ノ最新ノ改訂期ヲ千九百八年四月一日トス

該憲法ニ依レハ立法行政司法ノ三權ヲ分立シ國民議會ハ立法權ヲ掌握セリ議會ハ上下兩院ヨリ成リ上院議員ハ六年ノ任期ヲ以テ各州ヨリ一名宛選舉シ合計十二名アリ二年毎ニ其ノ三分一ヲ改選ス下院ハ四年ノ任期ヲ以テ人口ニ比例シテ間接選舉法ニ依リ選出セラル

大統領ハ行政權ヲ總轄シ六年ノ任期ヲ以テ間接選舉法ニ依リ選出ス内閣各省ノ名稱左ノ如シ

内務及警務省

外務省

大藏及商務省

陸海軍省

司法省

工部及通信省

農務及移民省

司法ニ關シテハ首府ニ高等法院ヲ設ケ又控訴院二箇ヲ首府及「サンチアゴ」ニ設置セリ其ノ他ノ各地方ニハ地方裁判所ノ設ケアリ
地方行政ノ爲メ全國ヲ十二縣ニ區分シ各縣ハ大統領ノ任命スル知事ヲシテ統治

セシム

第二節 面積人口

「ドミニカン」共和國ハ「サン、ドミンゴ」島ノ東部大半ヲ占メ全面積一萬九千三百二十五方哩(四萬八千五百七十七方吉米)人口六十七萬三千六百一十一人ヲ有セリ即チ面積ニ於テ我カ約十三分ノ一、人口ニ於テ我カ約百分ノ一ニ相當セリ

第三節 一般豫算及陸軍費

千九百九年度ニ於ケル一般豫算合計約九百六萬四千六百四十五圓ニシテ内陸海軍費ハ百四十三萬三千百四十六圓ナリ

第一章 陸軍

國民ハ千九百一年發布ノ徵兵令ニ依リ總テ護境兵タルノ義務アリ

正規軍トシテ「サント、ドミンゴ」ニ駐屯セル野戰砲兵六中隊ノ外各縣知事ノ統轄下ニ屬スル護境兵若干アリ千九百十年度ニ於テ平時陸軍兵力約千三百名(内九百六人ハ護境兵ニ屬ス)ヲ算セリ
戰時兵力詳ナラサルモ約二萬五千ヲ徵集シ得ルモノノ如シ

智利共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

智利國ハ立憲共和制ナリト雖モ伯刺西爾又ハ亞爾然丁ノ如ク地方分權制ニ據ラ

スシテ國內ヲ單一ノ政治系統トナシ總テノ政權ヲ中央ニ集結セリ
中央政權ヲ分テ三トナス即チ立法、行政及司法權是ナリ
立法權ハ之ヲ國會ニ委任セリ國會ハ上下兩院ニ分チ兩院議員共ニ人民ノ直接選舉ニ據ルモノトス

下院議員ハ其ノ任期三年ニシテ人口三萬人ニ對シ一人ノ比ヲ以テ選出シ目下九十四人アリ上院議員ハ六年ノ任期ヲ有シ下院議員三人ニ對シ一人ノ比ヲ以テ選出シ三年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス目下議員數三十二人アリ

大統領ハ最高行政權ノ委任ヲ受ケ其ノ補佐トシテ六大臣及一參議院ヲ設ク
内閣六省ノ名稱及區分左ノ如シ

- 一 內務省
 - 二 外務省
 - 三 軍務省
 - 四 司法及文部省
 - 五 大藏省
 - 六 工務及產業省
- 參議院ハ十一人ヨリ成リ内六人ハ國會ニ於テ選舉推薦シ五人ハ大統領ノ直選任命トス

大統領ハ五年ノ任期ヲ以テ間接選舉ニ依リ選出セララルモノニシテ連續再選ヲ

許サス
當國ノ裁判官ハ他國ト異ナリ絶對的ニ孤立シタル獨裁權ヲ有ス而シテ法官ハ凡
テ大統領ノ任命スル所タリ首府ニ高等法院ヲ設ケ全國ノ裁判權ヲ主宰ス
控訴院六箇ハ首府及其ノ他ノ市府ニ分置シ又各地方ニ數多ノ地方裁判所ヲ設置
セリ

全國ヲ二十二縣ニ地方ニ區分シ大統領ノ任命セル知事ヲシテ之ヲ統治セシム

第二節 面積、人口

當國ハ南米大陸ノ西南部太平洋岸ニアル狹長ナル共和國ニシテ其ノ總面積二十
九萬千五百方哩(七十五萬八千二百六方吉米)ヲ有シ我カ國ノ面積ヨリ大ナルコト
約三萬方哩ナリ

國民ハ白人混血種及印度人ノ三種ニシテ總人口三百二十四萬九千二百七十九
人ヲ算ス白人種ハ西班牙人大部分ニシテ英獨佛人之ニ次キ全人口ノ三分一強ヲ占
メ主トシテ海岸地方及都市ニ居住シ印度人ハ約四分一ニシテ深ク内地ニ棲息セ

リ

憲法上羅馬舊教ヲ以テ國教ト定ムト雖モ國民ハ一般ニ信仰ノ自由ヲ有セリ
國民教育ハ南米ノ他邦トハ全ク異ナリ自由教育制ヲ採用シ兒童ノ就學ヲ強制セ
サルノミナラス國家ノ安寧及道德ニ背反セサル範圍内ニ於テ學科ノ選定ヲ放任
セリ千九百一一年度徴兵検査時ノ統計ニ依レハ該年度適齡者中百分七十八文筆ノ
能力ヲ有セサルシト雖モ今日ニ於テハ少クモ全人口ノ百分四十八ハ教育ノ素養ヲ
有スト云フ

第三節 一般豫算及軍事費

千九百九年度ニ於ケル歳出豫算 一二七、三六七、三九三圓
陸海軍豫算 二九、四一五、一〇三圓

第二章 陸軍

第一節 中央統轄機關

大統領ハ平戰兩時ニ於ケル陸海軍ノ最高統帥權ヲ委任セラレ宣戰平和ノ布告ヲ爲スノ權ヲ有ス而シテ軍務省ハ陸軍部及海軍部ニ區別シ軍務大臣ハ徵兵、編制、教育、國防、武器被服、衛生、軍律其ノ他凡テノ軍事行政ニ關スル事項ヲ掌リ左ノ五局二課ヲ設ケ省務ヲ分掌セリ

- 一 官房局
 - 二 軍務局
 - 三 軍政局
 - 四 法務及恩賞局
 - 五 人事局
 - 六 馬政課
 - 七 衛生課
- 右ノ外陸軍省ニ直屬スル機關左ノ如シ
- 監軍部
 - 參謀本部
 - 各師團司令部
 - 陸軍材料局

監軍部ハ陸軍全般ノ教育事務ヲ擔掌シ年年監察シタル教育上ノ報告書ヲ軍務大臣ニ提出ス

參謀本部ハ戰爭準備軍隊ノ編制後方勤務及動員ニ關スル計畫年度ノ演習計畫、軍用鐵道ノ使用、築城計畫、徵募事務、參謀將校ノ人事、外國諜報等ヲ掌リ總務局、謀報局、輸送局、測量局及戰史課ニ分テリ

第二節 地方統轄機關

全國ヲ四師管ニ分チ各師管ニ之ト同一番號ノ師團ヲ斗箇宛配布シ各師團長ヲ以テ當該師團ノ長官タラシム即チ師團長ハ部下諸團隊ノ指揮、教育、訓練及軍紀、風紀ノ維持等ニ關シ責任ヲ有スル外尙ホ各師管内ニ於ケル徵兵及豫備兵ニ關スル事務ヲ擔任シ且其ノ管内ノ保安ヲ維持ス

第三節 兵役

千九百一一年全國皆兵ノ義務兵役制度ヲ用ヒ男子滿二十歳ヨリ四十五歳マテ二十

五箇年間各種兵役ニ服スル義務ヲ負ハシム其ノ兵役ノ種類左ノ如シ

現役

二十歳ヨリ二十一歳マテ一箇年間

第一豫備役

現役ヲ終リタル後九箇年間

第二豫備役

第一豫備役ヲ終リタル後四十五歳ニ達スルマテ

第四節 平時編制

陸軍ハ步兵騎兵野戰砲兵騎砲兵要塞砲兵輜重兵機關砲隊鐵道隊及圍境守備獵歩兵ニ區別ス此ノ各隊ノ平時編制左ノ如シ

一 步兵

步兵ノ最大單位ハ旅團ニシテ一旅團ハ二又ハ三聯隊、一聯隊ハ二大隊(戰時ハ三大隊)一大隊ハ二乃至四中隊(戰時ハ四中隊)ヨリ成ル

二 騎兵

騎兵ノ最大單位ハ旅團ニシテ一旅團ハ二又ハ三聯隊、一聯隊ハ三又ハ四中隊(戰時ハ四中隊)ヨリ成ル

三 野戰砲兵

野戰砲兵ハ稀ニ旅團ヲ編成スルコトアリト雖モ通常ハ聯隊ヲ最大單位トシ一聯隊ハ二大隊、一大隊ハ二又ハ三中隊、一中隊ハ六門編成ナリ

四 騎砲兵

騎砲兵一聯隊ハ二大隊、一大隊ハ二中隊ヨリ成リ一中隊ハ六門編成ナリ

五 徒歩砲兵

徒歩砲兵ハ要塞砲兵ノ一種類ニシテ大隊ヲ以テ最大單位トシ一大隊ハ二乃至四中隊、一中隊ハ六門編成トス

六 工兵及其ノ他

工兵ハ中隊ヲ以テ最大單位トシ稀ニ大隊ニ編成スルコトアリ

鐵道隊ハ大隊編成ニシテ一大隊ハ二中隊ヨリ成ル

輜重兵ハ中隊ヲ以テ最大單位トシ稀ニ大隊ニ編成スルコトアリ

機關砲ハ四門編成トス

獵歩兵ハ印度人ノ志願者ヨリ成ル所ノ不規兵ニシテ「アンデス」山嶺中各處ニ配

備分屯シテ通路ノ監視ニ任ヌ
陸軍ノ最高單位ハ師團ニシテ平時全陸軍ヲ四箇師團ニ編成セリ一師團ノ編制左
ノ如シ

師團司令部

歩兵二旅團(四聯隊—八大隊—十六中隊)

騎兵一聯隊(四中隊)

野戰砲兵一聯隊(四中隊)

工兵一中隊

輜重兵一中隊

但第二師團ハ騎兵一旅團(三聯隊)砲兵一旅團(山砲一聯隊及騎砲兵一聯隊)ナルヲ異
ナリトス又第三師團ハ歩兵一旅團ヲ缺ク

第五節 平時兵力

平時兵力左ノ如シ

歩兵十六聯隊

騎兵六聯隊

野砲兵二聯隊

山砲兵二聯隊

騎砲兵一聯隊

徒歩砲兵二大隊

工兵四中隊

鐵道隊一大隊

機關砲隊二隊

輜重兵四中隊

獵歩兵若干(四、五中隊)

合計一萬七千三百三十二人

第六節 要塞

太平洋岸ニ於ケル重要ナル地點ニ海岸要塞ヲ築設シ徒歩砲兵ヲ配備シ重輕砲ヲ備置セリ即チ徒歩砲兵一大隊ハ「ヴァアルバライソ」港ニ他ノ一大隊ハ「コンセブシヨ」ニ駐屯シ之ヨリ各所ノ要塞ニ分屯セシメアリ各要塞所在地左ノ如シ

「イキタ」

「アントフアガスタ」

「カルデラ」

「ヴァアルバライソ」

「タルカウアノ」

「バイヤ、デアラウコ」

「ヴァアルヂヅイア」

「タルカウアノ」及「バイヤ、デアラウコ」ノ二要塞ハ「コンセブシヨ」市ノ近傍ニアリ

第七節 教育及學校

年年徵募スル兵卒ニ對シ同一ノ年次教育ヲ反覆シ諸方式ヲ獨逸ニ範リ獨逸留學

將校ヲ各隊ニ配布シテ其ノ教官タラシム

陸軍諸學校左ノ如シ

陸軍大學校

陸軍士官學校

陸軍下士學校

陸軍砲工學校

陸軍乘馬學校

陸軍射擊體操學校

陸軍大學校ハ參謀本部ノ直屬ニシテ陸軍各兵科將校ニ高等軍事教育ヲ授ケ高等指揮官、陸軍省及參謀本部將校、高等官衙副官及教官ヲ養成スルヲ目的トシ毎年十五名ヲ限リ試験ノ止入學セシム其ノ在學期ヲ二箇年トス

陸軍士官學校ハ陸軍各兵科初級士官ヲ養成スル所ニシテ其ノ在學期ハ四箇年トス

陸軍下士學校ハ下士ヲ養成並下士官ノ子弟ヲ官費ヲ以テ教育シ陸軍官衙ノ書記

ニ養成スルヲ目的トス
 陸軍砲工學校ハ徒歩砲兵及工兵ノ初級將校ヲ學生トシ特別專門ノ教育ヲ施ス所
 ニシテ其ノ在學期ハ九箇月トス
 陸軍乘馬學校ハ陸軍乘馬兵種ノ將校ニ馬術ヲ完全ニ教育シ且騎兵科將校ニ軍用
 電信術ヲ教授ス
 陸軍射撃體操學校ハ小銃及火砲ノ射撃術並體操術ヲ將校ニ教育スルヲ目的トシ
 其ノ在學期ハ體操科ハ六箇月小銃射撃科ハ五乃至六週火砲射撃科ハ五乃至六週
 トス

第八節 戰時編制及戰時兵力

師團編制ハ平時戰時ヲ通シテ同一ニシテ唯平時ハ各兵種各隊内ノ人員及中隊數
 ヲ約二分一乃至三分一ニ減小シ戰時動員ニ際シ豫備兵ヲ召集シテ其ノ隊數ヲ充
 實スルニ止マリ新ニ各兵種ノ隊數又ハ師團數ヲ増加セサルカ如シ例ヘハ平時歩
 兵一聯隊ハ二大隊、一大隊ハ二中隊ヨリ成ルト雖モ戰時ニ於テハ之ヲ三大隊、一大

隊ハ四中隊即チ平時ノ約三倍ニ増加ス加之各隊ノ人員モ戰時ニ至ラハ二倍乃至
 五割増トナル可シ

戰時兵力詳ナラスト雖モ約十五萬人ヲ動員シ得ヘシ

「リベリヤ」

第一章 國勢ノ概要

自由共和國ニシテ憲法ハ千八百四十七年六月二十六日ノ制定ニ係リ元老院ハ任
 期四年及八年ノ選舉議員ヨリ成リ大統領ハ一般選舉ニヨリ任期四年トス

面積 九萬五千四百平方吉米

人口 約百五十萬人

豫算 千九百八九年度ニ於テ歳入三十五萬五千二百九ドル(「ドル」ハ我カ約二
圓ニ當ル)ヲ算セリ

第二章 陸軍

武器ヲ採ルニ堪ユル男子ハ凡テ十六歳ヨリ五十歳ニ至ル間國防勤務ニ當ルノ義
務アリ而シテ平時民兵ニ旅團五聯隊ヲ有シ約二千人ノ幹部員アリ

羅馬尼亞

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

憲法ハ千八百八十四年六月八日及二十日ニ制定セラレタルモノナリ
行政權ハ國王ニ屬ス
議會ハ上下兩院ニ分タル上院議員ハ百二十名ニシテ當然議員タル可キ高等官並
納稅者選舉團ヨリ選出シタルモノヨリ成リ下院ハ議員百八十三名ニシテ一般國
民ヨリ選舉セラレタルモノトス

第二節 面積、人口

面積十三萬一千三百五十三平方吉米、人口五百九十五萬六千六百九十人(千八百九
十九年末調)ニシテ一平方吉米ニ於ケル密度ハ四十五人ニ當ル

豫算

豫算年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ルヲ一期トナス
千九百十一年度ニ於ケル總歳出ハ四七八三九五、二三〇、レイ(「レイ」ハ我カ約三十
八錢ニ當ル)ニシテ其ノ内軍事費ハ六九、二七八、六六八、レイナリ

第二章 陸軍

第一節 中央統轄機關

軍ノ最高統帥ハ國王ナリ

高等軍事會議

高等軍事會議ノ議長ハ國王ニシテ時ニ陸軍大臣ニ議長ヲ委任セララルコトアリ
議員ハ參謀總長軍團長二名「ブカレスト」知事 *Seeth* 要塞司令官監軍陸軍次官ヲ以
テ之ニ充ツ

陸軍省

陸軍省ノ編制左ノ如シ

總務部

參謀本部 參謀總長ハ陸軍大臣ニ隸シ中將若クハ少將ヲ以テ之ニ任ス次長ア
リ大佐トス參謀本部ヲ二部ニ分ツ即チ左ノ如シ

第一部 更ニ之ヲ三局ニ分ツ

第一局 人事、學校

第二局 編制及動員

第三局 作戰、教育、典令、戰史

第二部 更ニ之ヲ二局ニ分ツ

第一局 外國軍、兵站

第二局 輸送

測量部

監督局

諸兵總監部 諸兵總監部ハ之ヲ七局ニ分ツ即チ步兵、騎兵、砲兵、工兵、船舶、衛生、經
理局之ナリ

監軍部

監軍部ハ人事ヲ掌握シ進級ニ關スル取扱ヲナス監軍部ニ數箇ノ會議ヲ屬ス

第二節 兵役法

兵役ハ義務兵役ニシテ代人ヲ許サス
千九百十年三月ノ徵兵令ニ依ルニ全兵役期間ハ二十一歳ヨリ四十二歳ニ至ル間
ニシテ壯丁ノ一部分ヲ常備軍ニ充當ス但其ノ決定ハ抽籤ニ依ルモノトス

常備兵役

常備兵役ヲ分チテ現役及豫備役トナス其ノ全期限ハ七年ニシテ其ノ内現役ハ歩
兵ハ二年他兵科ハ三年トシ其ノ殘餘ヲ豫備トス

補充兵役

壯丁ノ過剩員若干ヲ補充兵役ニ當テ若干ノ軍事教育ヲ授ケ此ノ役種ニ屬スル者
ハ第一年ニ於テ若干日間召集セラレテ教育ヲ受ケ第二年ニ於テ三十日間召集セ
ラレ自後豫備役ニ入ル

後備兵役

後備兵役ノ期限ハ十年ニシテ勅令ニテ毎年二十五日以内復習召集ヲナスコトヲ
定メタリ

國民兵役

國民兵役ハ其ノ期限ヲ四箇年トス

免役例

大學校生徒ハ現役軍ニ一年間服役スルノミ
教職ニ在ル者ハ平時現役ヨリ免除セララルモ師範學校ニ於テ軍事教育ヲ受クル
モノトス

徵兵員數

千九百十年ニ於ケル徵集兵額ハ四二六五三ナリ(此ノ内六百五十三人ハ海軍ニ編
入セララル)

第三節 將校下士兵卒

階級

下士 我カ國ニ於ケルモノニ同シ軍旗ハ下士之ヲ捧持ス

將校 我カ國ニ於ケルト同シ但步兵大隊長及騎兵中隊長ハLieut.ト稱ス

兵卒

兵卒ハ日日食料手當トシテ四十「バニ」(「バニ」ハ百分ノ「レイ」ヲ受ク
軍人ハ總テ其ノ所屬ニ關シ上官(所屬長官)ニ直接控訴スルコトヲ得其ノ當事者ノ
希望ニ依リ軍團長又ハ陸軍大臣ニ控訴スルモ妨ケナシ

下士

下士ノ補充ハ第一伍長ノ階級ニ於テ四箇月間服役シタル者ヨリ(伍長ハ入隊後四
箇月ニ於テ其ノ階級ヲ有スルヲ得)第二下士豫備學校卒業者ヨリ之ヲ行フ(下士豫
備學校ハ軍團毎ニ一校ヲ設ク)此等ノ下士豫備學校ハ生徒トシテ *Deuhl Monstrei* ニ
在ル幼年學校ノ卒業者、一中隊一人宛ノ割合ニテ指定セラレタル新兵及若干ノ普
通並軍事教育ヲ受ケタル志願兵ヲ採用スルモノトス

再役下士

再役下士ヲ分チテ二トス一ハ教導下士一ハ事務或ハ工事ニ従事スル下士之ナリ
教導下士ハ或ル種ノ試験ヲ受ケタル後 *Plotonieri* ノ稱號ヲ有シ特別進級權ヲ有ス

下士俸給及進級

Plotonieri ハ通常俸給ノ外ニ毎月左記ノ補助ヲ受ク

毎初ノ再服役間(五年) 五十「レイ」

第二回再服役間 六十「レイ」

第三回再服役間 七十「レイ」

右ノ補助額ハ軍隊ニ居住シテ家族ヲ離隔シアルモ將タ亦市内ニ家族ト同居スル
モ其ノ妻子ノ爲ノ扶育料トシテ支給セララルモノトス
他ノ下士ハ俸給ノ外左ノ補助ヲ受ク

第一回再服役間 十五「レイ」

第二回再服役間 二十「レイ」

第三回以上再服役間 三十「レイ」

將校

將校ノ補充法三アリ

第一 陸軍士官學校ヨリスル者ニシテ該校ノ生徒ハ國立中學校ヲ卒業シタル
十八歳乃至二十歳ノ青年軍人ノ子息ヲ教育スル幼年學校卒業者及下士ニシテ
服役一年以上ヲ有シ學術證明書ヲ持チ年齢二十六歳以下ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

士官學校ニ於ケル修業年限ハ二年トス

第二 歩騎兵科ノ下士ニシテ競争試験ニ合格シタル者ヲ速成士官學校ニ入學セシメ修業一年ノ後將校ニ任命ス

第三 臨時豫備將校ヲ採用スルコトアリ

士官學校ハ三アリ即チ「アカレスト」歩兵士官學校「タルゴヴィスト」騎兵士官學校及「ブカレスト」特科兵士官學校之ナリ

將校ノ進級

將校ノ進級法ハ故參進級及拔擢進級ノ二トナス然レトモ各其ノ條件ヲ具フルヲ要ス大尉ヨリ少佐ニ進級スルニハ毎回故參進級拔擢進級ヲ交互シテ大尉ハ豫メ進級試験ヲ受クルモノトス歩兵科工兵科ハ合シテ一團トナシ進級ヲ取扱フ少佐以上ノ進級ハ専ラ拔擢ニ依リ大佐ヨリ少將ニ進級スルニハ停年四年ヲ有シ且内二年ハ軍隊ノ長官タルヲ要ス

將校ノ教育

騎兵將校ハ十箇月間騎兵特別教授ヲ受クルヲ要シ砲兵科及特科兵ハ二年間各實

施學校ニ入リテ修學スルヲ要ス此ノ他 Siboziaニ歩兵射擊學校 Mihahu Braoulニ砲兵射擊學校アリ

定限年齢

大尉五十歳少佐五十四歳中佐五十六歳大佐五十八歳少將六十三歳中將六十五歳

公 權

將校ハ上下兩院議員ノ選舉權ヲ有スルモ上院議員ニ選舉セラルルノ權ヲ有スルハ佐官以上トス

著作權

著作ハ總テ參謀總長ノ認可ヲ受ク可キモノトス而シテ陸軍大臣ニ對シテ責任ヲ有スル軍事當局者ノ主宰スル新聞雜誌ニ對シテハ隨意ニ投書ヲナスコトヲ得

補充將校

補充將校ハ現役定限年齢ヲ終リタル後五箇年間ノ將校辭職將校再服役下士ニシテ補充役將校ニ任セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ而シテ補充將校ノ進級ハ少ナクモ現役進級停年ノ二倍ナルヲ要ス

第四節 軍隊

步兵部隊ハ左ノ如シ

三大隊編制ノ步兵三十六聯隊(大隊ハ四中隊ニシテ内一中隊ハ幹部中隊トス別ニ各聯隊ニ補充一中隊アリ)

四中隊編制ノ獵兵九大隊(四中隊ノ内一中隊ハ幹部中隊中隊アリ)

國境護衛兵十中隊

以上ノ步兵中隊ノ平時兵力ハ百十六人ニシテ内四乃至五人ハ將校ナリ幹部中隊ハ步兵ニアリテハ四十人獵兵ニアリテハ八十一名トス

戰時ニアリテハ各聯隊ハ各一箇ノ補充大隊ヲ編制ス獵兵大隊ハ分割シテ聯隊ニ改編ス

後備隊

後備隊トシテ三十六大隊アリ各大隊ノ現役幹部ハ大隊長少佐若クハ大尉一中尉ニ再役下士ニシテ「プロトニエー」ノ稱號ヲ有スルモノ一ニ再役セサル軍曹ニ傳令兵ニ若クハ三書記卒一トス

國民軍隊

國民軍隊ハ約九十六大隊アリ各大隊ノ定員ハ將校二十下士卒千四百四十名ナリ

騎兵

騎兵部隊左ノ如シ

「ロシオリ」騎兵十聯隊(ロシオリ騎兵ハ赤色ノ軍服ヲ著スル輕騎兵ナリ)

四中隊編成ニシテ一補充中隊ヲ有ス戰時獨立スル騎兵五旅團ニ編成セララル(カララシ騎兵十聯隊「カララシ」騎兵ハ黒色ノ軍服ヲ著スル輕騎兵ナリ)

四中隊編成ニシテ一補充中隊ヲ有ス戰時軍團毎ニ一旅團ヲ附ス

護衛騎兵一聯隊

四中隊編成ナリ

機關銃隊六隊アリ各隊ハ二門編成ニシテ之ヲ「ロシオリ」騎兵ノ六箇聯隊ニ配屬ス
平時「ロシオリ」騎兵中隊(常設)ノ定員ハ將校四下士卒百二十馬匹百十ニシテ補充中隊ハ人員四十五馬匹三十五ヲ有ス

戰時ニ於ケル騎兵中隊ノ定員ハ將校五下士卒百六十九馬匹百八十二ニシテ「ロシ

オリ各騎兵聯隊ノ補充中隊ハ教育ノ爲メ平時ヨリ戰時ニ於テ編成ス可キカララシ騎兵聯隊ノ要員ヲ收容ス

野砲、山砲及騎砲兵

野砲兵部隊左ノ如シ

野砲兵十八聯隊

右ハ之ヲ九旅團ニ編成シ各歩兵師團ニ一旅團ヲ配屬ス各聯隊ノ編制左ノ如シ

野砲四中隊

幹部一中隊

榴彈砲一中隊(第一、第二、第三、第四、第六、第十三、第十四ノ七聯隊ノミ)

豫備三中隊(第一、第二、第四聯隊ノミ)

故ニ全數ニ於テ砲兵中隊百六補充中隊十八ヲ算ス

騎砲兵部隊左ノ如シ

騎砲兵一大隊(四中隊編制)

以上ノ諸砲兵ノ平時人員左ノ如シ

野砲兵中隊

將校三若クハ五下士卒百馬匹七十五砲四門

榴彈砲兵中隊

將校四下士卒八十馬匹五十六砲六門

騎砲兵中隊

將校五下士卒百五十六馬匹百五十六砲四門

戰時定員左ノ如シ

野砲兵中隊

將校五下士卒百八十七馬匹百八十砲四門

騎砲兵中隊

將校五下士卒百八十四馬匹二百十七砲四門

幹部砲兵中隊

將校二再服役ニシテ「プロトニエー」ノ稱號ヲ有スル下士一、軍曹二、伍長二、傳令

卒二書記卒一

要塞砲兵

要塞砲兵ハ八及十一中隊ヨリ成ル聯隊ニアリ戰時重砲兵大隊ヲ以テ編成ス

消防隊

消防隊ハ砲兵科ニ屬スルモノニシテ四小隊編制ノ二中隊アリ之ヲ各市府ニ配附ス其ノ經費ハ市府ニ於テ負擔スルモノトス將來自働車ニ裝置シタル消防器ヲ使用スルニ至ル可シ

技術兵

技術兵ト稱スルモノ左ノ如シ

工兵五大隊(各大隊ノ第四中隊ハ電信中隊ナリ)

要塞工兵一大隊(三中隊編制ニシテ補充中隊ヲ附ス)

橋樑兵一大隊(四中隊編制ニシテ補充中隊ヲ附ス)

鐵道兵大隊(四中隊編制ニシテ補充中隊ヲ附ス)

氣球隊

自働車隊

軍用鳩隊

工兵中隊ノ平時定員ハ將校四下士卒百トス

輜重兵

輜重兵五中隊アリ各中隊ハ將校二下士卒約百トス

衛生勤務兵

衛生隊五中隊アリ

經理勤務兵

經理勤務ノ爲メ經理六中隊職工五中隊ヲ有ス

平時兵力ハ約八萬五千人トス

第五節 參謀部及諸勤務

參謀將校ノ補充

參謀將校ノ補充ハ「アカレスト」士官學校出身ニシテ少ナクモ二年間隊長勤務ニ服シタル三十五歳以下ノ尉官中ヨリ採用ス

參謀部ノ編制

軍團 參謀長大佐一、參謀副長中佐一、參謀大尉三、副官大尉一、
師團 參謀長中佐若クハ少佐一、參謀大尉一、副官大尉一
旅團 參謀將校一

監督勤務

監督勤務ハ千九百十年ニ改變セラレタルカ監督官ハ大尉ヨリ少將ニ至ル五階級
ヲ有ス即チ監督監、一等監督、二等監督、三等監督監督補之ナリ

陸軍大臣ノ下ニ監督監二名アリ以テ全軍ノ經理業務ヲ監督ス

軍團ニハ監督部長トシテ一等監督ヲ置ク軍團管下各師團ノ經理業務ヲ監督シ經
理官ノ檢閲金櫃及倉庫ノ査閲工事ノ監督其ノ他軍團經理勤務ノ動員事務ヲ管掌
ス

師團ニハ監督部長トシテ二等監督ヲ置ク師團各隊ノ經理業務ヲ監督シ兼ネテ師
團以外ノ部隊ト雖モ其ノ委托セラレタル範圍内ニアル各部隊ノ經理業務ヲ監督
スルモノトス

總テ監督官ハ各兵科將校及經理官中ヨリ競争試験ヲ以テ採用ス

經理勤務

經理勤務ニ從事スル將校ハ少尉ヨリ少佐ニ至ル四階級ヲ有ス即チ主計正、一等主
計、二等主計、三等主計之ナリ軍隊官衙學校ニ於ケル經理勤務ヲ掌ルモノトス
經理將校ノ補充ハ二法アリ一ハ下士若クハ經理部候補生ヲ收容シテ經理勤務ヲ
教授スル經理學校卒業者ヨリスルモノ、一ハ各兵科將校ニシテ經理官檢定試験ヲ
受ケ之ニ合格シタル者ヨリ採用ス

衛生勤務

衛生部將校ハ少尉ヨリ少將ニ至ル七階級ヲ有ス補充ハ「アカレスト」軍醫學校卒業
者ヨリ之ヲ補充ス其ノ修業年限ハ五年トス

第六節 陸軍以外ニ於ケル國民軍事教育

小學校教師ハ師範學校第六年ノ課程ニ於テ軍事教育ヲ受クルモノトス此カ爲ニ
各師範學校ニハ特ニ現役大尉ヲ附屬ス此ノ將校ハ一年ヲ以テ任期トナス

第七節 兵器、器具、彈藥、被服

兵器

歩兵ハ千八百九十三年式、マンリッヘル銃ヲ用ヒ口徑六密五トス
 騎兵ハ第一戰列タル、ロシオリ騎兵ハ軍刀、槍及拳銃ヲ携行シ第二戰列タル、ロシオリ及カララシ騎兵ハ千八百九十三年式騎銃及刀ヲ携フ
 砲兵ハ野砲トシテ千九百三年式、クルップ速射砲ヲ用ヒ口徑七十五密トス
 榴彈砲ニハ十二珊榴彈砲ヲ用ユ

器具

歩兵ハ中隊ニ圓匙九十六、鶴嘴十六、鋸四、鉄四ヲ有ス
 騎兵ハ中隊ニ圓匙二十五、鶴嘴一、鋤二、斧一、鋸一、英國鎗二、爆藥三十ヲ有ス
 騎兵中隊ニハ伍長一、兵卒五ヲ以テ鐵兵ニ任シ必要ニ際シテハ各中隊ハ鐵兵ヲ出シテ鐵兵隊ヲ編成シ將校ヲシテ之ヲ指揮セシム
 工兵ハ携帶器具トシテ中隊ニ土工具九十六、大工道具二十四、鐵工具八、破壞具五十二ヲ配當ス

別ニ中隊ニ工具車二、爆藥車一ヲ携行ス

橋樑兵ハ中隊ニ百九十七米ノ架橋材料ヲ携行ス此ノ材料ハ三分シテ八十五米宛ノ二班及二十七米ノ一班ニ分テリ車輛總數五十三トス

彈藥

歩兵ノ携帶彈藥ハ百六十發ニシテ中隊車輛ニ各人五十發宛ノ彈藥ヲ有ス
 騎兵ノ携帶彈藥ハ四十發
 砲兵ハ野砲一門ニ對シ中隊彈藥車ニ二百八十八發彈藥廠ニ百四十四發ヲ有ス

被服

歩兵 制服ハ濃青色ニシテ赤色ノ縁ヲ取り釦ハ黃色トス袴ハ灰青色ニシテ帽子ハ黑色羊皮製ニシテ之ニ鷲ノ羽ヲ附シタルモノ或ハ埃國警官ノ用ユル帽子ヲ用ユ外套ハ灰青色ニシテ靴ハ長靴或ハ「オパンカ」ヲ用ユ
 獵兵ハ「チロール」帽ヲ用キ制服ハ栗色ニシテ綠色ノ縁取ヲナス
 騎兵ハ「ロシオリ」騎兵、カララシ騎兵ニ從テ異ナリ「ロシオリ」騎兵ハ赤色上衣ヲ用ユ正裝ノ時ハ匈牙利白色袴、匈牙利長靴、黑色皮製ノ「タルバック」、白色ノ飾毛ヲ附シ

タル帽ヲ用ユ、カララシ騎兵ハ黒色上衣、白色袴、匈牙利長靴、タルバック、及赤色ノ飾毛ヲ附シタル帽ヲ用ユ
砲兵ハ制服ハ栗色ナリ、卸ハ二行ニシテ黄色ナリ、灰色ノ袴、黒色「シャコー」形ノ帽及長靴ヲ用ユ

第八節 戰時編制ニ於ケル大單位並總兵力

戰時五箇軍團ヲ編成シ得ヘシ各軍團ハ司令部步兵二師團、後備一旅團「カララシ」騎兵一旅團ヨリ成ル
師團數八箇アリ各師團ノ編制左ノ如シ

師團司令部

步兵二旅團(三大隊編制ノ步兵二聯隊ヲ以テ旅團ヲ編成ス)

獵兵一大隊

騎兵三中队

砲兵一旅團(二聯隊ヲ以テ一旅團ヲ編成ス)

彈藥廠一

工兵一中隊

衛生隊一

人員ハ一萬四千三百人トス

Dobruza 師團ノ編制ハ司令部步兵一旅團、獵兵一大隊、騎兵一聯隊(四中队編制)、砲兵一旅團(二聯隊編制)ヨリ成リ人員ハ七千七百人トス

後備第十師團ハ平時ヨリ豫メ戰時ニ於ケル師團司令部ヲ準備セリ

第九、第十師團ヲ以テ第五軍團ヲ編成スルモノトス

騎兵師團ハ二アリ師團ハ司令部騎兵二旅團(旅團ハ二聯隊編制ニシテ各聯隊ハ十二中队ヨリ成ル)騎砲兵三中队ヲ以テ編成ス

國民軍師團八箇アリ此ノ師團ハ臨時必要ニ應シテ編成スルモノトス

戰時國軍ノ總兵力概數左ノ如シ

將校 九千人

下士卒 三十萬人

馬 匹 九萬頭
砲 七百門

「ルクセンブルグ」

第一章 國勢ノ概要

歐洲列強ヨリ永久中立ヲ保證セラレアル立憲大公國ニシテ憲法ハ千八百四十八年ニ制定セラレ千八百五十六年千八百六十八年ニ改正セラレタルモノナリ
議會ハ直接選舉ニ依ル五十三人ノ議員ヨリ成リ議員ノ任期ハ六箇年トス
面積 二千五百八十六平方吉米
人口 千九百十年末調ニテ二十五萬九千八百九十一人

豫算 千九百十一年度總歳出ハ千九百九十一萬四千五百六十六法ニシテ中軍
事費ハ六十萬八千六百二十五法トス

第二章 陸軍

左ノ兵力ヲ有スルノミ

憲兵一中隊 將校二下士卒百四十五

志願兵一中隊 將校六下士卒百四十乃至百七十但志願兵中ニハ三十九名ノ樂
手ヲ含有シ又特別ノ場合ニハ志願兵中隊ノ兵力ヲ二百五十人マテ増加スル
コトヲ得